

港区基本計画・芝地区版計画書

改定に向けた

提言書

令和5（2023）年3月 芝会議・地区版計画推進部会

目次

第1章 提言書の概要	1
1 提言書について	2
2 提言一覧	3
3 提言ページの見方	4
第2章 部会からの提言	5
地域事業1 芝地区防災力向上プロジェクト	6
地域事業2 エコ芝 教室	8
地域事業3 ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～	10
地域事業4 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト	12
地域事業5 芝 BeeBee's プロジェクト	14
地域事業6 芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～	16
地域事業7 芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～	18
地域事業8 Arc Island 竹芝	20
地域事業9 芝・ネイチャー大学校	22
地域事業10 地域で支え合う ～アロマネットワーク～	24
2 各地域事業に共通する視点	26
第3章 提言書の作成過程	27
1 地区版計画推進部会の趣旨	28
2 地区版計画推進部会のメンバー	28
3 地区版計画推進部会の開催経過	29
4 港区立御成門小学校の取組（ヒルズ街育プロジェクト）の紹介	30
5 学習会（まち歩き）の開催	31
6 メンバーからのコメント	33
参考資料	37
1 検討会記録（第2回～第12回）	38
2 芝地区の日常	78



第1章 提言書の概要

1 提言書について

港区芝地区総合支所では、6年ごとに、芝地区の独自の行政計画である「港区基本計画・芝地区版計画書（以下、芝地区版計画書という）」を策定しています。

芝地区版計画書は芝地区総合支所が目指す芝地区の将来像“人と地域がつながり心躍る未来をつくるまち「芝」”の実現に向けた方向性と具体的な取組を示しています。

計画期間を令和3年度から8年度とし、3年目に中間の見直しを行っており、令和5年度の改定に向けて、区民の意見を取りまとめたものがこの提言書です。

無作為抽出による公募に応諾された方及び芝地区総合支所が設置する区民参画組織「芝会議」の3部会から推薦された方で構成された区民参画組織「芝会議・地区版計画推進部会」（以下、「部会」という。）が、令和4年4月からの約10か月間議論を重ねてきました。

芝地区版計画書に計上された主な取組のうち、芝地区総合支所で独自に取り組む10の事業（以下、「地域事業」という。）について、丁寧に評価・検証を行い、区民の目線で様々な意見やアイデアを出し合い、まとめたものが提言内容となっています。

<「提言書(本書)」と「芝地区版計画書」の関係>

【令和4年度作成】

提言書

芝地区版計画書の改定に向けた区民意見をまとめたものです。芝地区総合支所の地域事業について検討しました。

No.	地域事業名
1	芝地区防災力向上プロジェクト
2	エコ芝 教室
3	ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～
4	地域をつなぐ！ 交流の場づくりプロジェクト
5	芝 BeeBee'sプロジェクト
6	芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～
7	芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～
8	Arc Island 竹芝
9	芝・ネイチャー大学校
10	地域で支え合う ～アロマネットワーク～

【令和5年度作成】

芝地区版計画書

芝地区総合支所が目指す芝地区の将来像“人と地域がつながり心躍る未来をつくるまち「芝」”の実現に向けた施策の方向性と具体的な取組を示した計画書です。計画期間は6か年で、中間年に当たる3年目に見直しを行います。

年度	計画期間	計画関連作業
R3 (1年目)	前期 ↓	—
R4 (2年目)		提言書作成
R5 (3年目)		後期計画書作成
R6 (4年目)	後期 ↓	—
R7 (5年目)		提言書作成
R8 (6年目)		次期計画書作成

2 提言一覧

No.	地域事業名	ページ番号
かがやくまち	1 芝地区防災力向上プロジェクト	p6
	提言 1 防災住民組織と事業者が相互理解を深め、災害時に協力できる体制の構築	
かがやくまち	2 エコ芝 教室	p8
	提言 1 より多くの方がエコを学べる機会をつくる 2 地域に密着した活動の実施	
にぎわつまち	3 ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～	p10
	提言 1 多方面との接点を増やす取組の実施 2 講座や修了生の活動の場・機会をつくるための内容の公開	
	4 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト	p12
	提言 1 来訪者層のニーズに合わせた活動の展開 2 より利用しやすい場づくりの推進	
	5 芝 BeeBee 'sプロジェクト	p14
	提言 1 多世代交流のさらなる推進 2 活動の話題性を高める取組の実施	
	6 芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～	p16
	提言 1 地域への愛着を深め、多様な区民が参加する取組の再検討	
にぎわつまち	7 芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～	p18
	提言 1 多様な人々のニーズに合わせたコースをつくる 2 知識を継承するための手法づくり 3 部会の活動をより多くの人に発信できる手法の導入	
	8 Arc Island 竹芝	p20
にぎわつまち	提言 1 島しょ部の魅力を活かした竹芝のまちづくり 2 人々が竹芝を訪れたいくなるようなきっかけづくり	
	9 芝・ネイチャー大大学校	p22
はぐくむまち	提言 1 対象者や参加要件のあり方の見直し 2 理解を深めるプログラムの策定 3 芝地区における社会見学の拡充	
	10 地域で支え合う ～アロマネットワーク～	p24
はぐくむまち	提言 1 地域高齢者支え合い講座の対象の拡大 2 アロマを活用した多様な取組の実施	

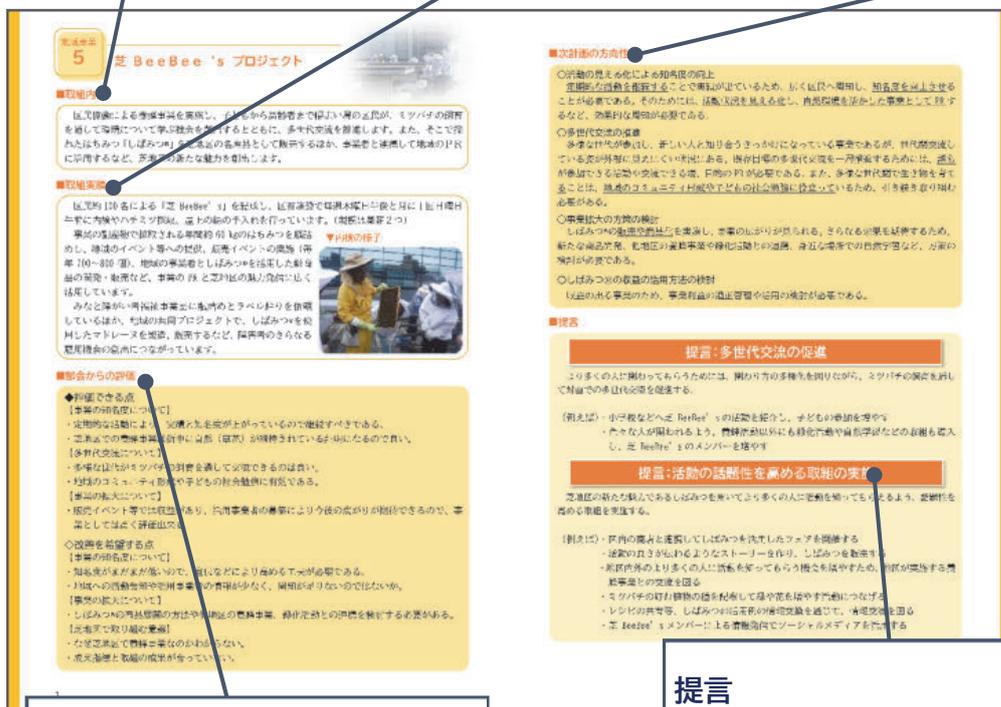
3 提言ページの見方

本提言書は、地域事業ごとに提言を示しており、1つの提言ページは、**取組内容、取組実績、部会からの評価、次計画の方向性、提言から構成**されています。

取組内容
地域事業の概要について記載しています。

取組実績
現在の計画を見直しているため、過年度（R3・R4）の実績について記載しています。

次計画の方向性
部会からの評価を整理し、事業に対して、推進・維持・改善・縮小などの方向性にまとめた内容について記載しています。



部会からの評価
第2回～第6回で出された意見を評価できる点と改善を希望する点にとりまとめています。
次計画の方向性の理由が読み取れるように表現しています。

提言
次計画の方向性を踏まえ、具体的な提言内容をまとめた部分です。
提言の下には提言の説明と取組案を記載しています。

第2章 部会からの提言





■取組内容

震災時における従業員の一斉帰宅の抑制、備蓄品の選定、BCP（事業継続計画）の策定・見直し等、事業者による災害対策を支援するため、芝地区の事業者を対象とするオンライン防災セミナーを実施します。テレワークの普及等、働き方の変化に対応したBCPの策定につながるセミナー内容となるよう工夫し、テレワークを導入している事業者等にも広くPRしていきます。

また、町会・自治会等の地域団体と事業者による防災訓練を実施するなど、地域における協力関係の構築を支援し、芝地区の自助・共助による防災力向上を推進します。

■取組実績

【事業者を対象とした取組】

令和3年度は、芝地区管内の中小企業を対象に、BCPの新規策定や、一度策定したBCPの見直しを支援するためのオンラインセミナーを開催しました。

BCP策定済事業者には、セミナーを1回開催し、33名が参加しました。BCP未策定事業者には、同講義内容のセミナーを2回開催し、145名が参加しました。

セミナー実施後にBCP策定状況等の追跡調査を行いました。約4割の事業者でセミナーの受講が実際に何らかの行動につながっているという結果が得られています。

【地域を対象とした取組】

令和3年度は、各地域防災協議会で避難所運営訓練を実施しています。（計5地区）

主な実施項目：避難所開設、受付設置、本部開設、間仕切りパネル・テント設営等

■部会からの評価

◆評価できる点

- ・オンライン開催により、参加者増の効果があつたので継続すべきである。
- ・受講者の4割が受講後の行動につながっているため、効果のあるプログラムでよい。

◇改善を希望する点

【事業者を対象とした取組】

- ・受講後の行動につながらない事業者もあるため、未策定事業者が策定したくなるコンテンツが必要であり、受講後もフォローが必要である。
- ・BCPという用語がわかりにくく、策定の必要性が伝わっていない。
- ・地区内の事業所数から見ると、もっと参加者を増やす必要がある。
- ・区が事業者に求める役割が見えず、参加事業者数だけでは成果指標として不十分だ。

【地域を対象とした取組】

- ・地域の防災力の向上を図るには、セミナー以外にもやるべきことがあるはずだ。
- ・住民が町会との関わり方がわからないので、関係づくりのきっかけが必要だ。
- ・町会・自治会と事業者の交流が必要ではないか。

【事業自体について】

- ・事業を行った効果が見えにくく、事業費は効果に見合ったものであるべきだ。
- ・成果指標と取組の成果が合っていない。

■次計画の方向性

○現行のセミナーのコンテンツの改善

参加者増の効果があつたため、オンライン開催の継続が必要である。BCPの策定率を向上させるため、事業者が策定したくなる効果的なコンテンツを検討し、受講後もフォローする方法を検討する必要がある。

○現行のセミナーの運営の改善

BCP策定の必要性をわかりやすく伝えるため、告知方法を改善する必要がある。

地区内の事業所数の割に参加者が少ないため、もっと参加者を増やす方策を検討するとともに、セミナー運営にかかる経費を削減すべきである。

○地域での取組の必要性

地域の防災力の向上にはセミナー以外の方法も検討する必要がある。もしもの時に備えて、日頃から住民と地域組織の関係づくりを強化し、町会でもBCPの視点を取り入れた災害時行動マニュアルの作成を検討する必要がある。

災害時には共助しあうことが重要なため、情報交換の可能な仕組みづくりなど、住民と地域組織と事業者の連携を強化する必要がある。

○事業自体の見直し

区として事業者に求める役割を示すため、目的を明確化する必要がある。事業の効果を見える化するため、わかりやすい目標と成果の再設定と可視化が必要である。また、実用的な事業内容の検討が必要である。

■提言

提言：防災住民組織と事業者が相互理解を深め、 災害時に協力できる体制の構築

災害時に備えて、地域全体の防災力を高めておくことが必要なため、防災住民組織と事業者が相互の役割を理解し、協力できる体制を構築する。

(例えば)・事業者側のマニュアルに地域との関わり方を明記するよう促す。

- ・現行の事業者向けセミナーでは、災害時の地域での連携の必要性を伝える。
- ・町会に未加入のマンション管理組合等関係者に災害時行動マニュアルに相当する計画の作成を支援するセミナーを開催する。
- ・災害対策に先進的に取り組む地域組織(マンション)と未実施の地域組織(マンション)の交流を図り防災の取組の手法を共有する。

■事業の様子

▼避難所運営訓練の様子



▼避難所運営訓練の様子





■取組内容

脱プラスチック推進・ごみ減量をテーマに、海洋プラスチックごみ問題について理解を深める講演会や、生活に取り入れやすい取組を紹介するワークショップを区民協働で開催します。

子どもから高齢者まで、誰でも簡単に始められる脱プラスチック生活の学習をとおして、芝地区のエコ意識を高めます。

■取組実績

新しい環境問題として注目されている海洋プラスチックごみ問題に対する意識醸成のため、ワークショップや講演会などをとおして環境問題の普及・啓発を図る事業として令和3年度より開始しました。

ワークショップと講演会は芝会議まちづくり部会が主体となって企画・運営を行い、区内在住・在勤・在学者を対象に行いました。

令和3年度のワークショップでは、「みつろうエコラップワークショップ」を2回（参加18名）、「環境に優しい植物ポット作り」を2回（参加21名）の計4回実施しました。

令和3年度の講演会では、「海洋プラスチック講演会～海のごみ問題について考える～」を1回（参加10名）実施しました。

令和4年度のワークショップでは、「万華鏡づくり」を2回（参加39名）、「ユニランプづくり」を2回（参加33名）の計4回実施しました。

▼みつろうエコラップ ワークショップの様子



■部会からの評価

◆評価できる点

【現取組内容について】

- ・時代に即したテーマである点が評価できる。
- ・誰もが興味を持てる内容から、環境に対する意識の醸成につながっていてよい。
- ・ものを作るワークショップである点が良く、実際に不要となった廃材が活用されていてよい。

◇改善を希望する点

【開催規模について】

- ・参加者自体を増やすとともに、参加者層の幅を広げた方がよいのではないか。
- ・芝地区だけでなく、区全体で取り組むべきである。

【現取組内容について】

- ・みつろうエコラップだけではプラスチックの削減にはつながらないのではないか。
- ・コンビニでプラスチックを使わない運動をする方がよいのではないか。
- ・個々の問題だけでなく、そもそもの根本的な環境問題が理解できる内容があるとよい。

【周知方法について】

- ・本事業の存在を誰も知らないので、活動の周知、周知方法の改善が必要である。
- ・周知にはSNSを活用すべきである。

■次計画の方向性

○開催規模の検討

芝地区のエコ意識を高めることが目的のため、現行のワークショップや講演会の参加者では定員が少なく効果が見えにくい。参加者自体を増やす必要がある。

○プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討

現取組内容は、身近なものを活用して環境に対する意識の醸成になっているものの、プラスチックごみの減量活動に結び付いていない。プラスチック容器のリサイクルや脱プラスチック化など、事業者等の最新の動向を知り、プラスチック問題の本質を考えるきっかけづくりが必要である。

また、具体的な内容のアイデアを考えるため、芝地区内の事業者や学校等の参画を促すべきである。

○効果的な周知方法の検討

事業自体の認知度が低く、活動を知っている人が少ない。エコ意識を高めるにはより多くの人知ってもらうことが重要なため、講演会の内容をオンラインで公開するなど、効果的に周知していくべきである。

■提言

提言：より多くの人エコを学ぶ機会をつくる

ごみを減量し、具体的な行動につなげるため、様々なエコに関する取組を通して多くの人エコを学ぶ機会を創出する。

- (例えば)・区内の既存施設(エコプラザ、プラザ神明の屋上緑化など)を見学する。
- ・大使館へ依頼し、世界の環境保全状況や事業者の取組を学ぶ。
- ・人口データのように日常的に見られるデータを指標にする。
- ・目標の達成状況は港区らしさを活用して、回収したごみの量を東京タワーなどで表現する。

提言：地域に密着した活動の実施

ごみを減らすためにできる具体的な行動を参加者で企画し、活動を実行する。

- (例えば)・参加者が身近でできることを取り上げ、SNS等で発信する。
- ・子どもたちと一緒にプラスチックを使わない方法を考える。
- ・ごみの種類別に指定のごみ袋を導入する。
- ・地域のごみ拾い活動などをとおして、参加者へ啓発を行う。
- ・芝地区地域情報誌やSNSで発信するとともに、ターゲットを絞って呼びかけるなど人の力も使って周知する。
- ・エコライフみなと(有栖川宮記念公園)、廃油や園芸土の回収など、地元密着したイベントに参加する。

■取組内容

地域に関わる一人ひとりが「やりたいことをまちにつなげる」ことで実現する新しい地域づくり（＝ご近所イノベーション）を支援する「ご近所イノベータ養成講座」を実施します。講座をとおして地域コミュニティを活性化し、人と人、組織と組織をつなぐことができる「人財」を養成します。また、講座修了生の活動を支援することにより、長期的な地域コミュニティの活性化と定着を図ります。

■取組実績

芝地区の交流拠点を生かして地域のために活躍できる人財を養成することをめざして、平成25年度より「ご近所イノベータ養成講座」を開始しました。

「ご近所イノベータ養成講座」は講義とワークショップのほか、「芝の家」などでのコミュニティ体験やグループでの地域活動の実践を行い、最終的にはシンポジウムで活動発表を行い、「自分のやりたいことをまちにつなげる」技法を学びます。

令和3年度は、9月から12月にかけて全9回の講座を実施しました。（参加20名）

講座の修了生は、芝の家やご近所ラボ新橋や、町会が運営している「芝のはらっぽ」で、イベントを開催するなど、地域で活躍しています。

▼講義の様子



■部会からの評価

◆評価できる点

【地元との関係づくりについて】

- ・無作為抽出で区民にダイレクトメールを送るのは効果的でよい。
- ・地域コミュニティに参加する方法を学べるのがよい。

【修了生の活動について】

- ・地区版計画推進部会に修了生が参加し、活動を続けている人がいてよい。

【これまでの活動実績について】

- ・活動が10年継続されていることはよい。

◇改善を希望する点

【地元との関係づくりについて】

- ・芝地区の参加者の割合が少ないのではないかと。町会・自治会などに声をかけて、地元の人が参加すべきである。
- ・町会や地域のボランティア、PTAとの関係があまりよく見えない。

【修了生の活動について】

- ・修了生の受け皿が少ないのではないかと。芝の家の活動と修了生の活動の相乗効果があるとよい。
- ・少人数でコミュニティ活性化は難しいのではないかと。修了生のネットワークをつくり、講座の成果が見えるようになるとよい。

【これまでの活動実績について】

- ・修了生の活動が見えず、10年の活動のわりには認知度は高くない。

■次計画の方向性

○地元との関係づくりを強化

芝地区で活躍する人財を育てることが目的のため、芝地区在住・在勤者が参加しやすくなるよう、講座のカリキュラムや周知方法の検討が必要である。

修了生の活動と、町会や地域ボランティア活動とのつながりがよく見えないため、芝地区内の様々な主体（町会、PTA、NPO、事業者等）との連携を推進すべきである。

○修了生へのフォローを推進

ご近所イノベータ養成講座と修了生の活動の場が連携できておらず、修了するとやめる人が多い。修了生のやりたいことができるよう、活動の第一歩を踏み出す場の提供を推進すべきである。

修了生同士が交流し、お互いの活動を紹介しあったり、活動の仲間を募集できるような場があると、活動の共有や参加のきっかけづくりになるため、修了生のネットワークづくりを支援すべきである。

○これまでの活動実績をとりまとめる

活動が10年も継続していることは良いことであるが、認知度がなかなか高まっていないため、これまでの活動実績をとりまとめる必要がある。活動を一般の人にわかりやすく公開し、PRにも活用していくべきである。

■提言

提言：多方面との接点を増やす取組の実施

「ご近所イノベータ養成講座」の修了生によって地域コミュニティが活性化されるよう、芝地区内の様々な主体（町会、学校、NPO、事業者等）との接点を増やす取組を行う。

- （例えば）・ご近所イノベータ養成講座の情報（パンフレット等）を町会の若手や学校、事業者等に届け、情報交換の仕組みづくりを構築する。
- ・講座の講師を町会長に依頼したり、町会向けの講座内容を作成する。

提言：講座や修了生の活動の場・機会をつくるための内容の公開

「ご近所イノベータ養成講座」の内容や修了生の活動を多くの人に知ってもらい、地域での活動が継続できるよう、講座の内容や活動実績を取りまとめて公開する。

- （例えば）・シンポジウムの受講生によるプロジェクト発表を動画配信する。
- ・講座の内容を具体的に表現したり、修了生の取組（月1回の情報交換会の様子や活動内容、活動場所、時間等）をSNS等で紹介する。

■事業の様子

▼講義の様子



▼集合写真



▼修了生の活動の様子





■取組内容

子どもから高齢者まで世代を問わずつながり、交流できるプラットフォームを運営します。誰でも気軽に立ち寄れるよう、内と外をシームレスな空間にするなど、地域に開けた空間づくりを推進します。また、オンラインイベントの開催や、地元町会と連携したコミュニティガーデンの運営など、新しい取組を推進することにより、新たな来場者やイベント参加者を含めた多様な交流を一層促進します。

■取組実績

昭和 30 年代にあったようなあたたかい人と人とのつながりの再生を目指して、地域コミュニティを育むための場として、2008 年より事業が始まりました。コミュニティづくりの拠点として、「芝の家」、「ご近所ラボ新橋」を設置・運営しています。

【令和3年度の実績】

施設名	開室日	利用者数
芝の家	通算開室日数：213 日（休室日：日曜・月曜・祝日） 毎週水・金曜日（正午～午後5時） 毎週火・木曜日（午前11時～午後4時） 毎週土曜日（正午～午後5時）	6,119 人
ご近所 ラボ新橋	通算開室日数：142 日（休室日：日曜・祝日） 毎週月～土曜日（午前11時～午後4時）	1,068 人

※最新の開室日・開室時間については、各施設のHP等をご確認ください。

■部会からの評価

◆評価できる点

【地域との関わりについて】

- ・ご近所で顔見知りの人が増えて、交流が盛んになってよい。
- ・芝のはらっぱも使って創造的な活動ができていて、多くの人が楽しそうでよい。

【誰もが気軽に立ち寄れる場について】

- ・芝の家は地域の中に住んでいる人の居場所になってよい。
- ・あたたかい雰囲気があり、色々な人が目的を問わず立ち寄れる場であるのがよい。

◇改善を希望する点

【地域との関わりについて】

- ・多様な地域のための活動と連携することを検討してはどうか。
- ・芝の家がある町会だけでなく、他の町会とのコラボも進めてはどうか。

【誰もが気軽に立ち寄れる場について】

- ・気になるが、敷居が高い。地域になじんでいる人でないと行きにくい。派閥があるのではないかな。
- ・決まった曜日にしか開室されないため、参加できる人が限られていて、いつ何をしているのかわかりたい。

【今後の展開について】

- ・この事業は、今後どのように展開していくのか想像がつかない。
- ・事業維持には予算が足りないのではないかな。他制度の活用も視野に入れてはどうか。

■次計画の方向性

○地域との関わりを強化

地域コミュニティの拠点として浸透してきているので、さらに発展させていくためには、地域との関わりを強化していく必要がある。地域で実施されている活動との連携や地元町会以外の町会とのつながりをつくること等を検討すべきである。

○誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進

地域に開かれた場所として気になるものの、目的が無くふらっと立ち寄るには入りづらい雰囲気があったり、主な開室時間が平日日中であることから在勤者が行きづらい状況にある。在住・在勤問わず誰もが気軽に立ち寄れるように、敷居を低くする方法や開室時間の延長の検討が必要である。また、芝の家やご近所ラボ新橋のプログラムをきっかけに通ってもらえるよう、活動を周知する必要がある。

○今後の展開の検討

地域交流拠点事業として少しずつ成果が出てきているので、今後どのように展開していくのかを考える必要がある。事業維持の方策、居場所以外の可能性、新しい使い方、拠点の追加などを検討する必要がある。

■提言

提言：来訪者層のニーズに合わせた活動の展開

地域に開けた空間として子どもから高齢者まで世代を問わず気軽に立ち寄り交流できるよう、来訪者層のニーズに合わせた活動を行う。

- (例えば)・ご近所ラボ新橋ではサラリーマンが興味を持つイベントを開催したり、その日にどんな活動があるのかPRする。
- ・コーヒーの日や一見さんの日、掃除をする日など初めての人が訪れやすい開室テーマをつくるよう働きかける。
 - ・来訪者がどんな使い方ができるかイメージしやすくなるようなPRをする。

提言：より利用しやすい場づくりの推進

地域交流拠点として誰もが気軽に立ち寄れるよう、開室時間とスタッフ配置などを含め、利用しやすい空間づくりをする。

- (例えば)・活動のボランティアを募り、朝と夜間の開室時間の拡大、稼働日数、スタッフ配置状況を改善する。
- ・ご近所ラボ新橋のキッチンや建物の屋上などを活かした活動を展開する。
 - ・地域の活動を取り込んで、人々のつながりをつくる。
 - ・芝地区が実施している他の地域事業との協力・連携を図る。



■取組内容

区民協働による養蜂事業を実施し、子どもから高齢者まで幅広い層の区民が、ミツバチの飼育をとおして環境について学ぶ機会を創出するとともに、多世代交流を推進します。また、そこで採れたはちみつ「しばみつ®」を芝地区の名産品として販売するほか、事業者と連携して地域のPRに活用するなど、芝地区の新たな魅力を創出します。

■取組実績

区民約100名による「芝 BeeBee's」を結成し、区有施設で毎週木曜日午後と月に1回日曜日午前に内検やはちみつ採取、屋上の緑の手入れを行っています。（規模は巣箱2つ）

事業の副産物で採取される年間約60kgのはちみつを瓶詰めし、地域のイベント等への提供、販売イベントの実施（毎年700～800個）、地域の事業者としばみつ®を活用した新商品の開発・販売など、事業のPRと芝地区の魅力発信に広く活用しています。

みなと障がい者福祉事業団に瓶詰めとラベル貼りを依頼しているほか、地域の共同プロジェクトで、しばみつ®を使用したマドレーヌを製造、販売するなど、障害者のさらなる雇用機会の創出につながっています。

▼内検の様子



■部会からの評価

◆評価できる点

【事業の知名度について】

- ・定期的な活動により、実績と知名度が上がっているので継続すべきである。
- ・芝地区での養蜂事業は街中に自然（草花）が維持されている証明になるのでよい。

【多世代交流について】

- ・多様な世代がミツバチの飼育をとおして交流できるのはよい。
- ・地域のコミュニティ形成や子どもの社会勉強に有効である。

【事業の拡大について】

- ・販売イベント等では収益があり、活用事業者の募集により今後の広がりが期待できるので、事業としては高く評価出来る。

◇改善を希望する点

【事業の知名度について】

- ・知名度がまだまだ低いので、宣伝などにより高める工夫が必要である。
- ・地域へ活動の告知や活用事業者の情報が少なく、周知が足りないのではないか。

【事業の拡大について】

- ・しばみつ®の商品展開の方法や他地区の養蜂事業、緑化活動との連携を検討する必要がある。

【芝地区で取り組む意義】

- ・なぜ芝地区で養蜂事業なのかわからない。
- ・成果指標と取組の成果が合っていない。

■次計画の方向性

○活動の見える化による知名度の向上

定期的な活動を継続することで実績が出ているため、広く区民へ周知し、知名度を向上させることが必要である。そのためには、活動状況を見える化し、自然環境を活かした事業としてPRするなど、効果的な周知が必要である。

○多世代交流の推進

多様な世代が参加し、新しい人と知り合うきっかけになっている事業であるが、世代間交流している姿が外部に見えにくい状況にある。既存目標の多世代交流を一層推進するためには、誰もが参加できる活動や交流できる場、目的のPRが必要である。また、多様な世代間で生き物を育てることは、地域のコミュニティ形成や子どもの社会勉強に役立っているため、引き続き取り組む必要がある。

○事業拡大の方策の検討

しばみつ®の販売や商品化を実施し、事業の広がりが見られる。さらなる効果を期待するため、新たな商品開発、他地区の養蜂事業や緑化活動との連携、身近な場所での自然学習など、方策の検討が必要である。

○しばみつ®の収益の活用方法の検討

収益の出る事業のため、事業利益の適正管理や活用の検討が必要である。

■提言

提言：多世代交流のさらなる推進

より多くの人に関わってもらうためには、関わり方の多様化を図りながら、ミツバチの飼育をとおして多世代交流を推進する。

- (例えば)・小学校などへ芝 BeeBee' s の活動を紹介し、子どもの参加を増やす。
- ・色々な人が関われるよう、養蜂活動以外にも緑化活動や自然学習などの取組も導入し、芝 BeeBee' s のメンバーを増やす。

提言：活動の話題性を高める取組の実施

芝地区の新たな魅力であるしばみつ®を用いてより多くの人に活動を知ってもらえるよう、話題性を高める取組を実施する。

- (例えば)・区内の商店と連携してしばみつ®を活用したフェアを開催する。
- ・活動の良さが伝わるようなストーリーをつくり、しばみつ®を販売する。
 - ・地区内外のより多くの人に活動を知ってもらう機会を増やすため、他区が実施する養蜂事業との交流を図る。
 - ・ミツバチの好む植物の種を配布して緑や花を増やす活動につなげる。
 - ・SNS等を活用し、芝 BeeBee' s メンバーによるレシピの共有、しばみつ®の活用例等の情報発信を進める。

■取組内容

まちにアートとふれあうことができる空間を創出し、地域の魅力として発信することで、多様な人が共生し、活動することができる心豊かな地域づくりを推進します。また、次世代の社会の担い手となる地域の子どもの対象としたアート体験等の機会を提供することにより、社会参加意識や地域への愛着を醸成していきます。

■取組実績

【障害者週間記念事業との連携によるトランスボックスへのアートの掲示】

配電用地上機器（トランスボックス）に、障害者週間記念事業にて表彰された計3点（最優秀賞1点、優秀賞2点）の絵画をアート作品として展示しています。

令和3年度は赤レンガ通り（新橋5丁目付近）に3点掲示しました。

【区民の表現の場として活用するためのワークショップの開催】

アートをテーマに区民等の交流の場を形成し、芝地区の魅力向上させるためのワークショップを実施しています。

令和3年度はエリア内で参加者が見つけたモノ・場所・建物などを絵、写真、文章にし、それを材料に講師がイラストマップを作成するオンラインワークショップを実施しました。

▼ワークショップの様子



■部会からの評価

◆評価できる点

【トランスボックスへのアート掲示】

- ・トランスボックスへの落書き防止に加えてまちの美観に貢献している。
- ・身近でアートを感じられてよい。

【多様な区民が参加できる取組方法について】

- ・アートを通して障害者の方々と触れ合いが生まれるのはよい。
- ・多様な人の参加がダイバーシティの促進にもつながる。

◇改善を希望する点

【トランスボックスへのアート掲示】

- ・芝地区にあるトランスボックスの数に比べて、絵の数が少ないのは効果が低いのではないかと。
- ・トランスボックス以外の場所も活用し、アートの掲示を増やすべきである。

【ワークショップの開催】

- ・ワークショップの対象や内容を見えるようにすべきである。
- ・ワークショップ実施にあたっての事業費と成果の関係を明らかにすべきである。

【多様な区民が参加できる取組方法の検討】

- ・様々な人へ参加を呼びかけ、多様な主体が参加すべきである。

■次計画の方向性

○現行の取組内容の見直し

トランスボックスへの絵の掲示をとおして、落書き防止や美観など一定の効果は出ているものの、既存目標との関係がわかりにくいため、落書きされやすい場所が何箇所あるのか把握し、計画目標を立てて絵の掲示を進めていく必要がある。また、トランスボックスへの絵の掲示以外の方策も検討すべきである。

ワークショップの開催は1回のみで事業費に見合った効果も見られないため、継続の可否を含め実施内容を見直す必要がある。

○多様な区民が参加できる取組方法の検討

心豊かな地域づくりを推進するには、芝地区の特性を踏まえ、地区内の様々な区民が関わる必要がある。地域への愛着に寄与する資源の活用や区民参加型の取組など、区内の多様な主体が参加できる取組を検討していく必要がある。

■提言

提言：地域への愛着を深め、多様な区民が参加する取組の再検討

地域への愛着を醸成できるよう、多様な区民が参加できる取組手法を再検討する。

(例えば)・現在の手法による事業スキームを再検討する。

- ・地域資源を活用し、愛着を深めるため、より効果的な取組を検討する。
- ・絵の掲示以外でも多様な区民が参加できる取組の手法を検討する。
- ・港区、芝地区らしい取組を企画し、実施する。
- ・芝地区の多様な主体（事業者、NPO等）と連携する。

■事業の様子

トランスボックスへのアート掲示

▼令和4年度展示（最優秀賞作品）



▼令和4年度展示（優秀賞作品）



▼令和4年度展示（優秀賞作品）



▼ワークショップの様子



■取組内容

芝地区区民参画組織「芝会議」の「まちの魅力発掘部会」が芝地区の魅力を発掘・発信・創造し、芝地区の活性化をめざします。「芝の語り部」によるまち歩きツアーや講座を実施し、区内外の人に芝地区の歴史や文化、自然等の魅力を広く発信するとともに、「芝の語り部養成講座」により、新しい人材の育成を行います。より多くの人に活動や芝地区の魅力が伝わるよう、多様な世代が参加しやすいテーマ設定や、ホームページ・SNSによる積極的な情報発信を行います。

■取組実績

「芝の語り部」によるまち歩きツアーや講座等をとおして、区内外の人に芝地区の歴史・史跡や文化、自然等の魅力を広く発信しています。

▼まち歩きツアーの様子

令和3年度はまち歩きツアーを18回（参加者延べ229名）実施し、区主催及びいきいきプラザ、CC大学、都立芝公園管理センター、自治会・町会等と連携しました。また、座学を13回（参加者延べ339名）実施し、歴史講座のほかに港区にゆかりのある人物（高橋是清や尾崎紅葉）をテーマとして実施しました。

語り部養成講座では、「まちの魅力発掘部会」のメンバーが講師となり、5月から7月にかけて受講生（14期生）5名に基本講座を6回実施しました。また、コロナ禍において令和2年度に実施できなかった13期生の応用講座を14期生と合同で7月から10月にかけて行い、13期生3名と14期生3名の計6名が講座を修了しました。



■部会からの評価

◆評価できる点

【現行の取組について】

- ・継続・定着しており、参加者も多い。コロナ禍でも実施しやすい取組である。
- ・語り部を養成することで、知識を次世代につなぐ体制になっているのがよい。
- ・語り部の方が詳しく、内容が豊富で面白い、コンテンツとして優秀だ。
- ・高齢男性向けの江戸カフェという発展の取組がある事はよい。

◇改善を希望する点

【多様な手法について】

- ・オーダーメイドなまち歩き、新規転入者やロングコースなど、まち歩きのバリエーションがあってもよいのではないか。
- ・人気がありすぎて抽選に受からないので、より多くの人に参加できるように工夫してはどうか。
- ・外国人や子ども、視覚や聴覚に障害のある方も参加できるまち歩きがあるとよい。
- ・日本に長く住んでいる外国人にも語り部として参加してもらってはどうか。

【今後について】

- ・今後のためには有料のまち歩きにしてもよいのではないか。
- ・収益事業として成立するので、成長拡大を検討してもよいのではないか。

■次計画の方向性

○魅力を伝えるための多様な手法の検討

本事業のニーズは高く、アンケート調査でコース等の分析を行うことでまち歩きツアーの質は向上し、人気のツアーとなっている。より多くの人の特性に合わせたまち歩きができるようになるためには、時間別や参加者のレベルに合わせたコースの設計、オーダーメイドのまち歩き、在勤者向けのコンテンツなど多様な手法を検討すべきである。

○誰でも参加しやすい手法の検討

外国語表記や障害のある方が参加しやすいサポーターの養成など、誰でも参加しやすい手法の検討が必要である。

○今後の事業継続・拡大の検討

歳時記の発行や語り部養成講座をとおして貴重な知識が継承されている。これらの知識の活用方法や活動の幅を広げることなど、今後の事業継続・拡大のための検討を進める段階に入っている。将来的には、まち歩きツアーの有料化など、独立事業化を進めることも視野に入れつつ、現時点においては、バリアフリー対策や語り部養成講座の充実など、必要な企画が可能な予算の在り方を検討すべきである。

■提言

提言:多様な人々のニーズに合わせたコースをつくる

区の事業としてより多くの人に芝地区の魅力を伝えるため、障害のある方や外国人など多様な人々を受け入れ、様々なまち歩きのリクエストに応えられるよう、ニーズに合わせたコースを設計する。

(例えば)・障害のある方の参加を支援するサポーターを養成する。

- ・バリアフリーを考慮したコースを設計する。
- ・外国人や障害のある方向けのコンテンツを作成する。
- ・オーダーメイドや距離別・時間別のまち歩きなどバリエーションに富んだコースを設計する。

提言:知識を継承するための手法づくり

語り部養成講座では各々が資料や情報収集を行うことで語り部としての質を高めている。より継承できる手法を構築するため、語り部の質が次世代へ継承できるような手法を検討する。

(例えば)・語り部養成講座において受講生に資料収集の手法を教える。

- ・貴重な資料や地図、誰かが知っている情報を共有できるシステムをつくる。

提言:部会の活動をより多くの人に発信できる手法の導入

より多くの人に「まちの魅力発掘部会」の活動や芝地区の魅力が伝わるよう、誰でも気軽に参加しやすい手法を取り入れる。

(例えば)・語り部養成講座の申込みはインターネット等を活用して募集する。

- ・SNS等を活用して語り部養成講座の内容を公開する。
- ・若い世代の参画を促し、まち歩きコース紹介のシステム化を図る。



■取組内容

竹芝エリアの新たなまちづくりに関わる多様な主体や島しょ自治体との連携・協働により、地域イベントの実施や、区民が島しょ部を身近に体感できる取組等を進め、魅力と活気にあふれる地域づくりをめざします。

■取組実績

港区は、竹芝地区において、「竹芝Marine-Gateway Minato協議会（以下「竹芝MGM協議会」という。）」の一員として官民連携でまちづくりを推進しています。竹芝MGM協議会では、「公共空間活用」「文化芸術」「島しょ振興」「スマートシティ」「竹芝地区PR」の検討ワーキンググループ（WG）を設置し、五つの視点から地域の魅力向上・活性化を図るための実効的な取組を進めています。

令和3年度は、竹芝みなとフェスタでの連携製品（芝地区の養蜂事業で採取されたはちみつ「しばみつ®」と島しょ地域の特産品「島レモン」をイメージした香水、港区と島しょ地域をイメージしたアロマミスト）の販売、みなと区民号の実施（大島町・東海汽船（株）との連携）、都立芝商業高等学校との連携（商品の販売、PR方法の検討）を実施しました。

▼三原山頂口



【竹芝MGM協議会について】

竹芝MGM協議会は官民連携プラットフォームとして地域に関わる多様な人材が集結し、竹芝地区を中心に、JR浜松町駅周辺から竹芝ふ頭に至る一帯の資源・資産や地域連携の取組を最大限に活用し、港区の海の玄関口「竹芝」としての魅力向上させることを目的に令和2年度に組織されました。

■部会からの評価

◆評価できる点

【事業の周知について】

- ・商品開発で広く意見を募ることにより、コロナ禍でも島しょを知ってもらおうきっかけになっていてよい。

【多様な主体との連携について】

- ・都立芝商業高等学校や戸板女子短期大学、地域、企業との連携が図られていてよい。

◇改善を希望する点

【事業目的について】

- ・最新のデジタル技術等を採用し、竹芝で島しょを体験できる工夫があるとよい。
- ・港区民が島しょを訪れているのか、島しょから港区へ来ているのか、人の流れを生み出しているのか、見えにくい。

【事業の周知について】

- ・みなとフェスタやみなと区民号の運航などこの事業のイベントに参加するための情報が区民に届いていないので、情報提供の方法を改善すべきである。
- ・島しょを知ってもらうためのPRも必要である。

【多様な主体との連携について】

- ・地区内の官民学連携はできているので、島しょの高校や東京都などとともに連携すべきである。

■次計画の方向性

○事業目的の明確化

島しょを知るきっかけとしてデジタル技術等を採用した竹芝での島しょ体験の実施、島しょを訪れたいとなる取組を検討すべきである。

竹芝エリアへの動線は島しょを連想させる環境にするなど、成功事例を参考にしながら人の流れを作り出す工夫が必要である。

○効果的な周知方法の検討

イベントに参加する為の情報が区民に届いていないため、色々な方法で情報発信することが求められる。新たな商品開発、島しょの魅力が伝わる商品を使っての販売等、効果的にPRする必要がある。

○多様な主体間における連携促進

官民学連携が図られている事業であり、学校・地域が参加しやすくなっている。さらなる進展が期待できるため、東京都、都立芝商業高等学校と島しょの高校などと、多岐にわたる連携を促進すべきである。

■提言

提言：島しょ部の魅力を活かした竹芝のまちづくり

芝地区の新しい魅力として活気にあふれる竹芝エリアとなるよう、事業の目的は島しょ部の魅力を活かした竹芝のまちづくりとする。

(例えば)・島しょ自治体と連携・協働による港区の事業であるため、区民まつりやいろんな機会を活用し、島しょ部と竹芝を紐づけて、理解を深めてもらうことに注力する。

提言：人々が竹芝を訪れたいとなるようなきっかけづくり

芝地区の新たな魅力である竹芝を訪れる人が増え、活気にあふれる地域となるよう、来訪のきっかけにつながる手法を考える。

(例えば)・浜松町と竹芝をつなぐポートデッキの愛称を募る。

- ・ウォーキングの目的地として竹芝エリアまでの散歩コースをつくる。
- ・VR映像を使って島しょ体験ができるイベントを実施する。

■事業の様子

▼販売の様子



▼販売の様子





■取組内容

将来を担う子どもたちの健やかな育ちを支援するため、自然についての理解を深める体験学習を、茨城県阿見町、福島県いわき市との協働により実施します。港区では経験できない豊かな自然環境のもと、様々な体験の機会を創出・提供することで、自然や環境への理解及び地域交流を深めます。

■取組実績

1年をとおした農作業・漁業体験、自然観察などによる環境学習を行い、都会に住む子どもたちが田舎で自然に触れることを目的とする事業です。

体験は芝地区の交流自治体である茨城県稲敷郡阿見町（農作業体験）、福島県いわき市（漁業体験）にて実施しています。

対象は芝地区内在住、在学の小・中学生とその保護者で、定員は20組40名程度です。5回の活動は全て日帰りで行います。

参加費は8,100円（1組2人）で、5回分の活動費や交通費も含まれます。（令和4年度の参加費は各回払いとし、1回につき1,620円を集めました。）

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため1回のみの実施でしたが、令和4年度は5回実施しました。

芝地区内の事業者と連携した学習プログラムも実施しました。

▼収穫の様子



■部会からの評価

◆評価できる点

【現取組内容について】

- ・自然に触れあえる機会があるのは教育上よい。
- ・活動内容をとおして、生産から収穫までの一連の流れを知ることができてよい。
- ・他自治体と連携しているのはよい。気持ちを分かち合う場になる。

◇改善を希望する点

【参加要件について】

- ・参加条件を緩和して、子どもだけの参加も認めるのはどうか。
- ・ひとり親家庭や障害児とその保護者が対象の企画等を作ってはどうか。

【現取組内容について】

- ・作物を収穫して終わりではなく、その後の販売までの流れを知れるとよい。
- ・参加して終わりではなく、そこでの体験をどう活かすか考えることで、さらなる学びにつなげられるとよい。
- ・食育や、農作業の大変さを知ってもらうプログラムがあるとよいのではないか。
- ・近くで畑を借りて食物を育てることの大変さを実感してもらうのはどうか。

【事業者との連携について】

- ・連携できる区内事業者を増やし、子どもたちに選択の余地があるとよいのではないか。

■次計画の方向性

○参加要件の拡大

港区では経験できない体験学習に触れられるのは素晴らしいので、より多くの子どもたちが参加できるとよい。子どもだけでの参加やひとり親家庭や障害児とその保護者が対象の企画等、参加要件の拡大を検討する必要がある。

○付加的な効果の見込めるプログラムの検討

生産から収穫までの流れを知ることができる現プログラムに加えて販売・消費までの過程を知ってもらうことや、本事業で学んだことを学校の中で共有したり芝地区内で活かせる場をつくること、訪問先との交流を深めることなど付加的な効果が見込めるプログラムを検討すべきである。

○芝地区内でもできる自然体験・農業体験の検討

食育、農作業の大変さを知るためにビルの屋上を利用した畑で収穫を見届けるという方法や、公園での昆虫観察等、区内資源を活用してプログラムの多様化を検討すべきである。

○芝地区内事業者との連携事業の推進

コロナ禍で取組の実施が困難な中、芝地区内の事業者と連携できたことは良かった。さらに事業者を増やすなど、引き続き事業者との連携を進めていけるとよい。

■提言

提言:対象者や参加要件のあり方の見直し

限られた予算の中で、より多くの子どもが港区では経験できない体験学習に触れられるよう、適正な事業の対象者や参加要件のあり方について検討する。

(例えば)・子どもだけの参加を可能とする引率方法を検討する。

- ・ひとり親家庭などの参加を優先する。
- ・オンラインを活用して体験とその様子を中継するハイブリッド型を取り入れる。

提言:理解を深めるプログラムの策定

自然や環境への理解及び地域交流をより一層深めるため、現行のプログラムを改善する。

(例えば)・事前に参加者を集めて予習したり、農業体験後に得られた成果を発表する機会を設ける。

- ・事前に参加者がプランを企画し、プランに沿った体験を実施する。
- ・交流自治体の子どもや農家、漁師などと定期的な情報交換を行い、交流を深める。
- ・事業内容に合わせた相応しい名称を再検討する。

提言:芝地区における社会見学の拡充

子どもたちの学びの幅を広げるため、芝地区内事業者との連携を拡充させる。

(例えば)・連携先の区内事業者を増やし、テーマによって子どもたちが選択できるようにする。

- ・食育として調理実習ができる学校や事業者等と連携する。
- ・農林水産業に関連する体験ができる学校や事業者等と連携する。
- ・座学と実習の場を提供してくれる学校や事業者等と連携する。



■取組内容

高齢者とその家族等が住み慣れた芝地区で自分らしくいきいきと暮らし続けるため、また、閉じこもりがちな高齢者や社会から孤立しがちな介護家族等の交流の場づくりのため、アロマテラピーを活用した地域高齢者支え合い講座を実施し、高齢者を地域で支えるセーフティネットワークを構築します。

■取組実績

【アロマテラピーハンドマッサージ講座の開催】

高齢者セーフティネットワーク事業として、「アロマテラピーハンドマッサージ講座」を高齢者や介護をしている家族等を対象に実施し、講座の参加者が自らボランティアとして活動できるよう、ボランティア養成講座も開催しています。

ボランティア養成講座は座学と実践を組み合わせ、座学は区の高齢者の状況、アロマの認知症予防の効果について説明し、実習は自分たちでブレンドオイルを作り、ハンドマッサージの施術を実践しながら覚えてもらう内容になっています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業が丸々一年中止になりました。

令和3年度は「地域高齢者支え合い講座」として2回開催し、令和4年度は10月（芝公園区民協働スペース）と2月（新橋区民協働スペース）に実施しました。

▼地域高齢者支え合い講座の様子



■部会からの評価

◆評価できる点

【アロマハンドマッサージについて】

- ・アロマ（香り）をきっかけに人のつながり・交流が生まれるのはよい。
- ・認知症対策とアロマテラピーを結び付けたことはよい。
- ・地域の人々が認知症を知るきっかけづくりになっている。
- ・ボランティアの担い手の増加が成果指標になっていてわかりやすい。

◇改善を希望する点

【アロマハンドマッサージ以外の方策の検討】

- ・コロナ禍で中止となり、ボランティアの活動が難しいので、アロマを使った次の展開を考えるべきだ。
- ・ひとり暮らしの高齢者は、参加すること自体にハードルがあるので、参加しやすくなるような工夫が必要である。

【受講対象者の拡大】

- ・アロマの有効性は理解できるが、ふれあいに工夫が必要である。多様な年齢層や、男性が参加できる別の企画が必要である。
- ・アロマに興味を持つ層や、子ども、若い世代も巻き込んで認知症の兆候に気づける人を増やすことが重要である。

■次計画の方向性

○アロマハンドマッサージ以外の方策の検討

コロナ禍においてもこの事業を継続するためには、触れずにアロマを活用する方法での実施、誰でも簡単に実践できる取組、受講対象者別に講座の内容を変えるなど、多様な取組を検討すべきである。

認知症予防には、話をしたり、できることを引き出したり、他にも効果のある方法があるので、アロマセラピーと他の取組と連携することも検討すべきである。

また、閉じこもりがちな高齢者が参加しやすいよう、興味を引く内容や身近な場所での実施なども検討すべきである。

○受講対象者の拡大

地域で支え合うためのセーフティネットワークの構築には、幅広い人々の協力が必要である。受講対象者を介護家族等に限定することなく、多様な世代が参加できる取組、男性でも参加しやすい取組など、受講対象者の拡大を検討すべきである。

■提言

提言：地域高齢者支え合い講座の対象の拡大

高齢者を地域で支えるネットワークが構築できるよう、講座の対象者を幅広くし、地域全体で見守る体制を強化する。

- (例えば)・エリアごとに範囲を設定して講座を実施する。
- ・マンションの共用スペースを活用して講座を実施する。
 - ・受講対象者の間口を広げ、町会・自治会等に参加を呼びかける。

提言：アロマを活用した多様な取組の実施

誰もが住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられるよう、アロマを活用してコロナ禍でも継続できるような様々な取組を実施する。

- (例えば)・ハンドマッサージ以外の活動も展開する。
- ・アロマオイルを抽出できる花や緑を育てる園芸療法などの他の事業と連携する。
 - ・オレンジカフェやお祭り等の地域イベントで取組を周知する。

■事業の様子

▼地域高齢者支え合い講座の様子



▼地域高齢者支え合い講座の様子



2

各地域事業に共通する視点

提言を検討するにあたり、全ての地域事業に共通して以下の意見が出されました。これらは各地域事業に共通する視点として、芝地区版計画書の後期計画への反映を検討する必要があります。

■各地域事業に共通する視点

- 目標と成果指標の関係を明確にする
- 予算の使途と妥当性の検討
- 効果的な周知方法の検討
- コロナ禍でも実施可能な取組内容の検討

第3章 提言書の作成過程



1 地区版計画推進部会の趣旨

「芝会議・地区版計画推進部会」（以下、「部会」という。）は、令和5（2023）年度に改定する「港区基本計画・芝地区版計画書」に区民の意見を反映することを目的に設置された区民参画組織です。

部会のメンバーは、無作為抽出による公募に応諾された方及び芝地区総合支所が設置する区民参画組織「芝会議」の3部会から推薦された方で構成されています。

令和4（2022）年4月から活動を開始し、部会のメンバーが意見を出し合い、検討結果を「提言書」として取りまとめ、区長に提出します。

2 地区版計画推進部会のメンバー

1	有松 朗子
2	石川 啓子
3	市村 将太
4	宇山 りみ子
5	大原 美帆
6	小河原 房恵
7	加藤 亮子
8	藏野 雅敏
9	佐々木 翔平
10	鎮目 博道
11	シュライバー 有紀子
12	楯列 晃士
13	月岡 英人
14	寺島 さなえ
15	富田 嘉明
16	外山 真理
17	原口 高志
18	福山 賢士
19	藤井 裕子
20	ポテイニア イリイナ
21	増田 千江子
22	増田 由明
23	松浦 伸考
24	村松 仙康
25	山村 弘一
26	米原 剛

（五十音順・敬称略）



3 地区版計画推進部会の開催経過

	開催日	検討内容
第1回	令和4年 4月20日(水)	・芝地区版計画書の概要 ・年間スケジュール ・自己紹介
第2回	令和4年 5月20日(金)	・部会で検討する内容・進め方の説明 ・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No.1 「芝地区防災力向上プロジェクト」
第3回	令和4年 6月15日(水)	・港区立御成門小学校の取組(ヒルズ街育プロジェクト)の紹介 ・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No.5 「芝 BeeBee's プロジェクト」 -No.8 「Arc Island 竹芝」
第4回	令和4年 7月13日(水)	・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No.6 「芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～」 -No.10 「地域で支え合う ～アロマネットワーク～」
第5回	令和4年 8月3日(水)	・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No.3 「ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～」 -No.4 「地域をつなぐ!交流の場づくりプロジェクト」
第6回	令和4年 8月31日(水)	・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No.7 「芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～」 -No.2 「エコ芝 教室」 -No.9 「芝・ネイチャー大大学校」
第7回	令和4年 10月5日(水)	・地域事業の提言の検討 -No.1 「芝地区防災力向上プロジェクト」 -No.5 「芝 BeeBee's プロジェクト」
第8回	令和4年 11月2日(水)	・地域事業の提言の検討 -No.8 「Arc Island 竹芝」 -No.6 「芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～」 -No.10 「地域で支え合う ～アロマネットワーク～」
第9回	令和4年 11月30日(水)	・地域事業の提言の検討 -No.3 「ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～」 -No.4 「地域をつなぐ!交流の場づくりプロジェクト」 -No.7 「芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～」
第10回	令和4年 12月21日(水)	・地域事業の提言の検討 -No.2 「エコ芝 教室」 -No.9 「芝・ネイチャー大大学校」
第11回	令和5年 1月25日(水)	・提言書案の確認
第12回	令和5年 2月15日(水)	・提言書の確定
提言式	令和5年 3月28日(火)	・区民参画組織提言式

4 港区立御成門小学校の取組(ヒルズ街育プロジェクト)の紹介

芝地区内にある港区立御成門小学校では森ビル（株）と連携した出張授業「ヒルズ街育プロジェクト」を行っています。この授業では子どもたちが自分たちのまちの未来ビジョンを考え発表しますが、この取組が部会の活動と通じるものがあることから、部会にて取組の様子を紹介しました。

<取組内容>

取組内容は、都市のあり方を考える機会として実施しているプログラムを活用し、小学校の授業の一環として実施するものです。

授業のプログラムは小学校5年生を対象に年間で全4回実施され、「まちをつくる」「まちをそだてる」「フィールドワーク」「未来マップ制作」の4部構成としています。

年間の目標を「地域の良さや街づくりに関わる人々の思いや願いに気付かせること」と「地域の未来のために自分たちにできることを考え、地域に進んで関わろうとする態度を育てること」としています。

最終的には、子どもたちがグループにわかれて、学んだことをまとめ班ごとに発表しました。

<制作した未来マップ>



5 学習会(まち歩き)の開催

芝地区の計画や地域事業について理解を深めるために、まち歩きツアーを実施しました。

<開催概要>

【日時】令和4年5月29日(日) 8:50~15:30(約6時間半)

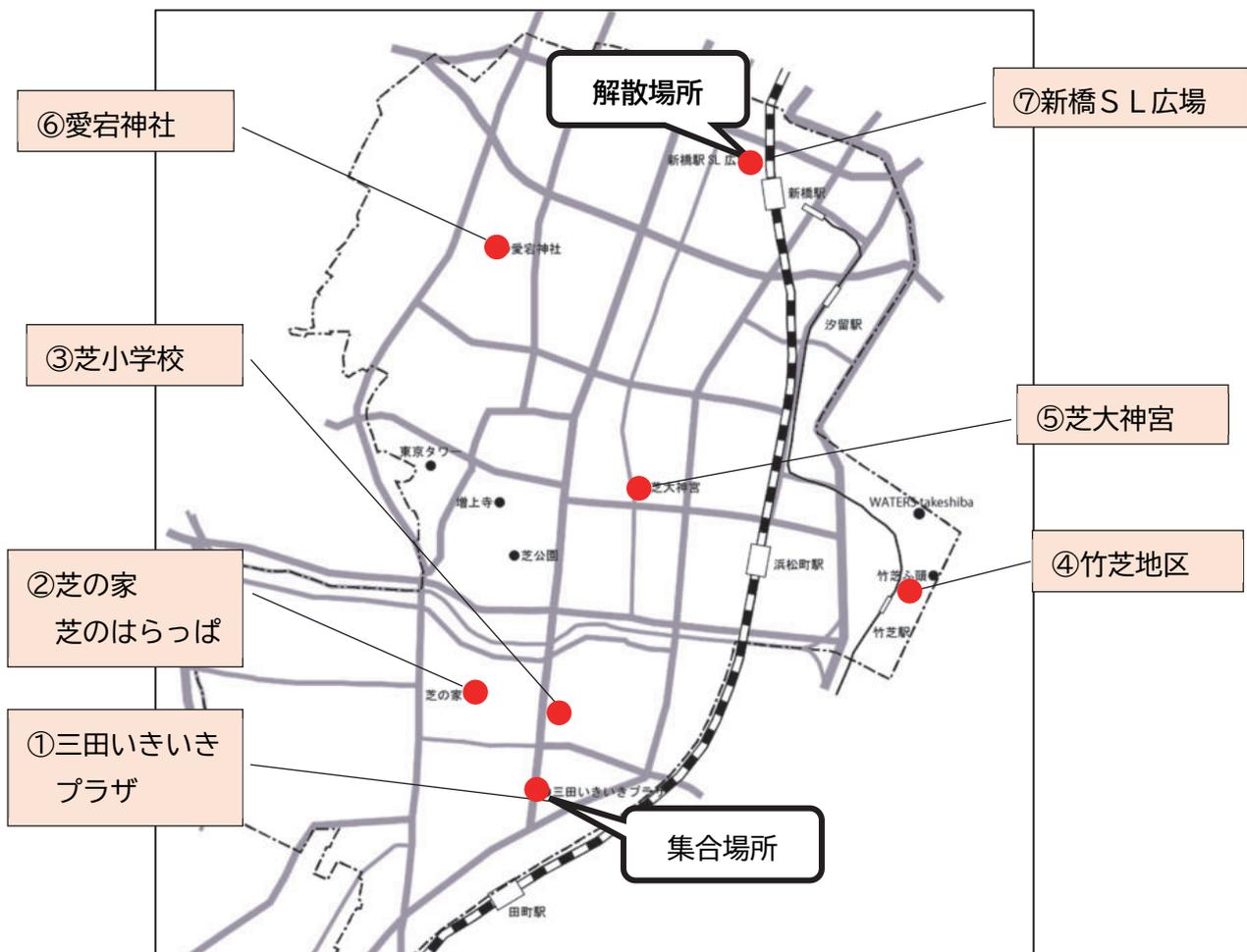
※昼食は自由行動(11:45~13:00)

【集合】8:50 三田いきいきプラザ 正面入口

【解散】15:30 新橋駅S L広場

【コース】(下線は地域事業)

- ① 9:00 芝 BeeBee 'sプロジェクト
2班に分かれ、芝 BeeBee 'sプロジェクト養蜂見学を実施。
9:50 終了
- ② 10:10 芝の家、芝のはらっぱ ※休室のため、前を通るのみ。
- ③ 10:20 芝小学校
- ④ 11:45~13:00 竹芝地区 昼食(自由行動)
- ⑤ 13:30 芝大神宮(コース⑤~⑦は「芝の語り部」によるまち歩きツアー)
- ⑥ 14:00 愛宕神社
- ⑦ 15:30 新橋駅S L広場 解散



<まち歩きの様子>

📷 午前編



三田いきいきプラザ



芝の家



港区立芝公園



竹芝干潟

📷 午後編



芝大神宮



青松寺



愛宕神社



新橋S L広場

6 メンバーからのコメント

港区の中の芝地区という限定されたエリアの施策についても、在住 20 年でも、知らないことが多くびっくりしました。この推進部会のメンバーになったことにより、垣間見ることができたのは大きな収穫でした。一方、別の見方をすれば、いかに、芝地区の施策が住民や在勤者に周知されていないかということでもあります。

区報に掲載しても読者は減ってます。となると、SNSで積極的に発信、掲示板に掲示などのあらゆる世代にアクセスしやすい方法を、模索していく必要がありますね。区の税金の使い道をこれほど真剣に議論できたのは収穫でした。多くの人に刺さる効果的な施策に税金を使ってほしいと切実に思いました。

シュライバー 有紀子

後半仕事の都合で参加が失速してしまい、参加している皆さんには申し訳ない気持ちでいっぱいですが、多くの施策を地域の方々と議論し、全体として良い方向に進んだと思う。私見ですが、これから伸ばしたいと思う施策があった一方、そうではなく少し理想と現実の乖離があり、実行が厳しいと思う施策もあったので、新しい施策を募集する場がもう少し住民に開かれた場所にあったら良いのではないかと、振り返りました。

佐々木 翔平

住み始めた芝地区について知りたいと思い参加させていただきました。

部会を通じて、ビジネス・自然・歴史・食・アート等、芝地区の人を魅了する表情豊かな顔を知ることができました。皆様、ありがとうございました。

区職員の方々の思いと努力、部会に参加された方の芝地区を良くしたい、魅力を発信したいという情熱とアイデアが詰まった提言書に仕上がったのではと感じております。私が芝地区の魅力に出会えたように、芝地区を行き交う多くの方へも伝わり、コミュニティの輪が一層広がることを願っております。

小河原 房恵

今回、実際に見ることができていない事業についての提言でしたので、難しい面がありましたが、メンバーの皆さんと地域事業について考える機会をいただけたことは、有意義な時間となりました。

部会を開催していただいた支所の皆さまには、大変お世話になりました。ありがとうございました。

松浦 伸考

今回初めて地区版計画推進部会へ参加させていただき、地域におけるそれぞれの事業計画が地域活性化や多世代が参加できるよう工夫されていること、またこのような部会で住民や在勤者の意見を吸い上げ、地域にとってよりよい事業を進めていこうという話し合いがなされている機会があることは素晴らしいと感じました。参加したことで、今まで以上に地域の事業に目を向け、参画していこうと思います。

藤井 裕子

前回に引き続き3回目の参加です。全体的に感じたのは外部委託している事業は、もっと実績、費用対効果を精査すべきではないかと感じた。

事業計画は、3年間毎年同じ予算で活動をする固定的計画を前提としているように感ずる。地域事業全体予算を一つとして考え、他の事業で予算が足りないところには、2年過ぎるところで見直しをして配賦したらどうかと思う。少ない予算で工夫をして多くの実績を挙げている事業もある。次期予算配賦は、客観的に、各事業活動の内容・実績・成果を分析して、的確な予算配賦をお願いしたい。

当部会に「ご近所イノベータ養成講座」の修了生を始めとする、多くの若い方が最後まで参加し、活発に建設的意見を述べられ大変心強く思いました。

芝地区での皆様のこれからの、更なるご活躍を祈念申し上げます。

増田 由明

今回、さまざまな立場の方たちと一緒に、地域事業の一つひとつの活動内容を丁寧に振り返る「場」に参加させていただき、暮らしている地域を改めて見直す貴重な機会となりました。次世代が暮らす場所として、港区がより暮らしやすい地域であるように、今後とも、今回検討した地域活動に関わっていただきたいと思います。ありがとうございました。

宇山 りみ子

1年間を通じて、地区版計画の提言書作成に携わったことが自分にとって有意義な時間、貴重な体験となりました。第一は、自分が在住する芝地区にはどのようなボランティア活動が行われるかを知ることができました。第二には区役所はどのような役割を担っているか、どのようにしてボランティア活動を応援するか、又はどのように区民の声に耳を傾けているかが少しわかりました。第三は多くの区民の方と知り合いになった。議論しているうちに、人の意見の多様性を知りました。自分が住んでいる芝地区は住民たち、勤務している人たちにとって心地よいエリアになることを願っています。

港区役所の地区版計画の関係者には心から感謝しています。

ポテイニア・イリイナ

- ・港区では支所ごとに特色ある「地域事業」が稼働していること、素晴らしいと思います。
- ・住民会議の議題として、地域事業について討議に参加させていただきましたが、多様なテーマで区民参画の事業が企画されていること知ることができました。
- ・地域事業は、地域活性や福祉に関わる事業、せっかくなのでもう少し広く知らせたり、多数の人が参加できる機会をどうしたら増やしていく方策も考えていきたいと思いました。まずは部会メンバーが今後個々の気になった事業に参加するなど1つかなと考えました。
- ・欲を言えば10の事業を外面的な情報をもとに（運営・利用者など生の声に触れずに）「評価」するのは、この意見がどのように政策に反映されていくのかは気になりました。現場や利用者の声も含めてまとめて行かれるのであれば良いなと思いました。どうもありがとうございました。

加藤 亮子

1年間ありがとうございました。提言内容の改善点を話し合う中で、芝地区の街づくりの紆余曲折を知ることができました。

多様な視点をもとに、さらに改善され、港区に特化した注目される事業に育つよう応援しています。

外山 真理

化学反応。この言葉がぴったりです。

話し合いのテーマに対して一人の方から発言、意見が出されると、これに反応した発言や意見が出され、この反応が繰り返されどんどん膨らみ、質的にも変化していく。参加者の意見の単なる足し算ではないものができあがる。毎回違う顔ぶれでグループになり、毎回の話し合いのたびに化学反応が起こりました。同じようなことが他のグループでも起こったに違いありません。短い時間、限られた回数の中でしたが、提言書の中にはこのような化学反応の結果が盛り込まれています。

非常に貴重な経験でした。

これからも、適当な触媒と反応が起こり易い器を用意して区民の間に化学反応を起こしてほしいと思います。

月岡 英人

私はいま、幸いにも港区芝地区に住まいと職場と子供の通う学校まですべてある環境にあります。何か少しでも地域のお役に立てればと思い今回参加させていただきました。ここ数年芝の家や芝のはらっぱに触れて、ご近所イノベータ養成講座にも参加させていただき、ご近所仲間とのふれあいが増えて、道すがらばったりの偶然も楽しめるようになりました。芝の家では「いろはにほへっと芝まつり」の昭和感に浸り、港区民まつりで「わたがし屋」を体験し、自分さえその気になれば、地域の中に楽しい光景が見えてきます。いつしか区役所前の日比谷通りを休日封鎖して、緑の子供の遊び場に変える光景を作り出すのが夢です。そんな夢に向かって仲間を増やしたいです。

原口 高志

芝地区に住んでちょうど10年になりました。10歳で転校した息子もおかげさまで成人式を迎えました。私は2019年に「ご近所イノベータ養成講座」を受講してそのつながりで今回この地区版計画のお仲間に入れていただきました。月に1度の会議では10個の地域事業の細かい点まで意見交換をして、事業ごとに望んでいる成果が出ているのかどうか話し合い、どんな解決方法があるのか考えました。予約の取れない人気の事業もあり、それぞれの事業を支える皆さんの努力や工夫も伝わってきました。

小グループで話し合った後に他にグループのまとめを聞いてみると、そういう考えもあるんだなと気づきをもたらすことが多かったです。

地区版計画に参加してとても良かったです。ありがとうございました。

増田 千江子

提言書作成のための議論を重ねる中で、理屈ではなく情熱が人を動かすのだと感じさせることが何度もありました。区民目線で日常の課題への解決策を模索し続けることは重要で、また既存の計画にフィードバックができる場の存在は貴重です。このような活動が長期間継続される中で、これからも多くの優良な事業が生まれることに期待をしています。

富田 嘉明

地区版計画推進部会に初めて参加させていただきました。地区版計画の提言をもとに、企画運営されている流れがよくわかりました。

話し合いの中で常に出ていたのが、素晴らしい”取り組み“をどのように「告知」「周知」していくべきかを問われていると思いました。

地域情報誌「しばタグ」やSNS、WEBの活用を進めている以外の情報発信手段がとても重要に感じました。

村松 仙康



1 検討会記録(第2回～第12回)

	検討内容
第2回	・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No. 1 「芝地区防災力向上プロジェクト」
第3回	・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No. 5 「芝 BeeBee 's プロジェクト」 -No. 8 「Arc Island 竹芝」
第4回	・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No. 6 「芝 de Meet The Art～アートに親しむまち、芝～」 -No. 10 「地域で支え合う ～アロマネットワーク～」
第5回	・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No. 3 「ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～」 -No. 4 「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」
第6回	・地域事業の課題整理・改善点の検討 -No. 7 「芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～」 -No. 2 「エコ芝 教室」 -No. 9 「芝・ネイチャー大学校」
第7回	・地域事業の提言の検討 -No. 1 「芝地区防災力向上プロジェクト」 -No. 5 「芝 BeeBee 's プロジェクト」
第8回	・地域事業の提言の検討 -No. 8 「Arc Island 竹芝」 -No. 6 「芝 de Meet The Art～アートに親しむまち、芝～」 -No. 10 「地域で支え合う ～アロマネットワーク～」
第9回	・地域事業の提言の検討 -No. 3 「ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～」 -No. 4 「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」 -No. 7 「芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～」
第10回	・地域事業の提言の検討 -No. 2 「エコ芝 教室」 -No. 9 「芝・ネイチャー大学校」
第11回	・提言書案の確認
第12回	・提言書の確定

芝地区版計画推進部会 第2回 グループワーク記録

<p>●地域事業</p> <p>1 芝地区防災力向上プロジェクト</p>	<p>●意見の分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価点 ・ 改善点 ・ 重視すべき点 ・ 次計画の方向性 ・ その他
--------------------------------------	--

1 芝地区防災力向上プロジェクト

分類	見出し	意見要旨	グループ
評価点	【全員受講できた】	全面オンライン開催となったことで定員がアップしたことは評価できる。	A
評価点	【取組は有効】	震災後の行動を見据えた計画であることを知り、とても大切なことだと思った。	A
評価点	【進め方のよいところ】	テンプレートとチェックリストが提供されていてわかりやすい。	B
評価点	【進め方のよいところ】	事前学習は有効。事後にも事業の様子や資料を見ることは有効だが、実施されているか？	B
評価点	【進め方のよいところ】	オンラインでの開催にした事により、就業時間内での開催でも企業等が参加しやすい状況を作ることができている。	B
評価点	【地域と企業の関係への好影響】	昼間人口が多い芝地区なので対企業の対策は欠かせない。	B
評価点	【地域と企業の関係への好影響】	芝地区にある企業が事業所のある場所の現状をしながらBCP作成を自分ごととしてとらえることはよいことだと思う。	B
評価点	【オンライン開催を評価】	早期にオンラインでの対応ができたことは評価できる。	C
評価点	【企業の事業継続という視点を評価】	企業が事業を継続できるようにという視点は、港区への税収への影響も小さくなると考えられ、評価できる。	C
評価点	【受講後の行動につながった】	受講者の4割が何らかの行動をとったことは、開催効果があった。	D
評価点	【全員受講できた】	セミナーをオンラインで開催したのは、受講者増の効果があった。	D
改善点	【町会にもBCPが必要】	事業者だけでなく町会・自治会にもBCPIは必要だ。	A
改善点	【町会と事業者の交流機会の増加】	町会・自治会と事業者の交流がないので、情報交換が可能な仕組みづくりが必要だ。	A
改善点	【町会への参加方法】	町会への入り方がわからないので、町会が行う防災訓練への参加方法がわからない。	A
改善点	【事業による効果の見える化】	セミナー受講後に行動した企業が4割にとどまるのは少ない。	A
改善点	【事業による効果の見える化】	これまでセミナーに参加した企業数に対しての達成率が見えない。	A
改善点	【事業による効果の見える化】	この事業の定量目標（KPI）が不明瞭だ。	A
改善点	【ターゲット・目標・成果が不明確】	事業所内で解決できる数が参加企業となっているのか。	A
改善点	【ターゲット・目標・成果が不明確】	セミナー後にBCPを策定した割合より、災害対策を行う事業者の割合を増やすべきだ。	A
改善点	【ターゲット・目標・成果が不明確】	目的が人助けなのか事業継続支援なのかかわからない。	A
改善点	【セミナーの開催方法】	セミナーに参加していない企業にも対応策が必要だ。	A
改善点	【災害時の受入可能場所の周知】	災害時の受け入れを可能とする企業が事前にわかるとよい。	A
改善点	【BCPの普及啓発】	一般の人はBCPを知らない方も多いはずなので、事業者以外にも周知したい。	A
改善点	【BCPの普及啓発】	BCPを知らない人も多いはずなので、周知が必要だ。	A
改善点	【BCPの普及啓発】	一般の人がBCPを見ることはできるのか。	A
改善点	【BCPの普及に向けた取組のアイデア】	BCP作成の参考となるパターン化されたBCPが必要だ。	A
改善点	【ターゲット・目標・成果が不明確】	事業規模別に評価するべきであり、単に〇〇社と数で示すのではなく、人数の影響も評価するべき。	B
改善点	【ターゲット・目標・成果が不明確】	事業のターゲット・目標を明確にして欲しい。	B
改善点	【ターゲット・目標・成果が不明確】	企業参加数のみでは評価指標として不十分。	B

改善点	【ターゲット・目標・成果が不明確】	この事業によってどのくらいのBCPが作成されたのかの定量的評価を行うべき。	B
改善点	【企業ニーズの検討不足】	事前に企業アンケートを行い、企業ニーズを知り、その結果を踏まえて、成果の達成度を評価するべき。	B
改善点	【アフターフォローの不足】	BCPセミナーを受けて策定に至っていない企業へのフォローがどうなっているかわからない。	B
改善点	【アフターフォローの不足】	セミナーの録画を無料で公開したほうがよい。	B
改善点	【成果の見える化不足】	地域にとっての成果がわかり難いので、地域毎の達成度を見える化してはどうか。	B
改善点	【成果の見える化不足】	地域にとっての成果がわかり難いので、どこの企業がBCPを作成したのかを公開したほうがよい。	B
改善点	【町会との連携不足】	地域防災協議会が、町会や住民とどのように関係しているのかよくわからない。	B
改善点	【予算の妥当性検討】	内訳を含め、370万円という事業費が妥当であるかというところに改善の余地がある。	C
改善点	【予算の妥当性検討】	370万円という費用は、もう少し削減できるのではないか。	C
改善点	【事業による効果の見える化】	そもそも事業を行ったことの効果が見えないが、370万円という事業費がその効果に見合ったものであるのかもわからない。	C
改善点	【事業による効果の見える化】	事業を実施したことによる効果をわかりやすく示していくことは必要。	C
改善点	【事業による効果の見える化】	セミナー開催後、実際に策定されたBCPの完成度はどの程度のものか。	C
改善点	【事業による効果の見える化】	参加後の各企業にとって、本セミナーはどのような効果があったといえるのか。また、その効果を共有できる方法があるとよい。	C
改善点	【告知方法の検討】	どのような業種の企業に対して、どのような方法で告知を行っているのか。	C
改善点	【告知方法の検討】	告知の方法は、郵送ではなくメールで十分ではないか。	C
改善点	【セミナー以外の事業内容】	発災時を考えると、区民と企業との関係ということでは、日常からの交流が大事になる。	C
改善点	【セミナー以外の事業内容】	地区の防災力の向上ということでは、セミナー以外にもやるべきことはあるのではないか。	C
改善点	【セミナー以外の事業内容】	発災時には「どこに誰がいるか」を知ることが大事になり、そこに対応した視点を盛り込めないか。	C
改善点	【セミナー以外の事業内容】	発災時には、行政とのつながりが薄い住民をサポートできる体制が必要。	C
改善点	【セミナー以外の事業内容】	港区として、発災時に企業にとって欲しい行動を示していくことが重要。	C
改善点	【セミナー以外の事業内容】	セミナー開催より、防災備品等の補助費用に予算を充てる方がよいのではないか。	C
改善点	【セミナー以外の事業内容】	区民にも関心を持ってもらえるような、目をひく取組が必要。	C
改善点	【継続してフォロー必要】	受講後もフォローが必要だ。	D
改善点	【コンテンツの改善すべき】	地区内の全事業者がBCPを策定したくなるコンテンツが必要だ。	D
改善点	【参加者が少ない】	地区内の事業所数から見るともっと参加者が多くてもよい。	D
改善点	【参加者が少ない】	行政主催のセミナーであれば、もっと参加者が多くてもよい。	D
改善点	【地域との連携がない】	災害時には事業者が地域にお世話になる前提でセミナーをすべきだ。	D
改善点	【地域との連携がない】	自治会との連携についても講義すべきだ。	D
改善点	【動画配信すべき】	セミナーの様子を収録して、後日利用してもよいのではないか。	D
改善点	【費用対効果が低い】	内容の割には委託費が高額だ。	D
改善点	【費用対効果が低い】	オンライン開催なのに委託費が高額だ。	D
改善点	【用語がわかりにくい】	BCPという用語がわかりにくい。	D
改善点	【用語がわかりにくい】	チラシがわかりにくい。	D
重視すべき点	【目標・成果の明確化】	策定率が4割にとどまっているのは少ないので、策定率の向上が必要だ。	A
重視すべき点	【目標・成果の明確化】	累計の達成率を示すことで成果を見える化すべきだ。	A
重視すべき点	【目標・成果の明確化】	事業者達成率を向上させるべきだ。	A
重視すべき点	【目標・成果の明確化】	目標や成果を可視化すべきだ。	A
重視すべき点	【目標・成果の明確化】	成果としての達成率を示すための分母を何にするか検討が必要だ。	A
重視すべき点	【地域との連携が必要】	町会と事業者の関わりを増やすべきだ。	A
重視すべき点	【地域との連携が必要】	会社の中だけでなく、町会との関わりを増やすべきだ。	A
重視すべき点	【地域との連携が必要】	タワーマンションの自治会やマンション管理組合も巻き込んで関わりをつくるべきだ。	A
重視すべき点	【地域との連携が必要】	地域の関わりを増やすには人に着目することが必要だ。	A
重視すべき点	【地域との連携が必要】	地域の人に対して企業の協力が必要だ。	A
重視すべき点	【災害を見据えた対策】	もしもの時に備えて対策を行う必要がある。	A
重視すべき点	【災害を見据えた対策】	災害時に受け入れができるよう行政から開発業者に働き掛けてほしい。	A

重視すべき点	【災害を見据えた対策】	開発の段階から災害を見据えた対策の検討が必要だ。	A
重視すべき点	【中身の改善】	ターゲット・目標を明確にすべきだ。	B
重視すべき点	【中身の改善】	事前のアンケートを行うとよい。	B
重視すべき点	【中身の改善】	内容を見たが、実用的なセミナーになっていないと感じる（BCP作成経験者）。	B
重視すべき点	【地域との関係】	町会との関係を見えるようにして欲しい。	B
重視すべき点	【地域との関係】	協議会がやっている事との連携が必要だ。	B
重視すべき点	【地域との関係】	いきなり連携は難しいからまずは情報交換から行うとよい。	B
重視すべき点	【重視する事業】	「人命、トリアージ」を重視した事業を展開してもらいたい。	C
重視すべき点	【重要な対策】	災害への備えとしては水の確保が何より重要。	C
重視すべき点	【BCPの重要性の周知が必要】	BCPの重要性を周知すべきだ。	D
重視すべき点	【コンテンツの改善】	BCPの策定状況ごとに、提供する情報を分けるべきだ。	D
重視すべき点	【コンテンツの改善】	動画教材やパンフレット等、企業に直接届けられるツールを作成してはどうか。	D
重視すべき点	【コンテンツの改善】	企業だけでなく、地域組織でも使えるような教材を作成してはどうか。	D
重視すべき点	【地域との連携が必要】	企業がどれだけ災害に備えているかを見える化し、消防団や自治会等と連携できるようにしてはどうか。	D
次計画の方向性	【目標や成果を達成するための方策】	達成率を向上させるための方策を検討すべきだ。	A
次計画の方向性	【地域との連携が必要】	事業者と地域の交流を増やすことが必要だ。	A
次計画の方向性	【中身の改善】	ターゲット・目標を明確にして実用的なセミナーを行うべきだ。	B
次計画の方向性	【地域との関係】	まずは、地域との情報交流を進めて欲しい。	B
次計画の方向性	【予算の見直し】	現在の事業費の妥当性を踏まえ、予算の見直しを行う。	C
次計画の方向性	【セミナーの開催方法】	郵送で行っているという参加者の募集方法を見直す。	C
次計画の方向性	【セミナーの開催方法】	業種ごとにテンプレートを作成するなど、各企業がよりBCPを策定しやすい環境を整える。	C
次計画の方向性	【セミナーの開催方法】	オンラインセミナーの内容を動画でも配信する。	C
次計画の方向性	【セミナーの開催方法】	やらされるのではなく、前向きにやってみようと思えるセミナーの内容、告知方法の検討。	C
次計画の方向性	【セミナーの開催方法】	セミナー参加企業のその後のBCP策定数の少なさからは、無料のセミナーであるからやる気が出ないということも考えられる。セミナーの有料化を検討。	C
次計画の方向性	【地域との連携が必要】	災害時に企業と地域が連携する方法を講義すべきだ。	D
次計画の方向性	【地域との連携が必要】	平日昼間以外の時間で災害が起こった場合の対処方法を講義すべきだ。	D
次計画の方向性	【来街者が安心を感じる取組】	来街者が災害時に安全安心を感じられる取り組みが必要だ。	D
次計画の方向性	【来街者が安心を感じる取組】	避難所等のサインを設置し、外国人も含めた来街者が安心できる取り組みとすべきだ。	D
その他	【住民にとってのメリットは？】	事業の対象は企業ということだが、芝地区の住民にとってはどうかという関係性が見えない。	C
その他	【住民にとってのメリットは？】	事業の対象は企業ということだが、芝地区の住民にとってのメリットはあるのか。	C
その他	【区がセミナー開催する意義は？】	一般の企業に対するセミナーを行政が開催する意味はどこにあるのか。	C
その他	【区がセミナー開催する意義は？】	企業向けのセミナーであれば、区ではなく、商工会議所が主催すればよいのではないか。	C
その他	【区がセミナー開催する意義は？】	防災力向上プロジェクトという地域事業の中で、あえてBCPのセミナーを開催する理由は何か。	C
その他	【対象の選定・役割に関する疑問】	セミナーの対象となる中小企業を、どのような条件で絞り込んでいるのかわからない。	C
その他	【対象の選定・役割に関する疑問】	区の実施する事業だが、区として参加対象の企業にどのような役割を求めているのかわからない。	C
その他	【BCPの内容に関する疑問】	セミナーで取り上げるBCPは、どの程度の災害への対応を想定したものなのか。	C
その他	【BCPの内容に関する疑問】	具体的には災害時のどのようなケースを想定してのBCP策定なのかが見えない。	C

芝地区版計画推進部会 第3回 グループワーク記録

<p>●地域事業</p> <p>5 芝 BeeBee 'sプロジェクト</p> <p>8 Arc Island 竹芝</p>	<p>●意見の分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価点 ・改善点 ・重視すべき点 ・次計画の方向性 ・その他
--	---

5 芝 BeeBee 'sプロジェクト

分類	見出し	意見要旨	グループ
評価点	【取組は高評価】	販売イベント等では人気の商品となり、収益も上げていて、事業としては高く評価出来る。	A
評価点	【はちみつの味もよい】	自然の味のするはちみつで、このまま続けるともっとニーズが期待できる。	A
評価点	【取組の継続に評価】	これまで事業が継続してきた事に、高く評価する。	A
評価点	【ロゴとパッケージが高評価】	ロゴもパッケージも親しみが持て、洒落た感じでよい。	A
評価点	【コミュニティの醸成に有効】	地域のコミュニティ形成に、そして子どもの社会勉強にとって有意義な事業となっている。	A
評価点	【自然との触れ合いに有効】	自然の仕組みを芝の地区で学べる事はよい。	A
評価点	【地域交流】	ツールとして機能している。	B
評価点	【地域交流】	新しい人と知り合えるきっかけになる。	B
評価点	【多様性】	多世代が交流できることはよい。	B
評価点	【多様性】	多様な人々が交流していることはよい。	B
評価点	【知名度向上】	継続することによって知名度が上がっていることはよい。	B
評価点	【知名度向上】	実績を上げている事はよい。	B
評価点	【成果が出ている】	地域事業のねらいに即している。	B
評価点	【都心で感じられる自然】	街中に草花が維持されていることの証明として有効。	C
評価点	【都心で感じられる自然】	自然に触れる機会があつてよい。	C
評価点	【都心で感じられる自然】	世代間コミュニケーションに生き物であるハチを使うことはよいこと。	C
評価点	【多世代交流の実現】	多世代が交流できていることはよいと思った（目標達成）。	C
評価点	【多世代交流の実現】	ねらいどおり多世代が参加していること。	C
評価点	【多世代交流の実現】	誰でも参加できる活動。	C
評価点	【活動の継続】	活動が定期的に継続されていること。	C
評価点	【活動の継続】	定期的（週1回）な活動は、習慣化して楽しみ・やりがいにつながる。	C
評価点	【活動の広がり（商品化→活用事業者）】	販売まで行っていたり、活用事業者の募集があつて、広がりがみえそう。	C
評価点	【活動の広がり（商品化→活用事業者）】	商品化につなげることで、港区としてのニュースにも取り上げられていること。	C
評価点	【活動の広がり（商品化→活用事業者）】	しばみつのネーミングがわかりやすい。	C
評価点	【活動から効果が見える】	養蜂の活動状況を知ることでもちづくりを知ることができた。	D
評価点	【活動がPRにつながる】	周囲の方への周知もできてよい。	D
評価点	【目的に合った仕組みがよい】	交流の場が設けられる仕組みづくりがよい。	D
評価点	【テーマがよい】	ミツバチは興味をひきやすい、プロジェクトとして魅力的だ。	D
評価点	【テーマがよい】	ミツバチを育てることは環境によい。	D
改善点	【活用事業者等の拡大】	一般の人も含めたはちみつを活用しての事業展開の方法、アイデア等を広く求めるのがよい。	A
改善点	【価格が高い】	活用事業者が提供するはちみつ商品の価格が高いと思う。	A
改善点	【なぜ養蜂なのか】	なぜ養蜂なのか、危険生物であり、食物を扱うのでリスクが高い。	B
改善点	【なぜ養蜂なのか】	なぜこの事業なのか、どこかの企業の利益になっていないか。	B
改善点	【評価指標が不明確】	指標が明確でない。	B
改善点	【評価指標が不明確】	このプロジェクトによって、施策(1)の成果指標である「芝の家、ご近所ラボ新橋の来場者数」が増える理由がわからない。成果指標が相応しくないのではないか。	B
改善点	【評価指標が不明確】	芝BeeBee'sプロジェクトと成果指標の関係が見えない。	B
改善点	【評価指標が不明確】	成果指標と取組の成果が合っていない。	B

改善点	【評価指標が不明確】	事業収入をどのように管理しているのか明確にして欲しい。	B
改善点	【評価指標が不明確】	世代間交流の実績を定量的に評価して欲しい。	B
改善点	【PR強化】	ハチが嫌いな人もいる。ハチの喜ぶ植物が港区にも沢山あることをPRして、そういう人にも事業の意義を理解してもらう必要がある。	B
改善点	【PR強化】	知名度がまだまだ低いので高める工夫が必要。	B
改善点	【事業の認知不足】	あまり知られていない。宣伝が必要？SNSとか？	C
改善点	【事業の認知不足】	広く認知されていくとよいように感じます。	C
改善点	【事業の認知不足】	地域への活動告知が少ないのでは。あまり知られていない、プラス、活用事業者も含む。	C
改善点	【事業の認知不足】	芝地区への発信方法が乏しい。	C
改善点	【商品展開（活用方法）】	他の支所にも（しばみつの）サンプルを展開してみたら？	C
改善点	【商品展開（活用方法）】	（しばみつが）年に70Lは少ない→140Lに増やす。	C
改善点	【商品展開（活用方法）】	ハチミツキャンデーとかハチミツアイスクリームとか加工品を作っては？	C
改善点	【商品展開（活用方法）】	（しばみつを）給食には使えない？	C
改善点	【目的が不明瞭】	なぜ芝地区で養蜂事業なのかわからない。	D
改善点	【目的が不明瞭】	目的が伝わりにくいので、具現化して、わかりやすくしてほしい。	D
改善点	【活動の見える化】	世代間交流の見える化がされていない。	D
改善点	【多様なPR方法の検討】	周知方法をもっと工夫してはどうか。	D
改善点	【多様なPR方法の検討】	SNSだけでなくもっと幅広く発信した方がよい。	D
改善点	【多様なPR方法の検討】	デジタルサイネージを活用できるとよい。	D
改善点	【多様なPR方法の検討】	活用事業者の募集がHPを見てもわかりにくいので、周知が足りないのではないかな。	D
改善点	【収益の見える化】	はちみつの収益はどこへ入るかわからない。	D
重視すべき点	【花や緑を増やす活動との連携】	養蜂は花や緑の自然との関係があってこそ成り立つものであり、一般区民の緑化活動等との連携を深めることが大事である。	A
重視すべき点	【活動を多くの区民に周知】	SNS等を使って、広く区民へこの事業を周知することは大事である。	A
重視すべき点	【同じ活動をしている他地区との連携】	芝地区と同じような養蜂事業、養蜂活動を行っている都内他地区の団体との交流、連携を図っていくことは重要である。	A
重視すべき点	【定量的評価】	定量的評価（世代間交流、芝地区のPRへの貢献等）が必要だ。	B
重視すべき点	【定量的評価】	全ての計画の中でこのプロジェクトの位置づけを明確にするべきだ。	B
重視すべき点	【定量的評価】	お金の流れを明確にするべきだ。	B
重視すべき点	【認知度の向上（PR・告知の方法）】	事業を知ってもらうためにどうするか、どのような方法が考えられるかを重視する。	C
重視すべき点	【認知度の向上（PR・告知の方法）】	例えばロゴTシャツを作るなど、商品展開を拡大してはどうか。	C
重視すべき点	【認知度の向上（PR・告知の方法）】	しばみつを無料配布することでPR。	C
重視すべき点	【認知度の向上（PR・告知の方法）】	世代間交流を活発にするには、当事者となる住民にもっと知ってもらうこと。世代に合った告知方法があるはず。	C
重視すべき点	【認知度の向上（PR・告知の方法）】	養蜂の専門家に来てもらい話を聞く。	C
重視すべき点	【目的の明確化】	なぜ芝地区でミツバチを育てるのか、目的を明確化した方がよい。	D
重視すべき点	【目的の明確化】	目的である世代間交流をもっと発信していく必要がある。	D
重視すべき点	【目的の明確化】	都心で養蜂事業を実施することは、花が多く緑が豊かであることの証明となる。	D
重視すべき点	【状況の見える化】	PRなどをとおして、活動の状況が見える化することが必要だ。	D
次計画の方向性	【新たな商品開発】	区民に広くアイデアを求め、試供品の開発を行うことが期待される。	A
次計画の方向性	【他プロジェクトとの連携】	他のプロジェクトとの連携を図り、相乗効果を生み出すべきだ。	B
次計画の方向性	【知名度の向上】	発想そのものは面白いので、拠点を多くするなど知名度を上げる工夫をするべきだ。	B
次計画の方向性	【知名度か交流の促進か】	知名度を上げるのか、交流を促進するのか、方向性を明確にするべき。	B
次計画の方向性	【事業の目的を見失わないこと】	商品展開はあくまでこの事業の副産物。商品展開をすることが、結果として目的である世代間交流にも寄与できるとよい。	C
その他	【芝地区ならではの事業の理由付けが大切】	なぜ芝地区ではちみつかを示せばアピールになり、認知不足にも貢献できそう。理由付けすることでストーリーが生まれ、それがプロジェクトの強みにもなる。	C

8 Arc Island 竹芝

分類	見出し	意見要旨	グループ
評価点	【商品開発は高評価】	オードフレとアロマミストの二つの商品開発は高い評価である。	A
評価点	【高校との連携は高評価】	竹芝みなとフェスタでの商業高校との授業の一環としての連携は高く評価できる。	A
評価点	【交流・連携】	学校や地域・企業との連携が図られていてよい。	B
評価点	【交流・連携】	学校との連携は他の事業でも行うべきだ。	B
評価点	【竹芝再開発】	再開発の成果は出ている。	B
評価点	【商品開発】	商品開発の努力が評価できる。	B
評価点	【地域の学校との連携】	地域の学校と連携している点が良い。	C
評価点	【発信方法が効果的】	若者をとおして発信することや、香りを作って発信していくことは評価できる。	D
評価点	【参加しやすい関係づくり】	官民連携により、学校・地域が参加しやすくなってよい。	D
評価点	【期待できる取組】	今後の発展が期待できる。	D
評価点	【活動がPRにつながる】	コロナ禍でも知ってもらおうきっかけになっている。	D
評価点	【活動がPRにつながる】	若者もターゲットにして、島しよを知ってもらう機会づくりになっている。	D
改善点	【宣伝が伝わってない】	竹芝MGM協議会からの宣伝をもっと改善すべきである。	A
改善点	【事業に参加する区民が見えない】	「Arc Island 竹芝」の事業に参加している区民はどういった区民なのか見えない。	A
改善点	【事業に参加する為の情報の不足】	区民が「Arc Island 竹芝」事業に参加する為の情報提供が必要である。	A
改善点	【事業の主体が縦割り】	官民連携ということで、五つの課がそれぞれに係っているが、縦割りにならないように連携をとってすすめて欲しい。	A
改善点	【島しよを訪れるための施策を】	港区は島しよの入口にあるのだから、港区民が島しよを訪れる、訪れ易い施策をもっと必要である。	A
改善点	【竹芝エリアを島しよに誘う環境づくり】	浜松町から棧橋まではただ歩くだけの整備でなく、展示や音楽等島しよをイメージしたり、海の香りを感じさせる環境づくりの整備が必要である。	A
改善点	【ビジョンが不明確】	Arcに架け橋という意味は無いのでは。何と何を架けるのかよくわからない。	B
改善点	【ビジョンが不明確】	協議会の目的、ビジョンがわからない。2040年までの長い時間に何をやりたいのかわからない。	B
改善点	【島しよPRの不足】	島しよの魅力をもっと引き出す工夫が必要。PRも不足している。	B
改善点	【竹芝のイメージ向上】	竹芝のイメージアップにこれ以上やれることがあるのか。	B
改善点	【竹芝のイメージ向上】	竹芝ふ頭まで人は行っていない。人流を作り出す工夫が必要である。	B
改善点	【竹芝のイメージ向上】	竹芝みなとフェスタの実態や規模、どんな事をやっているのかわからない。	B
改善点	【竹芝のイメージ向上】	Arcアイランドという名称をPRするべきだ。	B
改善点	【予算】	予算の使途、妥当性を明確にするべきだ。	B
改善点	【成果指標】	島しよ振興が目的であるとすると、成果指標である「芝地区SNSのフォロワー数」との関係がわからない。	B
改善点	【成果指標】	SNSのフォロワー数を向上させることが必要。	B
改善点	【DX】	最新のDXなどを採用し、竹芝で島しよが体験できる工夫があるとよい。	B
改善点	【島しよの魅力の明確化】	魅力が何かわからない。	C
改善点	【島しよの魅力の明確化】	島しよの魅力が見えるよう工夫する。	C
改善点	【島しよの魅力の明確化】	島しよの魅力が何であるかを明らかにしたうえで、目的達成に向けた手段を考えることが大切。	C
改善点	【島しよの魅力の明確化】	島しよのことを沢山知りたい。	C
改善点	【島しよの魅力の明確化】	島しよ振興という目的の手段があいまい。観光に主眼をおくことがよいのか？	C
改善点	【島しよの魅力が伝わる商品開発】	観光以外のイメージのPR戦略は、オードトワレなどでよいのか？	C
改善点	【島しよの魅力が伝わる商品開発】	オードトワレではない何かを作る。	C
改善点	【島しよの魅力が伝わる商品開発】	商品サンプルを区内各所に置き認知度を高める。	C
改善点	【取組のアイデア】	体験することが島しよ振興につながっていくと思うので、里山学校のような島体験ができるとよい。	D
改善点	【多様なPR方法の検討】	よい活動なので、もっとPRをした方がよい。	D
改善点	【島しよを知るきっかけづくり】	大島の特産物などが竹芝で手に入るとよい。	D
改善点	【島しよを知るきっかけづくり】	竹芝に来た方に大島のことを知ってもらう物や場所があるとよい。	D
改善点	【島しよを知るきっかけづくり】	大島をもっと身近に感じられるものがあるとよい。	D

改善点	【連携の推進】	目的が同じだからWGがもっとお互いに連携していけるとよい。	D
改善点	【活動の拡大】	良さを広めるための活動が展開できるとよい。	D
改善点	【成功事例の導入】	地方の島などで発展したケースを参考に、エッセンスを取り入れて発展していけるのではないかな。	D
改善点	【効果の見える化】	港区から島しょへ人が行っているが、島から港区へ来ているのか、人の流れを生み出しているのか見えづらい。	D
改善点	【効果の見える化】	この事業が島しょにどう反映されているのか、見えにくい。	D
重視すべき点	【五つの事業をわかり易く】	区民に、五つの事業をもっとわかり易く宣伝することが重要である。	A
重視すべき点	【東京都との連携】	旅行クーポンの活用などを考えると、東京都との連携が必要である。	A
重視すべき点	【竹芝ふ頭のにぎわい】	竹芝ふ頭のにぎわいを作り出す工夫が必要だ。	B
重視すべき点	【竹芝ふ頭のにぎわい】	島しょの魅力を活用して竹芝のにぎわいを作るべきだ。	B
重視すべき点	【観光振興】	島しょの振興には観光が必要だ。本州からのインバウンドが必要だ。	D
重視すべき点	【観光振興】	船を増便するなどの本州からの旅行客のアクセスを増やすことが必要だ。	D
重視すべき点	【観光振興】	港区は島しょへの玄関なので、島の良さをPRすることが必要だ。	D
重視すべき点・次計画の方向性	【島しょの魅力が伝わる商品開発】	それぞれの活動がつながるイメージをつくる、観光×商品。	C
重視すべき点・次計画の方向性	【島しょツアーの拡充】	実際に島に行ってもらおうツアーを実施。	C
重視すべき点・次計画の方向性	【島しょツアーの拡充】	島しょでリモートワーク（ワーケーション）グループを派遣（実証実験）。	C
重視すべき点・次計画の方向性	【島しょツアーの拡充】	島しょまでスカイドライブする（空飛ぶくるま）。	C
重視すべき点・次計画の方向性	【島しょツアーの拡充】	島しょではUSドルを流通させる。	C
重視すべき点・次計画の方向性	【学校同士の連携・交流強化】	島の高校とも連携する（芝商業と）。	C
重視すべき点・次計画の方向性	【学校同士の連携・交流強化】	芝商業高校で島しょ対抗運動会をやる。	C
重視すべき点・次計画の方向性	【学校同士の連携・交流強化】	戸板女子大生に島しょにってもらい、面白レポートしてもらおう。	C
重視すべき点・次計画の方向性	【その他の連携・交流】	民間や高校との連携がよい。	C
重視すべき点・次計画の方向性	【その他の連携・交流】	島しょで区議会を開催する。	C
重視すべき点・次計画の方向性	【島しょに行かなくてもできることを考える】	「行かないとわからない」をどうするか。	C
重視すべき点・次計画の方向性	【島しょに行かなくてもできることを考える】	竹芝側で椿祭りや連携した何かを考えるなど、島しょに行かなくてもできることが重要。	C
重視すべき点・次計画の方向性	【島しょに行かなくてもできることを考える】	島しょの疑似体験ができるとよい。	C
次計画の方向性	【DX・アバター】	DXを利用し、竹芝で島しょが体験できるバーチャル空間を創出する。	B
次計画の方向性	【島しょを知る、竹芝を知る】	島しょも、竹芝も、まずは知ることが大事。	C
その他	【なぜ竹芝だけ？】	なぜ竹芝でだけこのような取組が行われているのか。	C

芝地区版計画推進部会 第4回 グループワーク記録

<p>●地域事業</p> <p>6 芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～</p> <p>10 地域で支え合う ～アロマネットワーク～</p>	<p>●意見の分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価点 ・改善点 ・重視すべき点 ・次計画の方向性 ・その他
---	---

6 芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～

分類	見出し	意見要旨	グループ
評価点	【取り組みは評価できる】	トランスボックスに絵を掲示するのはよい考えだと思う。港区を訪れる人の目を楽しませることができる。	A
評価点	【取り組みは評価できる】	トランスボックスという無機質な場所に彩りが生まれてよい。	A
評価点	【アートに触れることはよい】	日常生活の中でアートに触れられるのはよいことだ。	A
評価点	【アートに触れることはよい】	アートの取組としてよいと思う。	A
評価点	【障害者と触れ合えてよい】	アートをとおして障害者の方々との触れ合いが生まれるのはよい。	A
評価点	【アートが身近に】	アートが身近に感じる企画でよいテーマだと思った。	B
評価点	【アートが身近に】	視覚で日常の中にアートに触れられてよい。	B
評価点	【トランスボックスが身近に】	トランスボックスは落書きされているのが普通であり、それが綺麗になっているのはよいことである。	B
評価点	【トランスボックスが身近に】	トランスボックスは無機質なので景観にとってあまりよくなかったが、アートによってそれが改善された。	B
評価点	【参加】	区民が絵を描くことによってまちづくりに参加できることはよい。	B
評価点	【参加】	子どもたちが参加できるのははげみになる。	B
評価点	【参加】	参加者が参加できていることはよい。	B
評価点	【トランスボックスの活用を評価】	人目につくトランスボックスへのアート展示により、一定の認知が得られているのはよいこと。	C
評価点	【トランスボックスの活用(特徴的/美観にも貢献)を評価】	トランスボックスの利用は特徴的であり、描かれている絵を見て癒される部分もある。	C
評価点	【トランスボックスの活用(特徴的/美観にも貢献)を評価】	具体的な絵を街中で目にすることができてよい。	C
評価点	【トランスボックスの活用(特徴的/美観にも貢献)を評価】	トランスボックスへの落書き防止に加え、絵が展示されることで、芝地区・港区の街の美観に貢献している。	C
評価点	【トランスボックスの活用(特徴的/美観にも貢献)を評価】	地域への愛着を醸成するための事業として、コストパフォーマンスがよさそう。	C
評価点	【多様な参加者を評価】	多様な人が参加でき、ダイバーシティの促進にもつながる。	C
評価点	【オンラインの活用がよい】	オンラインでもアート体験を実施している点がよい。	D
評価点	【街にあるものの活用がよい】	街にあるものを使っている点がよい。	D
評価点	【身近でアートを感じられるのはよい】	美術館に行かず、身近でアートに触れられる。	D
評価点	【身近でアートを感じられるのはよい】	身近でアートを感じられるのはよい。	D
評価点	【身近でアートを感じられるのはよい】	まちなかに掲示されることで、喜びや会話のきっかけづくりになる。	D
改善点	【事業名の明確化】	事業名に英語が入っていて、事業内容のイメージがつきにくい。	A
改善点	【アートの再定義が必要】	今行っている取組は"Art"というよりは"Picture"という意味に近い。"Art"とするなら取組の内容を幅広くする必要がある。	A
改善点	【地域へのつながりが見えない】	地域へどうつながっているのかわからない。	A
改善点	【事業の背景を明確にする】	なぜアートが事業として立ち上がったのかわからない。街全体で見て、芝地区にはもっとアートがあるはずだ。	A
改善点	【目標が見えない】	芝地区内にトランスボックスはいくつあるのか。アートがもっと増えるという、トランスボックス以外にも活用できるスペースはあるのか。	A

改善点	【ワークショップ内容が不明瞭】	支出も含めてワークショップの内容が見えないので、もう少し詳しく説明してほしい。	A
改善点	【効果的なPRが必要】	もっと広報が必要ではないか。	A
改善点	【効果的なPRが必要】	SNSでの発信が必要ではないか。	A
改善点	【参加型を取り入れる】	自由な発想を取り入れるためにコンテストを開催してはどうか。	A
改善点	【参加型を取り入れる】	参加型アートがあるとよい。	A
改善点	【機器を地中化してはどうか】	トランスボックス自体を地中化してはどうか。	A
改善点	【参加者が限定されている】	障害者だけでなく、いろんな人へ参加の呼びかけをするべき。	B
改善点	【事業効果？】	目標と成果の関係が不明確である。	B
改善点	【事業効果？】	ワークショップの効果が不明確である。	B
改善点	【事業効果？】	事業内容の主旨はわかるが、事業費を300万円もかけて効果があったのかどうか適正だとは思えない。	B
改善点	【事業効果？】	ワークショップに200万円もかけた支出内容を知りたい。	B
改善点	【事業効果？】	ワークショップに200万円もかけるのは過大ではないのか。	B
改善点	【事業効果？】	ワークショップが1回しか行われなかったのは少なすぎる。	B
改善点	【トランスボックスへの設置数が少ない】	トランスボックスの数に比べて、絵の数が圧倒的に少ないのは効果が低いのではないか。	B
改善点	【トランスボックスへの設置数が少ない】	トランスボックスの数に比べて、絵の数が圧倒的に少ないのは効果が低いのではないか。何処まで広げるのか、今後の予定を明らかにして欲しい。	B
改善点	【トランスボックスへの設置数が少ない】	計算すると1枚あたり3万円の費用となるが、それはコスト的に高いのではないか。	B
改善点	【地域性の問題】	芝に相応しいテーマだとは必ずしも思えない。地域性を考えるなら、例えば浮世絵をテーマにしたほうがよいのではないか。	B
改善点	【地域性の問題】	これは障害者の絵であって、港区に相応しいような水準のアートではないのではないか。	B
改善点	【企画への区民参画】	区内には、こういうモノに関する専門家は多数いらっしゃるはず。そういう人に企画してもらったほうがよいのでは。	B
改善点	【対象作品の選定／対象の拡大】	展示作品を選ぶシステムがわかりづらい。芸術家なのか、一般の方なのか。	C
改善点	【対象作品の選定／対象の拡大】	例えば定年後本気でアート制作に取り組むなど、プロ並みになった住民の方々の作品が見られるとよい。	C
改善点	【対象作品の選定／対象の拡大】	アートというからには、もっととがった作品が見られるとよい。	C
改善点	【よりインパクトのある展示の検討】	トランスボックスは実際にはそれほど大きくなく、街中でよりインパクトのある展示ができないか。	C
改善点	【アートへの親しみ方の啓蒙】	アートへの親しみ方、どのように鑑賞するかなどをわかりやすく啓蒙できるとよい。	C
改善点	【アートの掲載場所を増やす】	区域内の全てのトランスボックスにアートを設置してもよいのではないか。	D
改善点	【アートの掲載場所を増やす】	トランスボックス以外のもも使って、アートの掲示数を増やしてもよい。	D
改善点	【アートの掲載場所を増やす】	商店街のシャッターをシャッターアートとして利用してもよいのではないか。	D
改善点	【アートの掲載場所を増やす】	トンネルや高架下等の身近で通りすがりに鑑賞できる場所にアートがあるとよい。	D
改善点	【アートの掲載場所を増やす】	地域に子どもが描いた絵を掲示できる場所を設けてはどうか。	D
改善点	【イベントの告知方法の改善】	イベントの告知方法の改善が必要だ。	D
改善点	【インスタ映えする風景をつくるべきだ】	一か所に作品を集中的に展示するとインスタ映えするのでよい。	D
改善点	【大人向けのイベントも実施すべきだ】	大人向けで教養的な話はニーズがあるのではないか。	D
改善点	【自由に描ける空間も必要だ】	作品を飾ることと並行して、屋外に自由に絵を描ける場所もあるとよい。	D
改善点	【自由に描ける空間も必要だ】	優秀な作品だけでなく、自由に描かれたものを鑑賞する場が合ってもよい。	D
改善点	【障害者以外のアートがあってもよい】	障害者以外のアートが合ってもよいのではないか。	D
改善点	【障害者以外のアートがあってもよい】	もっと広域で、アーティストを応援してもよいのでは。	D
改善点	【障害者以外のアートがあってもよい】	美大生の絵やアーティストの絵も展示してもよいのではないか。	D
改善点	【障害者以外のアートがあってもよい】	風鈴、灯籠づくりなど、絵以外でもよいのではないか。	D
改善点	【対象や目的の明確化が必要だ】	事業の対象や目的がよくわからない。	D
重視すべき点	【アートの再定義が必要】	今の取組内容では、アートとしては狭義の意味になっている。	A

重視すべき点	【事業名に合った取組内容が必要】	今の取組内容では、事業名にある「アートに親しむ」にはなっていないので、取組内容を見直す必要がある。	A
重視すべき点	【複数の取組内容を関連させる】	2つの取組内容を関連させることが必要だと思う。	A
重視すべき点	【複数の取組内容を関連させる】	トランスボックスに何を掲示するのかを考えるワークショップにすれば、2つの取組が関連できてよい。	A
重視すべき点	【明確な目標の設定】	トランスボックスだけでなく、別の対象物への掲示も検討してはどうか。	A
重視すべき点	【明確な目標の設定】	トランスボックスはあといくつ掲示できて、どこまで掲示するのか目標を明確にする必要がある。	A
重視すべき点	【成果・目標の明確化】	7年間やった成果は何なのか？長期ビジョンは何なのか？それが明確になれば、ワークショップのアイデアも見えてくる。	B
重視すべき点	【参加者の拡大】	高齢者も参加させるべき。	B
重視すべき点	【多様な主体の参画による地域に根差した企画が必要】	区内の多様な専門家、事業者が参画すれば、地域性もったより素晴らしい企画が生まれるはず。	B
重視すべき点	【目標の明確化】	全部のトランスボックスに絵を付けるぐらいの目標として欲しい。	B
重視すべき点	【プロジェクトの軸を明確に】	本プロジェクトの軸が何なのかをはっきりさせることが、取組自体のアピールにもつながる。	C
重視すべき点	【自由に参加できる仕組みづくり】	街の中に、誰もが自由に描けるキャンパスのようなものがあるとよい。	C
重視すべき点	【自由に参加できる仕組みづくり】	プロに監修してもらうことで、「素人による落書き」と「アート」との差別化を図る。	C
重視すべき点	【街と一体となったアートの展開】	既存の街並みなども取り込んだ、街を舞台としたアートの展開。	C
重視すべき点	【街と一体となったアートの展開】	芝地区ならではのアートスポットの創出。	C
重視すべき点	【街と一体となったアートの展開】	美術館へと続く道をアートロードにするなど、アートと場所との紐づけ。	C
重視すべき点	【街と一体となったアートの展開】	地区にゆかりのある著名アーティストとの連携。	C
重視すべき点	【対象の拡大】	幅広いアートへ対象を拡大する（絵画に限定しない）。	C
重視すべき点	【賞金の設定】	コンテストを開催して優秀者には賞金を出す方が質の高いアートが生まれるのではないかな。	D
重視すべき点	【ターゲットの明確化】	素人ではなく、アーティストがきっちり描く場所があってもよい。	D
重視すべき点	【多様な場所でのアートの設置】	トランスボックス以外の場所、色々な場所にアートを設置する。	D
重視すべき点	【地域ごとにアートの取り組みがあるとよい】	地域ごとにワークショップでアートのテーマやアートを設置する場所を決めてもよいのではないかな。	D
次計画の方向性	【取組のアイデア】	「みんなで作るアート」	B
次計画の方向性	【取組のアイデア】	高齢者サークルの発表の場として活用	B
次計画の方向性	【取組のアイデア】	地域の専門家の参画	B
次計画の方向性	【取組のアイデア】	全てのトランスボックスへ	B
次計画の方向性	【具体的アイデア】	アート作品を用いた製品化の検討（具体的アイデア）	C
次計画の方向性	【具体的アイデア】	学校の校庭アート、空から記念撮影（アイデア）	C
次計画の方向性	【具体的アイデア】	区の施設を開放しては。学校、各会館、スポセン	C
次計画の方向性	【具体的アイデア】	アート作品をネットで公開し、アーティストに収益が入るような仕組みをつくってはどうか。	C
次計画の方向性	【アートマップの作成】	アートが設置されている場所を示した地図があってもよい。	D
次計画の方向性	【アートマップの作成】	絵を自由に描けるばしょも地図に落としておく。	D
次計画の方向性	【インスタ映えする風景づくり】	街なかのアートがインスタ映えするような風景づくりができるとよい。	D
次計画の方向性	【自由に描ける空間形成】	自由に落書きができるスペースも用意することで、芸術作品から落書きまで多様な質のアートが生まれる。	D
次計画の方向性	【自由に描ける空間形成】	自由に落書きができるスペースを地図上で案内することで、芸術作品から落書きまで多様な質のアートが生まれる。	D
次計画の方向性	【自由に描ける空間形成】	歩道でチョークアートができる場所を設定し、自由に描けるようにしてはどうか。	D
次計画の方向性	【場所ごとにアートのテーマを設けてはどうか】	学校卒業などのタイミングで絵を描ける場所を設定すると、地区内に、住民が親しみやすいアートがあふれる環境ができる。	D
その他	【アートにメッセージ性は必要か】	扱うアートに共通するメッセージが込められていてもよいのでは。	C
その他	【アートにメッセージ性は必要か】	共通するメッセージは必要か？	C
その他	【作品に匿名性は必要か】	作品に関わった「人」の姿が見えるとよい。	C
その他	【作品に匿名性は必要か】	「人」の姿は見えない方がよい？	C
その他	【質問】	ワークショップの成果は、どこかで展示されているのか。	D
その他	【質問】	区域内のトランスボックスの数を把握したい。	D

10 地域で支え合う ～アロマネットワーク～

分類	見出し	意見要旨	グループ
評価点	【事業内容は評価できる】	高齢者とアロマセラピーを組み合わせているのが面白い。	A
評価点	【事業内容は評価できる】	香りがよいのでアロマセラピーの効果はありそう。	A
評価点	【事業内容は評価できる】	ハンドマッサージを一方的に提供するだけでなく、学ぶこともできるのはよい。	A
評価点	【事業内容は評価できる】	ボランティアがいないと成り立たないのではないかと。養成講座があるのはよい。	A
評価点	【指標がわかりやすい】	担い手の増加が成果指標になっていてわかりやすい。	A
評価点	【認知症対策、予防医療】	認知症対策としては効果があるのはよい。	B
評価点	【認知症対策、予防医療】	効果があり手軽である。	B
評価点	【目的が明確】	この事業単体のみでなく、上位プログラムの目的とも合致している。	B
評価点	【目的が明確】	ボランティアの育成という拡大方針があるのはよい。	B
評価点	【認知症対策、予防医療】	効果があり手軽である。	B
評価点	【イメージがよい】	アロマセラピーは誰にでも受け入れられやすいイメージがある。	C
評価点	【イメージがよい】	何か効果がありそう、リラックスできそうなど、よい印象がある。	C
評価点	【手軽に楽しめる】	手軽に楽しめるのがよい。	C
評価点	【人と人とのつながりが生まれている】	アロマ（香り）をきっかけに人のつながり・交流が生まれるのはよいこと。	C
評価点	【事業継続による認知度の向上】	事業が長く継続しており、認知も高まってきているのはよいこと。	C
評価点	【人と人とのつながりが生まれている】	アロマ（香り）をきっかけに人のつながり・交流が生まれるのはよいこと。	C
評価点	【アロマオイルの効果がよい】	身近なものが認知症に効果があることを周知できてよい。	D
評価点	【交流できるのがよい】	地域の人と高齢者が交流できるのがよい。	D
評価点	【高齢者の生きがいになる】	高齢者自身がボランティアの担い手になるのがよい。	D
評価点	【認知症周知のきっかけとしてよい】	地域の人々が認知症を知るきっかけづくりになる。	D
評価点	【よい取り組みだ】	認知症予防はよい取り組みだ。	D
評価点	【よい取り組みだ】	予算を増やして充実させるべきだ。	D
評価点	【よい取り組みだ】	認知症対策とアロマセラピーを結び付けたことはよい。	D
評価点	【リラックス効果がよい】	マッサージによるリラックス効果がよい。	D
改善点	【コロナ禍で実施する意義が不明】	コロナ禍で触れ合うことが難しいにもかかわらず、継続する意義がわからない。	A
改善点	【アロマで支え合いができるのか】	高層マンションの高齢者などは在宅が多いとわかっているなら、養成講座によるネットワーク形成ではなく、別の方法を考えた方がよいのではないかと。	A
改善点	【アロマで支え合いができるのか】	課題に対してアロマセラピーを施すことが解決策になっているのかわからない。目的は何か。	A
改善点	【講座の内容が不明】	具体的な講座の内容がわからないが、認知症の方へのアプローチ方法は教えてもらえるのか。	A
改善点	【事業費は妥当】	事業費に対して実施内容は妥当だと思う。ボランティアのおかげだと思う。	A
改善点	【事業費は妥当】	ボランティアのおかげで成り立っている事業だと思う。	A
改善点	【事業内容の見直し】	子どもとの交流の場として活用できるとよい。	A
改善点	【事業内容の見直し】	多世代交流を目指しているのになぜ高齢者だけが対象になるのか。	A
改善点	【対象者の拡大】	養成講座の対象者に広がりが見られるとよい。	A
改善点	【対象者の拡大】	養成講座は男性が入りづらい。	A
改善点	【効果的なPRが必要】	広報が必要ではないかと。	A
改善点	【受講対象者の明確化】	誰が養成講座を受けられるのかよくわからない。	A
改善点	【事業規模、内容が不明確】	事業規模が小さいのではないかと。50万円が小さいというより、もっと事業を拡大してもよいはず。	B
改善点	【事業規模、内容が不明確】	ボランティア参加人数と、参加者数を明示して欲しい。	B
改善点	【事業規模、内容が不明確】	単価が高いのではないかと。	B
改善点	【事業規模、内容が不明確】	事業内容をもう少し説明して欲しい。	B
改善点	【本物のアロマ】	本物のアロマを利用するならば、もっと事業費は高くなるはず。	B
改善点	【拡大方法に工夫が必要】	育成方法によって、ボランティアを拡大できる方法はあるはず。	B
改善点	【拡大方法に工夫が必要】	活躍できる場を工夫することによって、ボランティアを拡大できる方法はあるはず。	B
改善点	【拡大方法に工夫が必要】	参加しやすい場所に工夫が必要。マンションのロビーなど。	B
改善点	【拡大方法に工夫が必要】	NPOや事業者と連携すればもっと裾野が広がるはず。	B
改善点	【拡大方法に工夫が必要】	PR不足。	B
改善点	【拡大方法に工夫が必要】	アロマの利用をハンドマッサージに限定せず、いろんなテーマで活用すれば、いろんな世代が参加できるはず。	B

改善点	【地域の支えあいの効果？】	コロナ禍で中止となり、施すボランティアを育成しても高齢化が進んで、あまり活動が出来ていないと聞いている。	B
改善点	【地域の支えあいの効果？】	アロマの効果については理解できるが、もう一つの「支え合い」という面ではなかなか効果が見えない。支え合いを何処まで求めるのか？	B
改善点	【事業による効果（成果）の把握】	事業としてどのような効果（成果）があったかわかりづらい。	C
改善点	【対象者が限定されている】	アロマ＝認知症予防と結び付けてしまうと、間口が狭くなってしまう。	C
改善点	【対象者が限定されている】	年齢制限を設ける必要はある？	C
改善点	【対象となる人へのアプローチ方法】	実際に認知症の方にどのくらいアプローチできているのか。そこまでできていないのでは？	C
改善点	【対象となる人へのアプローチ方法】	孤立するような方に参加してもらうのは、現実的には難しいのでは？	C
改善点	【対象となる人へのアプローチ方法】	どのくらいの方々が参加している？また、性別により参加率に偏りはある？	C
改善点	【質を高める（使用するオイル／空間づくり）】	アロマオイルにもピンキリある。アロマだからよいのではなく、使用するオイルの質にこだわりたい人もいるはず。	C
改善点	【質を高める（使用するオイル／空間づくり）】	どのような空間で行うか、空間づくりも大切。	C
改善点	【事業イメージの改善】	認知症といったマイナスのイメージを、プラスに変えていける空気感を伝えられるとよい。	C
改善点	【講座の周知方法の検討】	講座があることを知らなかった。	D
改善点	【講座の受講者の検討】	講座の対象者がわかりにくい。	D
改善点	【講座の受講者の検討】	ケアマネをとおして介護家庭から受講できるとよい。	D
改善点	【今後の展開が気になる】	今後、アロマやマッサージからどのように展開していくのが気になる。	D
改善点	【認知症サポーター育成とは分けるべき】	認知症のサポーターとアロマの効果を一緒に扱うのは難しいのではないかな。	D
改善点	【マッサージ以外の手法の検討が必要】	マッサージを気持ちよく思うかどうかには個人差がある。	D
改善点	【マッサージ以外の手法の検討が必要】	コロナ禍で他人に直接触れる行為は見直すべき。	D
改善点	【マッサージのボランティアの在り方】	地域別にサークルを作り、若い世代が参加するとよい。	D
重視すべき点	【事業対象者の再整理が必要】	高齢者を集めるのか、マッサージする人を集めるのか、誰が対象なのか、事業実施した後がぼんやりしてわからない。	A
重視すべき点	【事業実施の意義】	高齢者の見守りとしてこの事業を実施することに意義があるのかわからない。	A
重視すべき点	【事業内容の見直し】	マッサージより話す方が必要ではないか。アロマでなくてもいいのではないかな。	A
重視すべき点	【事業の拡大】	よい事をやっているので拡大するべき。	B
重視すべき点	【取組内容の見直し】	入口としてのアロマの効果はわかるが、それを地域の支えあいとするには工夫が必要。コミュニケーションの取り方に工夫の余地あり。	B
重視すべき点	【男性が参加しやすい工夫が必要】	手を触られるのは気持ち悪いという感想あり。男性はまず参加しないだろう。男性も参加できる何かが必要。	B
重視すべき点	【幅広い人々の認知症への理解を深める】	認知症は高齢者だけの問題ではなく、この事業をとおして、認知症の兆候に気づける人が増えることが重要。	C
重視すべき点	【対象の拡大／明るいイメージづくり】	対象を広げつつ、暗くならない、明るいイメージづくり。	C
重視すべき点	【対象の拡大／明るいイメージづくり】	テーマ（イメージ）を決める、例えばハワイアン「アロハでアロマ」。	C
重視すべき点	【対象の拡大／明るいイメージづくり】	アロマをつかって対象を広げるとか（アイデア）。	C
重視すべき点	【幅広い人々の認知症への理解を深める】	認知症は高齢者だけの問題ではなく、この事業をとおして、認知症の兆候に気づける人が増えることが重要。	C
重視すべき点	【参加しやすくするための工夫】	ひとり暮らしの高齢者は、この場に出ることに、参加すること自体にハードルがある。参加しやすくするためにはどうすればよいか、工夫が必要。	C
重視すべき点	【多世代の関係づくり】	高齢者と若い人のネットワークづくりのきっかけになるとよい。	C
重視すべき点	【コロナ禍でアロマをマッサージ以外で活用する】	マッサージの代わりに足湯をしてもよいのではないかな。	D
重視すべき点	【コロナ禍でアロマをマッサージ以外で活用する】	マスクにアロマを吹き付ける。	D
重視すべき点	【コロナ禍でアロマをマッサージ以外で活用する】	人が集まる空気の悪い場所にミストアロマを撒いてはどうか。	D
重視すべき点	【他の事業と一緒に開催する】	認知症サポーター養成講座と一緒にアロマに取り組んではどうかな。	D
重視すべき点	【次の展開を考えるべきだ】	アロマを使った次の展開を考えるべきだ。	D
重視すべき点	【次の展開を考えるべきだ】	認知症予防効果のある他の取り組みとアロマを組み合わせ、楽しい取組になるとよい。	D

重視すべき点	【次の展開を考えるべきだ】	多くの人が参加できる認知症予防策があるとよい。	D
重視すべき点	【次の展開を考えるべきだ】	アロマ以外の展開も検討すべきだが、事業として成立しないのか。	D
次計画の方向性	【事業目的と内容の再整理】	セーフティネットの構築をするなら、区全体で取り組むより町丁目単位の方がより効果的ではないか。	A
次計画の方向性	【講座受講者の活動】	講座を受けた人がその後の活動を継続できるとよい。	A
次計画の方向性	【多様な世代、男性が参加しやすい工夫が必要】	アロマの有効性はわかった。出口としてのふれあいに工夫の余地あり。多様な年齢層や、男性が参加できる別の企画が必要	B
次計画の方向性	【取組のアイデア】	港区で育てているラベンダーをアロマにする。	B
次計画の方向性	【参加者に「与える」から、参加者から「引き出す」への展開】	高齢者に対しては、何かを与えるのではなく、できることを引き出してあげると意識も大事。さらには高齢者が主導していけるような仕掛けがあるとよりよい。	C
次計画の方向性	【事業内容の拡充】	アロマに限らず事業内容の幅を広げる。	C
次計画の方向性	【事業内容の拡充】	高齢者は自分の力で爪を切ることが難しく、ネイル4級をとって爪のケアにも挑戦するのはどうでしょうか（アイデア）	C
次計画の方向性	【事業内容の拡充】	手のツボ押しマッサージもプラスすれば（アイデア）	C
次計画の方向性	【事業内容の拡充】	継続的に脳を活性化させたり、感情を刺激するような事業の方が参加すると思う（アイデア）	C
次計画の方向性	【事業内容の拡充】	簡単なゲームを実施する（アイデア）	C
次計画の方向性	【養成講座との連携】	養成講座を受けた人の活動の場になるとよい。	C
次計画の方向性	【参加者に「与える」から、参加者から「引き出す」への展開】	高齢者に対しては、何かを与えるのではなく、できることを引き出してあげると意識も大事。さらには高齢者が主導していけるような仕掛けがあるとよりよい。	C
次計画の方向性	【アロマをつくることも考えてはどうか】	植物を育ててそこからアロマをつくるのもよい。	D
次計画の方向性	【アロマをより進化させてはどうか】	アロマ検定等と組み合わせ、アロマに興味のある層を引き付けてはどうか。	D
次計画の方向性	【講座の効果測定が必要だ】	講座修了者のその後の活動について、追跡をすべきだ。	D
次計画の方向性	【対象別に講座の内容を変えてはどうか】	居住地や世代別に講座の内容を変え、見守りの担い手になるようより実践的にすべきだ。	D
次計画の方向性	【マッサージを今後も実施すべき】	家族であればマッサージしても大丈夫だ。	D
次計画の方向性	【マッサージを今後も実施すべき】	タクティールケアとして取り組んではどうか。	D
次計画の方向性	【マッサージを今後も実施すべき】	若い世代もマッサージを受ける対象としてほしい。	D
その他	【対象者（高齢者）の需要に合っているか】	アロマセラピーは、ひとり暮らしの高齢者が本当に受けてみたいと思えるものなのか？	C
その他	【対象者（高齢者）の需要に合っているか】	高齢になると嗅覚が弱くなることもあり、アロマの香りを感じられているのかが疑問。	C

芝地区版計画推進部会 第5回 グループワーク記録

<p>●地域事業</p> <p>3 ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～</p> <p>4 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト</p>	<p>●意見の分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価点 ・改善点 ・重視すべき点 ・次計画の方向性 ・その他
--	---

3 ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～

分類	見出し	意見要旨	グループ
評価点	【成果は出ている】	事業の成果は出ているので、卒業生への情報を適切に提供してほしい。	A
評価点	【人財の養成はよい】	地域コミュニティの活性化を目的とした人財の育成はよい。	A
評価点	【人財の養成はよい】	地域の人財を養成するのはよい。	A
評価点	【募集方法の変更はよい】	メンバーの募集方法が以前より改善された点がよい。	A
評価点	【講座内容がよい】	講座内容が人財を養成する内容となっていてよい。	A
評価点	【募集要項の資料が魅力的だ】	募集要項の資料も活気があり魅力が伝わる内容になっていてよい。	A
評価点	【募集方法はよい】	無作為抽出でダイレクトメールを送るのは効果的だ。	A
評価点	【内容面白い】	講師陣が全国で活動している人ばかりであり、内容も面白い。	B
評価点	【内容面白い】	講義とワークショップを組み合わせているなど、工夫されている。	B
評価点	【内容面白い】	人財育成という視点がよい。	B
評価点	【内容面白い】	生涯学習のようでとても勉強になります。	B
評価点	【内容面白い】	講師陣の人材が豊富である。内容も素晴らしい。	B
評価点	【内容面白い】	内容は若い人たちの学びの場として優れている。	B
評価点	【創造的最新の知識】	講義の内容は想像的かつ最新の知識であり、自由な発想を促す内容となっている。	B
評価点	【継続性】	多くの卒業生が学んだ事を活かして活動を続けている（グループBの参加者のうち4人は卒業生）。	B
評価点	【継続性】	活動が10年継続されていることはよい。	B
評価点	【交流】	参加者同士のつながりのためのイベントも行われている。	B
評価点	【交流】	異年齢の人々との交流が生活を人生を豊かにする。	B
評価点	【きっかけ作りとしてよい】	地域コミュニティに参加する方法を学べるのがよい。	C
評価点	【講座の募集方法がよい】	ダイレクトメールでの広報は直接届くのでよい。	C
評価点	【講座の募集方法がよい】	卒業後を考えると在勤者中心に募集をかけるのはよい。	C
評価点	【講座の募集方法がよい】	ダイレクトメールは多様な区民に講座を知らせることができる点がよい。	C
評価点	【人脈ができる】	人とつながる足掛かりになる点がよい。	C
評価点	【人脈ができる】	仲間をつくることのできるのがよい。	C
評価点	【地域づくりの勉強ができる】	地域づくりの方法を学べるのがよい。	C
改善点	【慶応大学との関わりが見えない】	慶応大学とのかかわりあいは何をしているのかわからないので、具体的に知りたい。	A
改善点	【修了生の活動の実態が見えない】	各年度の参加人数の平均はどのくらいか。	A
改善点	【町会とのつながりが見えない】	地元の人の参加が少ないので、町会の人を巻き込む方法を考えた方がよい。	A
改善点	【町会とのつながりが見えない】	広く募集するのではなく、町会・自治会などに声をかけるのはどうか。	A
改善点	【町会とのつながりが見えない】	地域全体で見て、複数の町会との関係はどうか。PTAとの関係はどうか。	A
改善点	【受講者を区民優先にする】	港区で活躍する人財を育てることが目的なので、区民優先で受講を促すべきだ。	A
改善点	【修了生が継続して活動ができる点とよい】	修了生による活動の延べ人数はどのくらいか。	A
改善点	【修了生が継続して活動ができる点とよい】	修了するとやめる人が多いので、修了後のフォローまでもう少しやるべきだ。	A
改善点	【修了生が継続して活動ができる点とよい】	人財の活用はどうなっているのか。	A
改善点	【定員20人は少ない】	各年度20人の定員だと狭いコミュニティになってしまわないか。	A
改善点	【定員20人は少ない】	募集20人は少ないのではないか。	A

改善点	【実施内容を知りたい】	プロジェクトの内容や具体的な例を知りたい。	A
改善点	【活動場所はどこなのか】	地域活動は室内だけでなく外でも行っているのか。	A
改善点	【講座と修了後の活動場所は連携すべきだ】	講座と講座修了後の活動場所が連携できていない。	A
改善点	【講座と修了後の活動場所は連携すべきだ】	活動場所の運営ができていない。	A
改善点	【定員・日程】	定員が少ないために10年の活動でもそれほど多くの人材を生み出していない。	B
改善点	【参加しづらい?】	芝地区の参加者の割合が低いのではないかと。芝地区からの参加者が増えるとよい。	B
改善点	【参加しづらい?】	港区役所の職員も参加すべき。	B
改善点	【参加しづらい?】	区在住者の参加が少ないのではないかと。アプローチすべき。	B
改善点	【周知不足】	10年以上の活動のわりには周知度は高くない。	B
改善点	【周知不足】	周知が足りない。活動を知っている人は少ない。	B
改善点	【周知不足】	港区在勤者への周知をもっと行うべき。	B
改善点	【周知不足】	内容はよいのだから、内容をもっと周知すべき。	B
改善点	【成果】	成果が人材であるため見えにくい。	B
改善点	【成果】	修了生の活動をもっとPRする。	B
改善点	【評価】	10年の活動で結局何が達成されたのかよくわからない。	B
改善点	【評価】	過去の活動のアーカイブをするべき。	B
改善点	【地域とのつながり?】	町会や地域のボランティア活動とのつながりがあまりよく見えない。つながったらどうか。	B
改善点	【募集方法に工夫が必要だ】	ターゲットにピンポイントに伝わる方法がよい。	C
改善点	【募集方法に工夫が必要だ】	SNSでの募集は、SNSをしない人には効果がない。	C
改善点	【募集方法に工夫が必要だ】	無作為抽出での募集に効果があるか検証が必要だ。	C
改善点	【講座終了後の活動がわかるとよい】	活動が一般の人にわかりやすく公開されるとよい。	C
改善点	【いつまで講座を開催するのか検討が必要】	講座の卒業生のネットワークを作り、講座の成果が見えるようになるとよい。	C
改善点	【講座終了後の活動がわかるとよい】	芝地区で活動するには在勤在住であることも大切だ。	C
改善点	【他の事業との相乗効果が欲しい】	芝の家の活動と卒業生の活動の相乗効果があるとよい。	C
改善点	【講座名を再考してほしい】	60代も参加しやすい環境づくりが大切だ。	C
重視すべき点	【当初の事業目的から外れないようにする】	地域コミュニティをつくる人材を育成するという目的から外れないことが重要だ。	A
重視すべき点	【参加しやすい環境と修了後の活動の場の整備が必要】	参加しやすい環境（入口）と修了後の活動の場（出口）を整備し、目的に合う取組であるべきだ。	A
重視すべき点	【関わり方の多様化を図る】	修了後の活動を広げるため、様々な主体（地域町会やPTA）とのかかわりを考える必要がある。	A
重視すべき点	【内容はよい】	内容はよい面白い。	B
重視すべき点	【内容はよい】	多様性がある。	B
重視すべき点	【内容はよい】	いろんな年齢の人と話ができる。	B
重視すべき点	【PR不足】	新聞には出ているがよいものだとは気づかない。	B
重視すべき点	【PR不足】	情報発信の努力がされていない、強化すべき。	B
重視すべき点	【しきいが高い】	面接がある。	B
重視すべき点	【しきいが高い】	募集要項が立派過ぎ。	B
重視すべき点	【しきいが高い】	土日がメイン。	B
重視すべき点	【終了後の活動をイメージしやすく】	講座終了後の修了生の具体的な活動をイメージして募集方法や講座の内容を決めるべきだ。	C
重視すべき点	【事業の終了の検討が必要】	事業の終了も考えるべきだ。	C
重視すべき点	【終了後の活動をイメージしやすく】	講座終了後の活動の場を講座とセットで設けるべきだ。	C
重視すべき点	【卒業後のフォローアップが必要だ】	修了生同士が交流し、お互いの活動を紹介しあったり、活動の仲間を募集できるような場があるとよい。	C
次計画の方向性	【多様なプログラムとPRの充実】	色々なパターンの講座（短期・長期、昼・夜、土日・平日）が必要、説明会などPRを充実させる。	B
次計画の方向性	【他地区の活動との連携】	他地区の同じような活動との交流が必要、地域を巻き込む形で。	B
次計画の方向性	【発信】	やっていることをもっと発信する。	B
その他	【区内のNPO等の取り組みに協力してはどうか】	イノベーターが区内のNPO等の既存の活動に協力してもよいのではないかと。	C
その他	【（質問）】	受講生の年齢層の割合を知りたい。	C

4 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト

分類	見出し	意見要旨	グループ
評価点	【コミュニティのシンボルになっている】	コミュニティのシンボルとなっているのはよい。芝の家に日本らしさがあってよい。	A
評価点	【気軽に使える場所がよい】	区の多くの施設が利用できるのはよい。	A
評価点	【気軽に使える場所がよい】	気軽に寄れる場所があることはよい。	A
評価点	【拠点になっていてよい】	拠点があるのはとてもよい。	A
評価点	【拠点になっていてよい】	人が集まれる場所があるのは大切でよい。	A
評価点	【拠点になっていてよい】	世代を超えて交流できる場所があるのはよい。	A
評価点	【創造的最新の知識】	みどりや広場（足湯など）創造的な活動ができています。多くの人が楽しそうだった。	B
評価点	【交流】	ご近所で顔見知りの人が増えて挨拶がはじまり会話になり交流が盛んになる。	B
評価点	【居場所】	ご近所ラボ、近隣で働いている人が休憩できる、小さなお子さんとお母さんの居場所。	B
評価点	【居場所】	芝の家は地域の中に住んでいる人の居場所になっている。	B
評価点	【居場所】	誰でも使える場所を提供している。	B
評価点	【居心地がよい】	芝の家は昭和のイメージで居心地がよい。	B
評価点	【居心地がよい】	暖かい雰囲気がある、多くの人が楽しんでいる。	B
評価点	【居心地がよい】	誰でも来れる場があたたかい。	B
評価点	【居心地がよい】	室内公園として利用できる。	B
評価点	【利用者のつながり】	はらっぱの活動で広がりつながりができています。	B
評価点	【利用者のつながり】	共通の趣味の友達ができて、芝の家に行くのが待ち遠しい。	B
評価点	【利用者のつながり】	好きなこと、得意なことを伝えたり教えたりするワークショップが人気。	B
評価点	【交流】	開設の時、小学生だった人が高校生になっても遊びに来てくれて共に育っている。	B
評価点	【交流】	多くの世代が集うことができる。	B
評価点	【交流】	多世代交流ができる。	B
評価点	【学術的な価値がある】	地域コミュニティだけでなく学術的にも価値がある。	C
評価点	【常設の居場所である点が良い】	常設型で地域の居場所を設置しているのがよい。	C
評価点	【地域の居場所になっているのがよい】	誰もがいける場であるのがよい。	C
評価点	【地域の居場所になっているのがよい】	いろいろな人がいろいろな目的で立ち寄れる場であるのがよい。	C
評価点	【地域の居場所になっているのがよい】	地域コミュニティの見守りの場である点が良い。	C
評価点	【地域の居場所になっているのがよい】	アットホームな場であるのがよい。	C
評価点	【地域の居場所になっているのがよい】	小学生も気軽に遊びに来られる場であるのがよい。	C
改善点	【開室時間が短い】	ご近所ラボ新橋は人件費がかかる割に開室時間が短いのではないかと。	A
改善点	【開室時間が短い】	ご近所ラボ新橋は開室時間が短いのではないかと。	A
改善点	【敷居が高い】	利用する時の壁・ハードルが高い。	A
改善点	【敷居が高い】	入りづらい。特にご近所ラボ新橋は入りづらい。	A
改善点	【慶応大学との関わりが見えない】	慶応大学の役割は何か。イベントや運営は考えるべきではないかと。	A
改善点	【人員配置の考え方をわかりやすく】	開室時間が短い、人の配置はどう考えているのか。スタッフの効率的活用はできているのか。	A
改善点	【開室時間に工夫が必要】	開室時間を不定期ではなく一定にした方がいい。	A
改善点	【開室時間が短い】	閉室時間が早い。	A
改善点	【気軽に行ける工夫が必要】	子どもがいない人も町内とのつながりがあまりない人も集まれる場にしたい。	A
改善点	【集客には周知が必要】	周知が足りない。もっと集客方法に工夫が必要だ。	A
改善点	【人と人をつなぐ働きかけが必要】	何か活動をした時に、興味のある人同士をつなぐ工夫が必要だ。スタッフの働きかけが必要だ。	A
改善点	【気軽に行ける工夫が必要】	子どもが一人でも気軽に行ける仕掛けがほしい。	A
改善点	【気軽に行ける工夫が必要】	イベントが少ない。	A
改善点	【参加しづらい？】	イベントの集客数が少ない。	B
改善点	【定員・日程】	決まった曜日にしか開設されていないために、参加できる人が限られている。また、何時、何をしているかが知りたい。	B
改善点	【定員・日程】	芝の家は平日の昼にやっていて参加できない。	B
改善点	【利用時間】	平日日中が主な開場時間なのでサラリーマンには行きづらい。	B
改善点	【利用時間】	芝の家を日曜日も利用できるようにしたら周知が広がる。	B

改善点	【利用時間】	夜8時くらいまで使えるといい。	B
改善点	【利用時間】	夕方も出来ると保育園帰りの親子さんがゆっくりできるかもしれない。	B
改善点	【利用時間】	開室日を増やしてもらいたい。	B
改善点	【建物がカタイ】	建物が入りにくいイメージ。カタイ。	B
改善点	【使い方がわからない】	どうやって使えるのかわからないので入りにくい。	B
改善点	【周知不足】	イベントの案内を芝地区の掲示板を利用したらどうですか。	B
改善点	【周知不足】	場所がわかり難いので、多くの人は知らない。	B
改善点	【周知不足】	場所がわかり難いので、SNS等による周知が必要。	B
改善点	【周知不足】	芝の家から発信できるものが多いとよい。	B
改善点	【周知不足】	周知を工夫して。	B
改善点	【周知不足】	FB、メール以外、動画配信など。	B
改善点	【周知不足】	活動の動画などのアーカイブを利用して周知する。	B
改善点	【周知不足】	ケーブルテレビを利用して配信する。	B
改善点	【内容の改善】	イベントの内容が子ども向け？	B
改善点	【内容の改善】	コンサートが出来ると楽しいかも。	B
改善点	【地域とのコラボ】	芝の家がある町会だけでなく、他の町会とのコラボを進めるほうがよい。	B
改善点	【スタッフの充実】	開場するスタッフが充実するとよいかも。	B
改善点	【スタッフの充実】	ラボのマスターを増やす。	B
改善点	【拠点数を増やしてはどうか】	徒歩圏にこのような場所があるとよい。	C
改善点	【事業の今後の展開を考える必要がある】	この事業は、今後どのように展開していくのか想像がつかない。	C
改善点	【入りづらい雰囲気がある】	地域になじんでいる人でないと行きにくい。	C
改善点	【入りづらい雰囲気がある】	気になるけど入ってよいかわからない雰囲気だ。	C
改善点	【入りづらい雰囲気がある】	気になるが、どうやって入っていけばよいかわからない。	C
改善点	【入りづらい雰囲気がある】	地域になじんでいる人でないと行きにくい。派閥があるのではないか。	C
改善点	【入りづらい雰囲気がある】	目的無くぷらっと行くのはハードルが高い。	C
改善点	【入りづらい雰囲気がある】	気になるが、どうやって入っていけばよいかわからない。	C
改善点	【入りやすくするためのイベントの開催】	開かれた場所とするために、工夫が必要だ。	C
改善点	【予算が足りないのではないか】	予算が足りないので、指定管理者制度等と組み合わせる事業を維持する必要があるのではないか。	C
重視すべき点	【人員配置の適正化】	開室時間が短いので、スタッフ配置は適正かどうか見直す必要がある。	A
重視すべき点	【敷居を低くする工夫が必要】	イベントを増やしたり、町会で使用したり、入りやすくなるきっかけが必要だ。	A
重視すべき点	【使いやすいルールにする】	利用にあたっての制約が多く、自由に利用できるようにしてほしい。	A
重視すべき点	【運営のあり方を見直す】	人件費がかかりすぎているため、運営のあり方を見直すことが必要だ。	A
重視すべき点	【あらゆる住民や活動を取り込める場とする】	あらゆる住民や地域での活動を芝の家に取り込めるような環境づくりをすべきだ。	C
重視すべき点	【拠点数を増やす】	通いやすくなるよう、拠点数を増やしたほうがよい。	C
重視すべき点	【今後の展開を考えるべきだ】	居場所事業を、区としてどのように活用していくかを考えた事業展開とすべきだ。	C
重視すべき点	【事業のPRが必要だ】	芝の家などを、もっと多くの住民に伝えるよう、広報なども使い事業のPRが必要だ。	C
重視すべき点	【地域の多様な活動との連携】	多様な地域のための活動と連携することを検討してはどうか。	C
重視すべき点	【地域の多様な活動との連携】	地域で実施されている活動との連携を計画的、戦略的に行うべきだ。	C
重視すべき点	【予算の確保】	予算が足りていないので、減額にならないように注意すべきだ。	C
重視すべき点	【予算の確保】	地域事業でやる部分と、指定管理者制度等の他の事業で運営する部分を整理して、事業を推進してはどうか。	C
重視すべき点 次計画の方向性	【昭和レトロ】	建物のレトロさを活かす。	B
重視すべき点 次計画の方向性	【昔の良さが無くなってしまった】	今はプレハブ。	B
重視すべき点 次計画の方向性	【スタッフの充実】	修了生がやっている場合もあるので充実させる。	B
重視すべき点 次計画の方向性	【告知が弱い】	SNSが使えない人への対応。	B
重視すべき点 次計画の方向性	【商店街とのコラボ】	商店街とのコラボ。	B
その他	【新しい使い方の可能性】	学童保育と併用可能か。	A
その他	【居場所以外の可能性の検討があるとよい】	居場所だけでなく、困ったことよろず相談もできるような場所であるとよい。	C
その他	【入りやすくするためのイベントの開催】	地域のマンション住民を取り込むために、マンション管理組合向けのイベントを開催してはどうか。	C

芝地区版計画推進部会 第6回 グループワーク記録

<p>●地域事業</p> <p>2 エコ芝 教室</p> <p>7 芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～</p> <p>9 芝・ネイチャー大学校</p>	<p>●意見の分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価点 ・改善点 ・重視すべき点 ・次計画の方向性 ・その他
---	---

2 エコ芝 教室

分類	見出し	意見要旨	グループ
評価点	【テーマがよい】	時代に即したテーマである点が評価できる。	A
評価点	【企画内容がよい】	ものを作るワークショップである点がよい。	A
評価点	【予算が妥当だ】	予算が妥当だ。	A
評価点	【開催場所がよい】	エコプラザでの開催がよい。	A
評価点	【みつろうづくり】	ものをつくりながら学ぶことは面白い。	B
評価点	【みつろうづくり】	みつろうという普段やらないことを体験できるのは楽しいだろう。	B
評価点	【意識づけ】	環境意識を高めることはよい。	B
評価点	【環境に対する意識の醸成】	環境に対する意識の醸成につながっている。	C
評価点	【身近に感じられるテーマ設定】	身近な行動に役立つテーマのワークショップである。	C
評価点	【身近に感じられるテーマ設定】	誰もが興味を持てる内容から、環境問題に対する意識へとつながっている。	C
評価点	【海洋汚染といった大きな問題を意識】	近年特に問題とされている脱プラスチックがテーマとして取り上げられている。	C
評価点	【海洋汚染といった大きな問題を意識】	海洋汚染といった大きな問題につながる取組である。	C
評価点	【再利用という視点】	本来廃棄されるものを再利用するという視点が盛り込まれている。	C
評価点	【再利用という視点】	意識の醸成だけでなく、実際に不要となった廃材が活用されている。	C
改善点	【周知方法に工夫が必要だ】	周知に工夫が必要だ。	A
改善点	【開催方法の工夫が必要だ】	開催規模の検討が必要だ。	A
改善点	【開催方法の工夫が必要だ】	区の事業として実施する意味のある取り組みとすべきだ。	A
改善点	【開催方法の工夫が必要だ】	連続講座を検討してはどうか。	A
改善点	【事業の目的を明確にすべきだ】	事業の目的を明確にすべきだ。	A
改善点	【取り組み内容を広げるべきだ】	マイクロプラスチック以外の取り組みも必要だ。	A
改善点	【取り組み範囲を広げるべきだ】	区全体で取り組むことが必要だ。	A
改善点	【成果が見えない】	成果が見えない。	A
改善点	【周知方法に工夫が必要だ】	小中学校に周知することが重要だ。	A
改善点	【開催方法の工夫が必要だ】	少人数で継続的に活動していく場であるとよい。	A
改善点	【周知】	本事業の存在を誰も知らないのので効果的な周知方法が必要。	B
改善点	【周知】	SNSを利用するべき。	B
改善点	【効果に疑問】	みつろうラップだけではプラスチックの削減にはつながらない。	B
改善点	【効果が低い】	コンビニでプラスチックを使わない運動をするほうがよいのでは。	B
改善点	【効果が低い】	有料制などコンビニでプラスチックを使わない運動をするほうがよいのでは。	B
改善点	【効果が低い】	プラスチックの問題は複雑。具体的な行動を促すだけでなく、根本原因の説明が必要。	B
改善点	【効果が低い】	根本原因を説明するべき。	B
改善点	【効果が低い】	万華鏡は、ゴミを美化するだけで、削減につながらないのでは。	B
改善点	【行動を促す場づくり】	根本原因への対策を行うべき。	B
改善点	【行動を促す場づくり】	区民の行動を促す場にするべき。	B
改善点	【行動を促す場づくり】	企業の行動を促す場にするべき。	B
改善点	【参加者を増やす】	参加者自体を増やすとともに、参加者層の幅を広げる。	C
改善点	【参加者を増やす】	活動の周知、告知方法の改善。より多くの人に知ってもらえるように。	C
改善点	【企業・大学等との連携】	企業・大学等との連携ができるとよい。	C
改善点	【幅広く環境問題を知る】	個々の問題だけでなく、そもそもの根本的な環境問題が理解できる内容があるとよい。	C

改善点	【幅広く環境問題を知る】	海洋汚染だけでなく、幅広いエコ（ごみ問題、ビニール袋の問題等）に対する取組の発展が見られるとよい。	C
改善点	【幅広く環境問題を知る】	ごみの減量・分別に対する意識等を通じ、どのように再利用が行われていくかの仕組みが知れるとよい。	C
改善点	【港区内の廃材を活用】	港区内で発生した廃材等を活用できないか。	C
重視すべき点	【数値目標の検討が必要だ】	定量的な数値目標が必要だ。	A
重視すべき点	【開催方法の工夫が必要だ】	多くの人が参加できる取り組みが必要だ。	A
重視すべき点	【企業等との連携があるとよい】	エコに力を入れている企業や都と協力して取り組んではどうか。	A
重視すべき点	【他自治体の事例を参考に企画できるとよい】	他自治体のエコの取り組みを参考にしてはどうか。	A
重視すべき点	【数値目標の検討が必要だ】	効果のある成果指標を新たに設定する必要がある。	A
重視すべき点	【区の独自性が必要だ】	港区ならではの独自性のある取り組みの検討が必要だ。	A
重視すべき点	【ごみの減量となる取り組みがよい】	ごみの減量につながる取り組みがよい。	A
重視すべき点	【数値目標の検討が必要だ】	ごみの減量を成果指標にしてはどうか。	A
重視すべき点	【数値目標の検討が必要だ】	コロナ禍を加味した数値目標が必要だ。	A
重視すべき点	【他の地域事業との連携があるとよい】	他の地域事業と連携した取り組みを検討してはどうか。	A
重視すべき点	【企業等との連携があるとよい】	エコに力を入れている企業や都と協力して取り組んではどうか。	A
重視すべき点	【企業等との連携があるとよい】	リサイクル施設と関係した取り組みを検討してはどうか。	A
重視すべき点	【周知方法】	周知方法を要検討。	B
重視すべき点	【区民への理解促進】	海洋プラスチックの問題って日本だけの問題ではないのでは。データが示されるとよい。アフリカはゴミを分別していない。東南アジアはどうか？	B
重視すべき点	【企業・コンビニの参画】	コンビニはまちとのコラボを大切にしているはず。コンビニにマイカップを促進させるようにすれば工夫次第でできそう。	B
重視すべき点	【参加しやすい環境づくり】	周知方法、ワークショップの開催方法（オンラインの活用）の検討。	C
重視すべき点	【幅広い内容の講演会】	幅広い講演テーマの検討。	C
重視すべき点	【身近なテーマ、わかりやすさ】	日常生活で意識できる、より身近なテーマの設定。	C
重視すべき点	【身近なテーマ、わかりやすさ】	わかりやすく、興味を持ってもらえるテーマの設定。	C
次計画の方向性	【周知の強化】	小学生は興味を持っている（夏休みの自由研究にするぐらい）。区報は新聞を購読していないと手に入らない。芝支所公式ツイッターのPR。インスタ。	B
次計画の方向性	【理解促進】	データ重視。プラスチックごみは最後にどこに行くか（ユーゴスラビア、ガーナ・セネガルに行って山になっている）→こういう専門家を講演会に。	B
次計画の方向性	【企業・コンビニの参画】	企業・コンビニの参画促進のアイデアづくり。	B
次計画の方向性	【理解促進】	講演会を録画して何回も見られるようにする。オンラインで配信するYouTube。	B
次計画の方向性	【事業内容の拡充】	講演会の内容の多様化。企業事例等の追加。	C
次計画の方向性	【ワークショップの多様化】	ディスカッション形式の導入など、ワークショップの内容の拡充。	C
次計画の方向性	【ワークショップの多様化】	小中学校と連携したワークショップの実施。	C
次計画の方向性	【ワークショップの多様化】	多様な参加者でともに考えられるワークショップの実施。	C
次計画の方向性	【地域単位で考えるエコ】	港区、芝地区といった、地域単位で考えられるエコの取組につなげる。	C

7 芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～

分類	見出し	意見要旨	グループ
評価点	【参加者の満足度が計れる】	参加者が楽しそうにしているのがよい。	A
評価点	【次世代に知識を継承する仕組みができている】	講師養成の体制ができているのがよい。	A
評価点	【参加者の満足度が計れる】	アンケート調査により人気のあるコース等の分析ができている。	A
評価点	【次世代に知識を継承する仕組みができている】	語り部を育成することで、次世代につなぐ体制になっているのがよい。	A
評価点	【次世代に知識を継承する仕組みができている】	知識を養成講座で維持しているのがよい。	A
評価点	【コロナ禍でも実施できる】	コロナ禍でも実施しやすい事業だ。	A
評価点	【作成した歳時記の質がよい】	この取り組みで作成した歳時記が情報量が多くてよい。	A

評価点	【面白い】	語り部の方が詳しく説明してくれた。内容が豊富で面白い、コンテンツとして優秀。凄い面白かった。	B
評価点	【活動が発展している】	江戸カフェという発展がある事はよい。	B
評価点	【知識の継承】	貴重な知識が継承されるのは重要。	B
評価点	【健康づくり】	歩くのは健康によい、どんどん歩くことを奨励するべき。	B
評価点	【地域活性化】	まちの魅力を発信するのは効果的。	B
評価点	【取組の継続・継承】	長く続いているすばらしい事業である。	C
評価点	【取組の継続・継承】	修了生が後に語り部となり、取組が受け継がれている。	C
評価点	【取組の継続・継承】	芝地区のよさが引き継がれている。	C
評価点	【取組の継続・継承】	継続・定着しており、参加者も多い。	C
評価点	【多様な参加者】	多世代が参加できる事業である。	C
評価点	【多様な参加者】	江戸カフェは高齢男性が参加できる機会となっている。	C
評価点	【歴史を知る】	芝地区の歴史は深く、それを知ることができる取組である。	C
評価点	【歴史を知る】	みんなで歩きながら、健康的に歴史を知ることができる。	C
評価点	【歴史を知る】	江戸に限らず幅広い歴史を知ることができる。	C
評価点	【語り部の養成】	参加者に対してだけでなく、語り部自体の養成にも取り組んでいる。	C
改善点	【地域事業の予算を増やすべきだ】	印刷費や交通費等講師が自腹を切ることも多く、費用負担が大変だ。	A
改善点	【語り部の費用負担が大きい】	印刷費や交通費等講師が自腹を切ることも多く、費用負担が大変だ。	A
改善点	【地域事業の予算を増やすべきだ】	参加者の満足度が高い割には、予算が少ない。	A
改善点	【活動の幅を広げるべきだ】	視覚障害者や聴覚障害者が参加できるまち歩きがない。	A
改善点	【活動の幅を広げるべきだ】	芝地区だけでなく、港区全体を対象としてはどうか。	A
改善点	【語り部の育成方法を検討すべきだ】	語り部を育成することが難しい。	A
改善点	【PR方法を工夫すべきだ】	まち歩きを見かけてもそれがこの活動だとわからないので、わかるようにした方がよい。	A
改善点	【活動の幅を広げるべきだ】	人気がありすぎて抽選に受からないので、より多くの人に参加できるように工夫してほしい。	A
改善点	【活動の幅を広げるべきだ】	外国人や子どもも参加できるまち歩きがあるとよい。	A
改善点	【活動の幅を広げるべきだ】	区全体の歴史を学べるとよい。	A
改善点	【活動の幅を広げるべきだ】	在勤者も参加できるようにしてはどうか。	A
改善点	【PR方法を工夫すべきだ】	存在がわからず、参加するきっかけがつかめない。	A
改善点	【地域事業の予算を増やすべきだ】	冊子等を作ると予算オーバーとなる。	A
改善点	【語り部の待遇改善が必要だ】	語り部に対して謝礼等を払うべきではないか。	A
改善点	【地域事業の予算を増やすべきだ】	今の予算では足りないので、300万円程度予算が欲しい。	A
改善点	【周知・応募】	HPが見つからない（周知方法に問題）。申し込み方法がアナログでメールの活用をするべき。区報で見つけるのも至難の業。参加したくても参加できない人が多い。	B
改善点	【外国人】	外国人が参加できない？外国人向けの養成講座。英語表記でないと苦しい。	B
改善点	【外国人】	日本に長く住んでいる外国人にも語り部として参加してもらうのはよい。	B
改善点	【参加促進】	時間を短くして頻度を上げるのはどうか（1時間、2時間コースを作る）。	B
改善点	【多様な芝地区の歴史】	神社だけでなく、地区内の小学校等、多様な歴史を組み合わせるとよい。	C
改善点	【多様な芝地区の歴史】	対象としてお寺も取り上げられるとよい。	C
改善点	【多様な芝地区の歴史】	芝地区には歴史ある商店も残り、そういったところを巡るまち歩きなどもできるとよい。	C
改善点	【多様な芝地区の歴史】	昔からある企業なども紹介できるとよい。	C
改善点	【多様な芝地区の歴史】	日本の歴史といったイメージが強いが、外国の方とも交流できる要素が増えるとよい。	C
改善点	【新たな文化に目を向ける】	古いものだけでなく、新しい施設なども新たな文化として取り込めるとよい。	C
改善点	【対象の拡充】	参加者を限定しすぎることは避けたいが、男性向けの江戸カフェのように、女性向けの取組もあってよいのでは。	C
改善点	【WEB, SNS等の活用】	活動の幅を広げるため、WEB, SNS等が活用できるとよい。	C
改善点	【情報が届く仕組み】	より多くの人に情報が届くような仕組みが必要。	C
改善点	【検定試験の導入】	検定試験のような仕組みを設けられないか。	C
重視すべき点	【まち歩きを有料にしてもよい】	今後のためには有料のまち歩きにしてもよい。	A

重視すべき点	【区との連携を考えてもよいのではないか】	区役所の職員もメンバーとなり、事業の発展に向けて一緒に検討してもよいのではないか。	A
重視すべき点	【収益事業として考えてもよいのではないか】	収益事業として成立するので、成長拡大を検討してもよいのではないか。	A
重視すべき点	【事業継続を考えるべきだ】	立ち上げ期は過ぎて継続期に入っているの、収益や語り部の育成などを考えるべきだ。	A
重視すべき点	【事業拡大には予算が必要だ】	語り部の個人負担をなくすような、予算、企画の在り方を検討すべきだ。	A
重視すべき点	【事業拡大には予算が必要だ】	新しい企画を立てるには、予算が必要だ。	A
重視すべき点	【事業拡大には予算が必要だ】	受け皿を拡大するには、道具も予算も必要となる。	A
重視すべき点	【ボランティアスタイルも大切だ】	高齢者の語り部には、ボランティア、域外の側面も強い。	A
重視すべき点	【周知・応募】	LINEやYouTubeを利用する。	B
重視すべき点	【外国人】	日本に長く住んでいる外国人にも語り部として参加してもらうのはよい。港区は歴史があるので、外国人も興味を持てる。	B
重視すべき点	【取組の継続・継承】	今後も継続され、語り部が引き継いでいかれること。	C
重視すべき点	【新たな文化に目を向ける】	文化は古い歴史あるものだけに限られず、今生きているみんなが次の文化を作っていくという視点。	C
次計画の方向性	【周知・応募】	LINEやYouTubeを利用する。	B
次計画の方向性	【外国人】	日本に長く住んでいる外国人にも語り部として参加してもらうのはよい。外国人は情報に飢えている。外国人が参加出来やすくなる。	B
次計画の方向性	【参加促進】	コースを多様化して、いろんな人が参加できるようにする。時間別や初級者～上級者コース等。	B
次計画の方向性	【語り部育成】	皆さんに語り部になってもらおう。	B
次計画の方向性	【今後の展開】	参加することで多くの発見があるが、そこで終わらせるのではなく、それをどう発展させ、今後につなげていくかが重要。	C
次計画の方向性	【情報発信の強化】	区外の人に対する周知方法の検討。	C
次計画の方向性	【情報発信の強化】	とてもよい企画であるため、外部への発信力を強化したい。	C
次計画の方向性	【情報発信の強化】	「散歩」などのキーワードとともに、YouTube, Facebook等も活用し情報発信を強化。	C
その他	【まち歩きの新しい展開】	バーチャルでまち歩きをしてはどうか。	A
その他	【事業の新しい展開のイメージ】	オーダーメイドなまち歩きを実施できるようにしてはどうか。	A
その他	【事業の新しい展開のイメージ】	新規転入者やロングコースなど、まち歩きのバリエーションがあってもよい。	A
その他	【事業の新しい展開のイメージ】	高齢男性の孤独対策として、歴史講座等は有効だ。	A

9 芝・ネイチャー大蔵校

分類	見出し	意見要旨	グループ
評価点	【農業体験がよい】	子どもたちが農業体験できることは素晴らしい。	A
評価点	【地方と連携できるのがよい】	福島、茨城と連携を持つことは、地元にとってもよい事だ。気持ちをわかち合う場になる。	A
評価点	【区内企業との連携がよい】	コロナ禍で苦肉の策で区内企業と連携したのは良かった。	A
評価点	【農業体験がよい】	自然に触れあえる機会があるのは教育上よい。	A
評価点	【効果】	子どもにとってかけがえのない一生の思い出。都会にない体験ができるのはよい。友好都市の文化・風習が知れるので楽しそう。食育の場にもなる。	B
評価点	【効果】	もっと沢山の子に参加してほしい（予算の充実）。	B
評価点	【親子で参加】	親子で参加でき、情操教育にもなっている。	C
評価点	【自然に触れる】	名前が素敵。自然に触れ合う機会があるのもよい。	C
評価点	【生産～消費の過程を知る】	食べ物の生産・消費を知るきっかけになり、どういった人たちが関わっているかを知ることができる。	C
評価点	【生産～消費の過程を知る】	活動内容をおして、生産から収穫までの一連の流れを知ることができる。	C
評価点	【他自治体・企業との連携】	他自治体、企業との連携がある。	C
改善点	【訪問先の再検討が必要だ】	移動時間が多いので、訪問先をより近くにすることも検討すべきだ。	A
改善点	【体験の次年度以降の継続を検討すべきだ】	次年度以降にも体験できる場があるとよい。	A
改善点	【ネーミングを再考すべきだ】	小中学生の親子が対象ということがわかるネーミングがよい。	A
改善点	【対象を増やしてはどうか】	ひとり親家庭のみ参加企画など、対象を増やしてはどうか。	A

改善点	【誰でも参加できる形態があるとよい】	家庭菜園等の誰でも参加できる形態があるとよい。	A
改善点	【内容を工夫してはどうか】	区内の公園で昆虫と触れ合う企画があってもよい。	A
改善点	【訪問先の再検討が必要だ】	民業圧迫な内容ではないか。	A
改善点	【目的に合致しているのか疑問だ】	コミュニティづくりと小中学生親子の日帰り体験ツアーがどう関係しているのか。	A
改善点	【対象を増やしてはどうか】	所得の低い世帯を対象とするなどの仕組みを設けてはどうか。	A
改善点	【対象を増やしてはどうか】	障害児とその保護者を対象とした企画を作ってはどうか。	A
改善点	【対象を増やしてはどうか】	ひとり親家庭のみの企画を作ってはどうか。	A
改善点	【訪問先の再検討が必要だ】	訪問先を近場にして、回数や参加人数を増やしてはどうか。	A
改善点	【企画テーマが重要だ】	何を目的として訪問先を選ぶのが重要だ。	A
改善点	【対象を増やしてはどうか】	ひとり親家庭等の企画を作ってはどうか。	A
改善点	【参加方法を工夫してもよいのではないかな】	単発の企画も検討してはどうか。	A
改善点	【参加の拡大】	親子だけでなく一般の人にも広げてほしい。親一人子一人だけでなく、家族全員が参加してもよいのではないかな（参加費を増やす）。	B
改善点	【参加の拡大】	親はどうしてもついていかなければいけないのか？親を止めて子どもを増やしてもよいのでは（学校行事で民泊体験というものもあった）。	B
改善点	【プログラムの多様化】	畜産業とか別の経験もあり。稲作関連の活動が少ない（主食の体験は重要である、田植えの手伝いとかな）。	B
改善点	【プログラムの多様化】	近くに畑を借りて収穫をみとけるというやり方もよいのではないかな。イベント的なものではなく、農作業のつらさを知ってもらうほうが大事な気がする。	B
改善点	【プログラムの多様化】	他の地域の行き先を追加できないかな。開催回数を増やせないかな。	B
改善点	【受け入れ側】	受け入れ側の感想を聞きたい。	B
改善点	【参加者に多様性が必要だ】	親子だけだと、参加者に多様性がない。いろいろな人が参加できるようにすべきだ。	A
改善点	【新たな交流方法の模索】	コロナ禍においては、ネットを活用した地域との交流の模索など、異なる方法を考えられるとよい。	C
改善点	【選択できる連携先】	自治体・企業など、連携相手を選択できるとよい。	C
改善点	【子どもだけの参加】	より多くの子どもたちが体験できるとよい。子どもだけが参加する企画も考えられないかな。	C
改善点	【体験した後の展開】	参加して終わりではなく、そこでの体験をどう活かすか。さらなる学びにつなげられないかな。	C
改善点	【内容の拡充】	より幅広い内容を体験できるとよい。	C
重視すべき点	【継続的な活動の在り方を検討すべきだ】	コミュニティ形成のためには、継続的な活動の在り方を模索すべきだ。	A
重視すべき点	【テーマ性を重視した活動にしてはどうか】	区内の資源を活用して、テーマ性をもった活動にしてはどうか。	A
重視すべき点	【参加者の成長が感じられる企画としてはどうか】	前年度に参加した生徒が翌年ガイド役を務めるなど、参加した児童生徒の成長を促す取り組みがよい。	A
重視すべき点	【参加の拡大】	親子だけでなく一般の人にも広げてほしい。親一人子一人だけでなく、家族全員が参加してもよいのではないかな（参加費を増やす）。	B
重視すべき点	【プログラムの多様化】	農作業のつらさを知ってもらう（米の田植えから収穫まで等）。	B
重視すべき点	【受け入れ先との交流】	地元との交流を進めるべき。向こうの人が東京に来るのか？文化交流にすればもっと面白くなるはず。先方は子どもが少ないかもしれないが。	B
重視すべき点	【参加の支援】	所得の低い世帯の子どもは参加費を減らしてもよい。	B
重視すべき点	【子どもの健やかな育ちを支援】	子どもたちの健やかな育ちを支援するという視点が重要。	C
重視すべき点	【過程を知る】	結果だけでなく、一連の流れの中で過程を知ることが重要（海で泳いでいる魚が切り身となって食卓に出てくるなど）。	C
次計画の方向性	【プログラムの多様化】	食育や、農作業の大変さを知ってもらうプログラムもよい。	B
次計画の方向性	【受け入れ先との交流】	地元との交流を進めるべき。向こうの人が東京に来るのか？文化交流にすればもっと面白くなるはず。先方は子どもが少ないかもしれないが。	B
次計画の方向性	【参加の支援】	所得の低い世帯の子どもは参加費を減らしてもよい。	B
次計画の方向性	【参加の拡大】	参加条件を緩和して、子どもだけの参加も認める。	B
次計画の方向性	【区開催の意味付け】	他の民間ツアーとの違い？単なるイベントではない、芝地区がやる意味付けが必要。	B
次計画の方向性	【子どもだけの参加】	子どもだけが参加できる企画の検討。	C
次計画の方向性	【体験した後の展開】	参加した後の発表する機会など、学校の中での取組の共有、その後の活動につなげたい。	C
次計画の方向性	【体験した後の展開】	体験したことをその後具体的にどう活かすことができるかな。	C
次計画の方向性	【体験した後の展開】	ビル屋上を活用した畑など、学んできたことを芝地区内で活かせる場の創出。	C

次計画の方向性	【連携先の多様化】	連携できる区内企業を増やし、子どもたちに選択の余地があるとよりよい。	C
次計画の方向性	【連携先の多様化】	企業との幅広い連携、例えば親が働いている会社の見学なども。	C
次計画の方向性	【連携先の多様化】	行き先の多様化、島しょ部にも目を向けられないか。	C
次計画の方向性	【地域同士のつながり】	産地と港区とのつながりが、流れの中で体験できるとよい。	C
次計画の方向性	【地域同士のつながり】	連携先の自治体との間で、地域同士のつながりが生まれるとよい。「農家」としてでなく「地域」として見る。	C
次計画の方向性	【過程を知る】	WEBカメラの活用などにより、「植え付け」「収穫」だけでなく、その間の過程を知る。食物を育てることの大変さを実感。	C
次計画の方向性	【過程を知る】	作物を収穫して終わりではなく、その後の「販売」までを組み込んだプログラムの検討。	C
その他	【質問】	外部に委託する分が無駄ではないか。	A

芝地区版計画推進部会 第7回 グループワーク記録

●地域事業

- 1 芝地区防災力向上プロジェクト
- 5 芝 BeeBee's プロジェクト

1 芝地区防災力向上プロジェクト

次計画の方向性	出された意見	グループ
現行のセミナーのコンテンツの改善	区民、事業者区別ない、セミナーの開催。Web等を利用して、広く不特定多数に公開する。	B
現行のセミナーのコンテンツの改善	災害対策のイメージを確立する。	B
現行のセミナーのコンテンツの改善	オフィスの提供、帰宅困難対策等をやるのかやらないのか。	B
現行のセミナーのコンテンツの改善	住民代表とオフィスの人事の連携。	B
現行のセミナーのコンテンツの改善	どういうイメージかは、議論して決めればよい。イメージ作りが必要。	B
現行のセミナーのコンテンツの改善	(BCPらしく) 人材の名簿作りから始めるのがよい、責任感の醸成。	B
現行のセミナーの運営の改善	一律に芝地区内の事業者者に案内を送るのではなく、対象とする企業のターゲットを絞るとよい。	A
現行のセミナーの運営の改善	企業の担当者は時間がないので、時間のない人にも重要度が伝わるような情報提供の方法に工夫が必要だ。	A
現行のセミナーの運営の改善	BCPについては、商工会議所や業界団体からも呼びかけがあるはずだ。港区のセミナーに来る必要性を感じない企業も多いはずだ。ターゲットを絞ってはどうか。	A
現行のセミナーの運営の改善	セミナーの成功云々ではなく、芝地区全体の住民・企業の中で、何%が理解しているかを評価指標とするべき。	B
現行のセミナーの運営の改善	オンラインに特化したセミナー開催を検討してはどうか。	C
地域での取り組みの必要性	セミナーだけでない取組が必要。	A
地域での取り組みの必要性	企業、マンション、町会・自治会など対象ごとに支援が必要だ。	A
地域での取り組みの必要性	マンションや地域の町会等にもBCPに相当する取組が必要だ。	A
地域での取り組みの必要性	先進的な取組が進んでいるマンションや地域との交流や取組を広める機会をつくるとよい。	A
地域での取り組みの必要性	町会のBCP(名称?)の作成を進めるべき。町会と企業の連携も含める。	B
地域での取り組みの必要性	現時点でも町会と企業が連携している事例はある。	B
地域での取り組みの必要性	マンション住民対策。	B
地域での取り組みの必要性	エリアごとに、町会・自治会と事業所との橋渡しとなることを意識する。	C
地域での取り組みの必要性	事業所と地域との関わりが見えるようになるとよい。	C
地域での取り組みの必要性	企業側が地域とどのように関わっていくかを、企業側のマニュアルなどが必要。スモールステップの設定、企業側の行動を可視化する。	D
地域での取り組みの必要性	地域での防災訓練/行事に、企業から必ず何人か参加する。そうすると顔がつながる。	D
地域での取り組みの必要性	地域での防災訓練、行事への住民の参加を増やす。 →知らない人をどうやって減らすか・・・ →広報ではお知らせしているが・・・ →メール登録をして、防災に関する情報提供を受ける。 →全住民への防災活動、昔は町内でうまくやれていたが、今は町内で実施しにくいから芝地区全域での活動になってしまったのではないかと。 →町会活動の防災訓練から漏れた人は、芝地区全体の防災訓練に参加すればよい。	D
地域での取り組みの必要性	防災訓練は大事。参加したことが無い人は、必要性を感じていない。地域の人が知らないし、何をしようかわからない。参加したほうがよい	D
事業自体の見直し	意識させずに防災の重要性が理解される情報の伝え方、交流の伝え方の工夫を考えて導入する。	A
事業自体の見直し	BCPではなく、大規模災害協力体制を明確に作るのを目的とするべき。	B
事業自体の見直し	本庁との連携を密にしたプロジェクトを推進する。	C
事業自体の見直し	職員自らが勉強し、講師を務められるようになるとよいとは言え、支所だけで取り組むには限界があり、本庁との連携など考えられないか。	C
進め方	行政がもっと主体的に関わっていくことが大事。	C
進め方	区民からの苦情は宝と捉えて取り組むべき。	C
その他	職員自らが勉強し、講師を務められるようになるとよい。	C
その他	本プロジェクトを通じたコンテストの実施。	C
その他	セミナー参加企業が策定したBCPの内容を区が知ることも大事。	C
その他	コンテスト的に、「BCP大賞」などできないか。	C
その他	BCPを策定した企業の一覧がどこかで見られるとよい。	C
その他	策定した企業名を広報等に掲載することを考えてはどうか。	C
その他	事業所のBCP策定の負担を軽減させる方法を検討する。	C
その他	区からBCPのフォーマットを配付することで、事業所が策定する負担は軽減できる。	C

その他	地域事業としての効果をどのように判断するか。実際に災害が起こらないとわからない部分もある。	C
その他	開催日の周知はいつ頃からか？1か月以上前???	D
その他	大事なテーマ、実践してほしい。	D
その他	防災訓練あるのが当たり前と感じていたが、取りこぼしが無いように実施するにはどうしたらよいか、自分の意識として感じた。	D
その他	みんなで参加するのは大事。	D

5 芝 BeeBee' s プロジェクト

次計画の方向性	出された意見	グループ
活動の見える化による知名度の向上	魅力がないと集まらないと思うので、活動を知ってもらうという観点で区内の商店でフェアを実施してはどうか。	A
活動の見える化による知名度の向上	区内の商店にしばみつを購入してもらい、新たな商品を開発して販売につなげてはどうか。	A
活動の見える化による知名度の向上	区内の商店でしばみつフェアを開催し、スタンプラリーを実施してはどうか。	A
活動の見える化による知名度の向上	区内の商店でしばみつフェアを開催し、参加者には植物の種を配布して緑を増やす活動に協力してもらうのはどうか。	A
活動の見える化による知名度の向上	多くの人に知ってもらう仕組みが必要ではないか。場所が足りないのではないか。場所が広がるとPRにもなるのでよい。	A
活動の見える化による知名度の向上	話題性を上げる。	B
活動の見える化による知名度の向上	活動自体が循環していることをPR。	C
活動の見える化による知名度の向上	色々な人が関わり、それにより活動が循環していることを、もっと多くの人に知ってもらいたい(伝えたい)。	C
活動の見える化による知名度の向上	活動のよさが伝わるようなPR方法の検討が必要。	C
活動の見える化による知名度の向上	事業としての全体ストーリーが見えづらいことが、不信感を生む要因となっている。	C
活動の見える化による知名度の向上	活動が循環する「過程」が見えることが大事。	C
活動の見える化による知名度の向上	「しばみつができるまで」のストーリーを添えて、販売をしてはどうか。	C
多世代交流の推進	時代の変化に合った取組であるべきだ。	A
多世代交流の推進	本来の目的を見失わないことが大切だ。	A
多世代交流の推進	関わり方の多様化を図る。	A
多世代交流の推進	関わり方を多様化することで、人材発掘の多様化につながるはずだ。	A
多世代交流の推進	世代間の交流を進めるために、しばみつを使ったレシピを共有し、情報交流を進めてはどうか。	A
多世代交流の推進	メンバーを増やすのが第一の目的である。	B
多世代交流の推進	(この事業に限らず)参加しやすい仕組みづくり(SNS、責任者を作る等)。	B
多世代交流の推進	幅広い世代、小学校、高齢者。	B
多世代交流の推進	活動場所の拡大(小学校など)。	B
多世代交流の推進	しばみつをとおして何ができるかが大切。活動を通じた交流の促進を大事にしてはどうか。「体験」を大切に。	D
事業拡大の方策の検討	養蜂事業以外のプログラムの導入を検討。	A
事業拡大の方策の検討	販売促進。	B
事業拡大の方策の検討	あくまでも知名度を上げるための手段とするべき。	B
事業拡大の方策の検討	いっそのこと、値段を高く設定し、区内の高級レストランと連携。	B
事業拡大の方策の検討	「ハチがいないと人類は存在しない」「自然があるからこそハチがいる」といったことのストーリーを作っていく。	B
事業拡大の方策の検討	活動場所を増やす(他地区への活動の展開)。	C
事業拡大の方策の検討	よい活動なので、もっと活動場所を増やせないか。	C
事業拡大の方策の検討	マンションの緑地等のスペースの活用。	C
事業拡大の方策の検討	企業との提携により、地域の人と企業とのつながりが生まれる。	C
事業拡大の方策の検討	他区が実施する養蜂事業との交流があるのもよい。	C
事業拡大の方策の検討	活動の展開により緑が増える。	C
事業拡大の方策の検討	活動の展開により障害者雇用等も増える。	C
その他	ハチの問題は対策する必要がある。	B
その他	スズメバチ問題。	B
その他	正しい知識が必要。	B
その他	継続している事業は大事にしたい。そこから広げられる点は広げたい。	D
その他(環境配慮)	「しばみつ」から色々なことを連想しているので、「しばみつ」から活動や多世代交流、環境配慮につながるような推進方法がよい。	D
その他(自然とのふれあい)	多世代交流や自然とのふれあい、種を配る、緑・花を増やす活動、ハチが生きる環境を整備すると活動が深まる。	D
その他(自然とのふれあい)	事業拡大は難しい、ハチの害もある。糞が車につくと取れないので、増やすのは無理がある。巣が外部に作られると被害がある。→「体験」を大事にした方がよい。	D

芝地区版計画推進部会 第8回 グループワーク記録

●地域事業

- 6 芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～
- 8 Arc Island 竹芝
- 10 地域で支え合う ～アロマネットワーク～

6 芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～

次計画の方向性	出された意見	グループ
現行の取組内容の見直し	区民が愛着・ほこりを持てる取組になるとよい。	A
現行の取組内容の見直し	トランスボックス以外の対象も考えてはどうか。	A
現行の取組内容の見直し	絵を掲示している地下道もある。「道」を考える。	A
現行の取組内容の見直し	殺風景なところも、どこでもキャンパスになりうる。	A
現行の取組内容の見直し	地域にある色々な場所をワークショップのキャンパスとして活用するとよい。	A
現行の取組内容の見直し	絵が描かれたトランスボックス増やす。	A
現行の取組内容の見直し	描くのであればちゃんとしたアートも必要だ。	A
現行の取組内容の見直し	美術館から外に出てきたアートのようなイメージもよい。	A
現行の取組内容の見直し	多様なアートがあるとよい。	A
現行の取組内容の見直し	都市は変わっていくものだから、テーマ性もあるとよい。	A
現行の取組内容の見直し	場所ごとにテーマを設定してはどうか。	A
現行の取組内容の見直し	事業目的をトランスボックスだけに限定。事業名「トランスボックスアート」	B
現行の取組内容の見直し	数を多くする。基本全部のボックスを対象とする。	B
現行の取組内容の見直し	ワークショップはいらない。全てのお金をトランスボックスに。	B
現行の取組内容の見直し	300万円という予算に対して、意識が薄い。	C
現行の取組内容の見直し	年に1回障害者の賞を取った絵をトランスボックスに掲示する。数が少ないのではないか。 →方向性はよいが、内容が伴っていないので、縮小すべきだ。	C
現行の取組内容の見直し	目的は明確だが、手段が間違っている。トランスボックスに絵を書くだけで200万円は高すぎる。 →もっと安くできる手段は幾らでもある。	C
現行の取組内容の見直し	トランスボックスに絵を掲示するのにお金がかかるなら、別の手段を使った方がよいのではないか。	C
現行の取組内容の見直し	車いすの方が利用する車両の駐車スペースに目立つように色を塗ることで場所をアピール、等。	C
多様な区民が参加できる取組方法の検討	事前告知。描きたい人を募集する。子ども、大人、プロ。	B
多様な区民が参加できる取組方法の検討	絵と場のマッチングが重要。場に相応しければ落書き的なものでもよい。	B
多様な区民が参加できる取組方法の検討	その場で絵を描くというのでもよいのでは。	B
多様な区民が参加できる取組方法の検討	アートディレクターによる企画。港区・芝地区らしいテーマ。	B
多様な区民が参加できる取組方法の検討	対象者を障害者だけに絞るのはおかしい、限定された企画。 目的はよいが、トランスボックスだけに掲載は変、汚い場所にアートで綺麗にはよいが。 →アートを考えるとこれでよいのか。	C
多様な区民が参加できる取組方法の検討	絵と取組がアンバランス。 →もしやるんだったら、トランスボックスに相応しい絵を描くなどを取組自体をアートにした方がよい、コンテストは選び方や基準がわからない。なんでここにこの絵何だろう、と感じる。 →場所性などを踏まえつつ、みなで検討するワークショップなら納得。プロセスもアートに。	C
多様な区民が参加できる取組方法の検討	作品だけがアートではない、経験としてのアートも大事にすべき。 →アートをつくることも含めてワークショップ等で、みなで検討していくことが必要。 →落書き楽しい。子どもに壁などに書いてもらうのもよい。	C

8 Arc Island 竹芝

次計画の方向性	出された意見	グループ
事業目的の明確化	成果指標はSNSのフォロワーになっているが、フォロワーが増えても竹芝がにぎわうことにはつながらないのではないか。	A
事業目的の明確化	目的は竹芝の「にぎわいづくり」だと思う。	A
事業目的の明確化	島しょ部への理解を深める事業に注力。区民まつり等、いろんな機会を活用する。理解を深めるための商品づくり。	B

事業目的の明確化	★港区の事業なんだから、竹芝7割、島しょ3割ぐらいの割合内容が充実していることも必要。 →地域を盛り上げようはふわっとしている。目的を細分化して手段を検討が必要。 →行く人を増やしたいなら、飛行機で行きたい。船で行くメリット。 →名産を増やしたいなら、竹芝は用が無いので行かない、その手前のエリアで魅力的な情報をゲットできるように。	C
事業目的の明確化	★発着点、「旅の出発点」である、というイメージ戦略 →目的が見えない。興味を持つ人を増やす、行く人を増やすことが目的か？竹芝エリアの魅力アップが目的なら、島しょ地域を手段として利用する？あるいは島しょを盛り上げるほうが目的なのか。 →島しょに注目すると、結果として盛り上げると竹芝も盛り上がる。 →東京都の中で港区が特徴的なのは、島しょ地域に一番近い、海でつながっている、を活用する？	C
事業目的の明確化	★人を竹芝自身の魅力で呼び込む →プラタモリで取り上げてもらえるとよい。 →名称からして竹芝エリアの活性化。 →用がないから行かない、そういう人たちを呼び込む。 →ウォーキングの目的地として使ってはどうか。 →駅で配られるマップを見て歩いている人もいる。 →劇団四季や民間企業とコラボしてもよいのではないか。	C
効果的な周知方法の検討	デジタルで見やすい周知方法が必要だ。	A
効果的な周知方法の検討	内容はよいが、周知が課題だ。	A
効果的な周知方法の検討	そもそもどのくらいの人が事業を知ってるのか。	A
効果的な周知方法の検討	登録必要なものは負担がかかる。気軽にできるようになるとよい。	A
効果的な周知方法の検討	参加のハードルが高い。	A
効果的な周知方法の検討	浜松町から竹芝へ続くデッキに名前をつけられないのか。	A
効果的な周知方法の検討	名前を付けるプロセスもイベントにできるとよい。	A
効果的な周知方法の検討	「伊豆諸島への窓口」というイメージ付けが必要だ。	A
効果的な周知方法の検討	せめて竹芝まで人を引っ張っていく方法が必要だ。	A
効果的な周知方法の検討	広報に注力する。新たに作るのではなく、すでにあるものを活用。	B
効果的な周知方法の検討	VR。体験できる場所づくり。	B
効果的な周知方法の検討	島でのイベントを作る。トリアスロン。リアルタイムなVR。等	B
効果的な周知方法の検討	広報、イベント等、他区から来てもらいたい、PRを重点的に行うことが必要。区報だけでなく。	C
多様な主体間における連携促進	企業の技術・アイデアの活用ができるとよい。	A
多様な主体間における連携促進	島しょをもりあげることも大事だ。	A
多様な主体間における連携促進	芝税務署法人会の活動との連携。(税金の教室。会社交流等)	B
多様な主体間における連携促進	★島しょ地域の特産、食べたくなるものを！	C
その他	事業名の「Arc Island」は意味がわからない。わかりやすいネーミングにしほしい。	A

10 地域で支え合う ～アロマネットワーク～

次計画の方向性	出された意見	グループ
アロマハンドマッサージ以外の方策の検討	アロマのみでは限界がある。アロマに限定する必要はない。	B
アロマハンドマッサージ以外の方策の検討	地域で支え合うことが重要。イベントは何でもよい。	B
アロマハンドマッサージ以外の方策の検討	アロマと認知症の心とつながっているが、コロナ禍でどのように継続できるかという点で改善の余地がある。ハンドマッサージではなく、触れ合わなくても香りだけとか、アロマ以外とのふれあい、地道に実施する価値はあるのではないか。	C
アロマハンドマッサージ以外の方策の検討	アロマで、人に触れない方向で楽しむ方法は色々ある。	C
アロマハンドマッサージ以外の方策の検討	される人は、高齢者と介護する家族。 →介護に疲れた家族を救ってあげたい・家のおじいちゃんおばあちゃんが楽しんでくれる。	C
受講対象者の拡大	開催場所は考えるべきだ。身近なところで行うべきだ。	A
受講対象者の拡大	こういう場に来れる人はそもそも孤立しない。	A
受講対象者の拡大	エリアごとに範囲を決めて開催してはどうか。	A
受講対象者の拡大	高層マンションの共用スペースを活用してはどうか。	A
受講対象者の拡大	自治会との交流を進める。自治会・多世代との交流のきっかけ作り。	B
受講対象者の拡大	地域のお祭り。おみこし。餅つき。支えている人も交流できる場。	B
受講対象者の拡大	ラジオ体操。	B
受講対象者の拡大	アロマと歴史講座(男性が来る)のコラボをした。コラボよいのではないか。WIN-WINの関係になるのではないか。企画と企画が触れ合う。	C
受講対象者の拡大	介護する家族も救われたいといけな。介護家族の孤独を解消する方向がよい。	C

受講対象者の拡大	講座形式だと尻込みしてしまうので、お祭り等のイベントで周知、体験できるとよい。 →ふれあい祭りでアロマハンドマッサージ講座を実施している。	C
受講対象者の拡大	他事業とのコラボで参加の間口が広がる。	C
受講対象者の拡大	する人は高齢者以外の全ての人。 →高齢者、介護する家族以外も。	C
その他	目標値が講座の開催回数と定員では成果が見えない。成果がわかる目標値を設定すべきだ。	A
その他	目標値は「参加した高齢者」などにしてはどうか。	A
その他（アロママッサージと他の事業のコラボ）	ハンドマッサージ自体はよい、好みに男女差があるので、花自体の匂いを楽しむとかを一緒に実施してもよいのではないか。	C
その他（アロママッサージと他の事業のコラボ）	園芸療法とコラボ。	C
その他（アロママッサージと他の事業のコラボ）	アロマから少し広げて「匂い」、匂いに着目した何かで間口が広がるのではないか。	C
その他（アロママッサージと他の事業のコラボ）	オレンジカフェの中でハンドマッサージ、受けられるとよい、人気でそう。	C
その他（アロマの活用）	【結論!!!】★アロマを使うことを前提としてよいのではないか。	C

芝地区版計画推進部会 第9回 グループワーク記録

●地域事業

- 3 ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～
- 4 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト
- 7 芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～

3 ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～

次計画の方向性	出された意見	グループ
地元との関係づくりの強化	町会との連携を推進させるべきだ。	A
地元との関係づくりの強化	講座の情報が町会の若手の方に届いてほしい。	A
地元との関係づくりの強化	町会に対する新しい風になるとよい。	A
地元との関係づくりの強化	町会会館という場所もある。	A
地元との関係づくりの強化	修了生数人などの小さい単位で動いていると大きいことはできないので、組織だった活動としていくことも重要だ。	A
地元との関係づくりの強化	町会に限らずターゲットは幅広くした方がよい。	A
地元との関係づくりの強化	PTAの人などにも情報が届くとよい。	A
地元との関係づくりの強化	養成講座の内容が町会向けのものがあってもよいのではないか。	A
地元との関係づくりの強化	内容自体はよいが、地域とリンクしていないのではないか。	B
地元との関係づくりの強化	大人のための学校だから、学生を受講生にするのはよくない。	B
地元との関係づくりの強化	町会との関係づくりのため、町会長に講師として来てもらう。	B
地元との関係づくりの強化	町会との共同組織化。神社等との連携。	B
地元との関係づくりの強化	場数を踏まないといけない。	C
地元との関係づくりの強化	パンフレット自体の存在を知らせ必要がある。(浅く広く)(町会、PTA、団体、企業宛に)	C
修了生へのフォローを推進	プログラム化された修了生支援が必要だ。	A
修了生へのフォローを推進	個々の努力に任せるのは限界がある。	A
修了生へのフォローを推進	卒業生はやめていく。認知度が上がれば卒業生の後押しに。	C
修了生へのフォローを推進	講座卒業生の活動の認知度：卒業した後何をするの？何ができるの？卒業後の活動が見えない。免許としては使えない。+αがないと実際に活動できない。	C
これまでの活動実績をとりまとめる	いろんな人を巻き込んでいくことが必要だ。	A
これまでの活動実績をとりまとめる	目的目標を明確にするべき。	B
これまでの活動実績をとりまとめる	事務局の責務を明確にするべき。	B
これまでの活動実績をとりまとめる	活動実績をまとめるべき→終わりも見据えてもいい。	B
これまでの活動実績をとりまとめる	知られていない。広報紙などにも掲載しているが、、、	C
これまでの活動実績をとりまとめる	講座の内容を聞いて「固すぎる」と引いてしまうこともある	C
これまでの活動実績をとりまとめる	優しい言葉でわかりやすく、抽象的でない言葉で。イノベーション、という言葉は難しい。	C
これまでの活動実績をとりまとめる	講座修了者がシンポジウムで自分の取り組みを発表する時に、事前予約が必要で事後に見ることもできない。中身を知ってもらわないと広報にならない。	C
これまでの活動実績をとりまとめる	講座自体の認知度：講座の流れのイメージがつかめない。講座を修了すると、何か身につくのが見えない。ハードルが高いと思われる。	C
これまでの活動実績をとりまとめる	卒業生の取り組みをもっとPRすれば、理解が深まる。	C
これまでの活動実績をとりまとめる	説明会の告知方法も工夫が必要だ。	C
これまでの活動実績をとりまとめる	後からでも動画等で見るようにしてはどうか。	C
進め方	次計画の方向性は前回提言と殆ど同じであり進歩が無い。その理由が不明。事務局が問題であるのなら、事務局が変わるように仕向けるべき。	B
その他	「講座自体」と「講座卒業生の活動」の認知度が両方とも高くないので、相乗効果でとっつきにくさが出そう。	C

4 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト

次計画の方向性	出された意見	グループ
地域との関わりを強化	まちの縁側としての機能をうまく活用していけるとよい。	A
地域との関わりを強化	周辺を含めた芝の家として活動できるとよい。	A
地域との関わりを強化	一つの場にとどまらず、芝の家の活動が周辺へ広がっていけるようになるとうい。	A
地域との関わりを強化	ラボと芝は開館日が100日くらい異なる。スタッフの配置の手厚さが異なるから。開いていれば人は来る。	C
地域との関わりを強化	平日は保育園の子どもがいるが、日曜日、子どもいないのに子ども募集？	C
地域との関わりを強化	うまく使えればとても面白い場所だ。	C
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	「誰でも入りやすい」が一番の課題だ。	A

誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	誰でも立ち寄れるようにするために、一見さんのみの日を作ってはどうか。	A
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	時間帯により異なる人が来る「芝の家の一日」があるとよい。	A
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	閑室時間が長いという人な人が入れ替わって、関わる人が増える。	A
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	コーヒーなどの匂いで来訪者を引き寄せるとはどうか。	A
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	お掃除だけしたい人のための日とかあってもよい。	A
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	運営を見直す（稼働日数が少なすぎる）。夜間の運営時間を拡大する。朝も開けてもよい。人件費を払ってでもやるべき。朝6時～夜10時まで。	B
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	販売ができない等を見直す（自動販売機も）。	B
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	運営ができないのならやめるべき。	B
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	設置されているパンフレットが外にあるので雨が降ると濡れてしまう。場所を変えるか濡れないようにすべきだ。縁側を大事にしている（芝の家）。パンフレット大切。	C
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	芝の家に大勢の人が集まっているときに、道路で待機しないといけないので、危険を感じる。ベンチを置くなど何か対応が必要だ。切り株とか休息できる何かがあるとよい。	C
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	ラボに興味があるが行けていない。今日何をやっているかがすぐに把握できない。芝の家は定期的にやっている行事はすぐわかる。	C
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	ラボはキッチンが充実しているので、そこを活用できるとよい。また屋上をうまく使えばよい。	C
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	芝の家は子どもから高齢者まで集まれる。日に30人、新橋は1日7人。開いている時間がおかしいか、イベントのニーズがあっていないか、スタッフの配置状況を改善しないとラボをやっている意味がない。	C
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	サラリーマンに興味のあるイベントなど、ターゲットをきちんと把握すべき。子どももないのに子ども向けイベントを行うのはどうか。	C
誰もが気軽に立ち寄れる場づくりの推進	こういう人たちが使えるのか、というPRが必要だ。一人なら●●、二人なら●●●、三人なら●●●。でも貸しスペースでないよPRも必要だ。ふらっと入るにはハードル高い。	C
今後の展開の検討	ターゲットは「誰でも」と広げすぎず、ある程度絞ることも考えた方がよい。	A
今後の展開の検討	イノベーション学校との連携を進めるべき。イノベーション学校とのセットとするべき。	B
今後の展開の検討	家賃の問題であるのなら、要検討。（ご近所ラボは家賃なし）	B

7 芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～

次計画の方向性	出された意見	グループ
魅力を伝えるための多様な手法の検討	予算を拡大するべき。投資と考えるHP等を拡充するべき（ご近所イノバータにやらせるべき）質問も受け付けるようなやり方。	B
誰でも参加しやすい手法の検討	障害者の方も参加できるとなるとリスク管理の強化が必要だ。	A
誰でも参加しやすい手法の検討	バリアフリーは予算が付けば。	B
誰でも参加しやすい手法の検討	HP、語り部ソフト化して多様なコースを紹介する。多言語化も可能。	B
誰でも参加しやすい手法の検討	語り部養成講座・段位制・HPで内容を公開する。	B
誰でも参加しやすい手法の検討	語り部講座では提供される資料、教科書がない、育成の面でちょっと弱い。自分で全て調べないといけないと、資料の根拠が問われる。	C
誰でも参加しやすい手法の検討	語り部によって差ができてしまう。語り部のレベルが統一されない。貴重な資料も共有されない。	C
誰でも参加しやすい手法の検討	地図がないので、グーグルマップを使うなどしているが、ちゃんとした無地の地図があるとよい。	C
誰でも参加しやすい手法の検討	誰かが知っていても、それが共有されていない。共有するためのシステムを作るべき。趣味の範囲で済ますのなら今のままでもよいかもしれないが、、、	C
誰でも参加しやすい手法の検討	応募方法自体がわかりづらい。今時はがきで応募。	C
今後の事業継続・拡大の検討	活動継続のためにできることをやるべきだ。	A
今後の事業継続・拡大の検討	実費負担している部分があるので、せめてプラマイゼロにならないか。	A
今後の事業継続・拡大の検討	活動PRして寄付を募ることも考えてはどうか。	A
今後の事業継続・拡大の検討	語り部の人たちが活動継続できるようにしてほしい。	A
今後の事業継続・拡大の検討	オーダーされてやるのは有料化を考えてはどうか。	A
今後の事業継続・拡大の検討	予算100万円では活動を継続するには不十分だ。	A
今後の事業継続・拡大の検討	企業からお金をもらい企業向けツアーを考えてはどうか。	A
今後の事業継続・拡大の検討	ゲキ押し（ご近所イノベーション、芝の家ともコラボするべき）。	B
今後の事業継続・拡大の検討	有料化は考えなくてもよい。（ドネーション）	B
今後の事業継続・拡大の検討	語り部の多言語には、統一された資料が必要だ。	C
今後の事業継続・拡大の検討	よい取り組みなので、もっと発展させた方がよいのでは。	C
今後の事業継続・拡大の検討	高齢者のクローズドな場になっているような雰囲気がある。高齢者のペースでやりたいという希望もあるのかも。世代間の継承の場ではない。継承、引継ぎが問題だ。分担は難しい、責任感のある人が多い。	C

芝地区版計画推進部会 第10回 グループワーク記録

●地域事業

2 エコ芝 教室

9 芝・ネイチャー大学校

2 エコ芝 教室

次計画の方向性	出された意見	グループ
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	ごみの量などの具体的な目標値がないとどうすることもできない。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	プラスチックの回収量は指標になるのか。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	ものをどのくらい減らすのかによって、取り組む人のモチベーションにつながる。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	芝地区から港区、東京都、全国へと広がる取組であるとよい。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	具体的に理解が深まる教室になるとよい。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	人口と同じように日常的に見れる指標であるとよい。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	東京タワーの色でごみの量を示せるとよい。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	目標の達成状況は港区らしさを活用できるとよい。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	回収されたものがどのように再利用されるのか住民は知らない。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	プラごみを減らす目標とやむを得ず出てしまうプラごみの行く末を知れるとよい。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	単純にごみを減らすという方向の周知だけでなく、やむを得ず出るごみをどうするかを考えることも必要だ。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	ごみの種類によって、指定のごみ袋を使う自治体も多い。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	身近でできることを取り上げ、YouTubeで配信してはどうか。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	ワークショップもYouTubeのコンテンツにして配信してはどうか。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	具体的にできることを知りたい。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	プラごみの減量に取り組む人のモチベーションにどうつなげるかが大事だ。	A
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	エコはやるべきだが、プラスチックの減量をテーマにするべきではない。	B
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	自分達が永く住めるための環境づくりを主要テーマとするべき。	B
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	SDGs、特に、持続可能な生活をテーマにする。	B
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	港区エコプラザや、神明いきいきプラザの屋上緑化など、区内のいろいろな施設の見学会を行う。	B
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	大使館にお願いして、世界の環境保全の状況を教えてもらう。	B
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	特別な講師はいらない。既存の施設や企業、大使館の話聞く。	B
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	より具体的な行動につながる地域事業を。	C
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	プラスチック削減を、コンビニへのアプローチやごみ拾いなど、具体的な内容に取り組んでいくべき。具体的な行動を。子どもも必要性を知っているから。	C
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	ワークショップのみつろうとかではなく、具体的に、プラスチックを使うのをやめようとアピールし、子どもが楽しんで取り組めるようなものがよい。	C
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	目的を絞り込んだ方がよいのでは。子どもには啓蒙は不要なので、自分たちで取り組む方がよいのでは？	C
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	楽しみながらプラスチックを使わない生活を送ってみるような取組。	C
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	区を取組を例に子どもたちにもっと考えさせる内容でもよいのでは？学習を深めるような取組。	C
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	容器包装プラスチック、が多い。それがゴミになる。これを何とかできるとよいのでは。コンビニや業者にプラスチックを削減するよう呼び掛けてみる事業系ごみのように、有料化するなど、ごみを削減する方向はどうか。	C

プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	プラゴミは再利用の方がお金かかる（フリース等）。昔はリサイクル、リユースしていた。今は瓶が見直されている。 エコバック、紙でくるむとか、やり方を変えてみる。 お祭り等でもプラスチックを使わない方向になっている。	C
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	「だめ！」っていうことも大事。	C
プラスチックごみの減量につながるような具体的な内容の検討	コンビニはお客様の声を本部に吸い上げて対応を変える。 →本部はCO2削減とかを目標として掲げているので、そのサポートをしてあげる気持ちで声掛け。 →お店に質問することも大切。→本部を動かす。 →「エコ芝教室」として活動をしてはどうか？ →大量のプラゴミを出しているところにアタックが効率がよい。	C
効果的な周知方法の検討	効果的な周知を図ることは、どの事業においても問題ではないか。	A
効果的な周知方法の検討	広報紙やSNSだけでなく、人力による周知もあるとよい。	A
効果的な周知方法の検討	周知するにあたり、港区はマンションが多いから管理組合を巻き込んでいくことも考えてはどうか。	A
効果的な周知方法の検討	ごみを減らす行動がお金の節約につながることもひとつのきっかけになる。	A
効果的な周知方法の検討	ごみを減らす行動が具体的な何かにつながることは継続するためのモチベーションになる。	A
効果的な周知方法の検討	脱プラの行動が何に寄与するのか見えるようになるとよい。	A
効果的な周知方法の検討	日々の生活と結びついているという感覚が大事ではないか。	A
効果的な周知方法の検討	人口が多いとどうせやらなくても変わらないと感じる人も多いが、都心ならではのやり方があるのではないか。	A
効果的な周知方法の検討	何のためにするのかを明確にするのが重要。それが理解を進める。	B
効果的な周知方法の検討	啓蒙活動だけに活動を振っちゃったほうがよい。	B
その他	行動につなげること、周知すること、全て取り組むこと、どれをやりたいのかわからない。	A

9 芝・ネイチャー大学校

次計画の方向性	出された意見	グループ
参加要件の拡大	20人しか参加できないのはもったいない。	A
参加要件の拡大	20人限定はこれからの時代でもうまくいくことなのか疑問だ。	A
参加要件の拡大	20人だけでは少なすぎるので、平等感を感じられる方法があるとよい。	A
参加要件の拡大	オンラインを活用して、ハイブリッド型を取り入れてはどうか。	A
参加要件の拡大	困窮家庭が参加しやすくなるとよい。	A
参加要件の拡大	なぜ親が参加する必要があるのか。	A
参加要件の拡大	対象は親子より子どもが優先ではないか。	A
参加要件の拡大	親の費用まで負担する必要はなく、代わりに多くの子どもが参加できた方がよい。	A
参加要件の拡大	参加要件は拡大するべき。ひとり親家庭を優先。	B
参加要件の拡大	子ども達だけでもよいが、やり方は要検討。世話役を誰にするか。	B
参加要件の拡大	所得の低い世帯にはもっと安くしてもよいのではないか（習い事できない家庭）。経験値に差が出てしまうので、子どもは将来があるのだから、他で体験をすることが難しい家庭に対するサポートが必要ではないか。 お金がかからない近場でもよいのではないか。 8100円払わないと成立しない事業なら、近場で安くして体験の機会を増やすべき。区が支払えるなら、遠くてもよい。	C
付加的な効果の見込めるプログラムの検討	農業体験に行っただけで終わらせないようにできるとよい。	A
付加的な効果の見込めるプログラムの検討	事前に参加者を集めて予習してから農業体験させるのもよい。	A
付加的な効果の見込めるプログラムの検討	農業体験から戻った後に成果を発表する機会を設けるのもよい。	A
付加的な効果の見込めるプログラムの検討	体験から学びにつなげられるとよい。	A
付加的な効果の見込めるプログラムの検討	訪問先との定期的な情報交換ができるとよい。	A
付加的な効果の見込めるプログラムの検討	食育として調理まで実施するのはどうか。	A
付加的な効果の見込めるプログラムの検討	農業体験によって港区の良さの再認識にもつながるのではないか。	A
付加的な効果の見込めるプログラムの検討	区内で子どもと住民がともに参加できる場があるとよい。	A
付加的な効果の見込めるプログラムの検討	区内事業者も巻き込んで参加できる場があるとよい。	A
付加的な効果の見込めるプログラムの検討	1次産業の重要性を理解させる。	B

付加的な効果の見込めるプログラムの検討	交流自治体との関係を促進するべき。子ども同士の交流。農家や漁師のオジサン。内容は、交流自治体が考える。	B
付加的な効果の見込めるプログラムの検討	区民祭りで、収穫物や種を子ども達が売る。	B
付加的な効果の見込めるプログラムの検討	名前の「大学校」の意味は？名前にふさわしい取組にしてはどうか。大きな学校の意味ではないか。	C
付加的な効果の見込めるプログラムの検討	事前に参加者がプランを皆で考えられるような取組はどうか？そのプランを実体験する。例えば2回は座学（頭の中に知識として入れる、感じたことを共有する場）、3回で体験する。	C
付加的な効果の見込めるプログラムの検討	日帰りだけでなく宿泊により地域の人と交流を増やしてもよいのではないか。日帰りだと、滞在時間が少ない。せっかく訪問したのに。地域の方とより深く交流ができるとうい。	C
芝地区内でもできる自然体験・農業体験の検討	農業体験をとおして学んだことを港区でも実践できるとよい。	A
芝地区内でもできる自然体験・農業体験の検討	交流自治体での体験と港区内での体験ができる取組として2本立てにしてはどうか。	A
芝地区内でもできる自然体験・農業体験の検討	交流自治体での体験と港区内での体験でできることは違うはずだ。	A
芝地区内でもできる自然体験・農業体験の検討	BeeBee'sとの連携は考えられないのか。	A
芝地区内でもできる自然体験・農業体験の検討	こっちはエコ芝教室のほうでやればよいのでは？	B
芝地区内企業との連携事業の推進	BeeBee'sや竹芝・島しょといった他事業とコラボしてもよいのでは？予算が合算で大きくなるし、経費削減にもなる。	C
その他	地区内の青少年団体とのつながりはあるのか。	A
その他	目標である地域の中で子どもの育ちを支え、見守る環境につなげていくことが大事だ。	A
その他	やっている内容と事業名が違う。事業名を変更するべき。「自然のめぐみ学校」「海の幸山の幸学校」など	B

芝地区版計画推進部会 第11回 グループワーク記録

●地域事業	●分類
1 芝地区防災力向上プロジェクト	・提言（キャッチフレーズ）への追加・修正 ・提言説明文への追加・修正 ・（例えば）への追加・修正 ・その他
2 エコ芝 教室	
3 ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～	
4 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト	
5 芝 BeeBee's プロジェクト	
6 芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～	
7 芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～	
8 Arc Island 竹芝	
9 芝・ネイチャー大学校	
10 地域で支え合う ～アロマネットワーク～	
全体 全体にかかること	

1 芝地区防災力向上プロジェクト

分類	修正内容	グループ
提言説明文への追加・修正	【提言1】次計画の方向性が伝わるような表現が入るとよい。	A
（例えば）への追加・修正	【提言1】「マンション等」を「マンション（管理会社・管理組合）」と修正する。	B

2 エコ芝 教室

分類	修正内容	グループ
提言（キャッチフレーズ）への追加・修正	【提言1】「何について？」学ぶのか、活動するのかを明確にする。「ゴミの削減」、「エコ」、「CO2削減」等	B
（例えば）への追加・修正	【提言1】会社名は削除するべき。	B
提言（キャッチフレーズ）への追加・修正	【提言2】「地域に密着した活動の実施」と修正する。	C
（例えば）への追加・修正	【提言2】（例えば）への追加・エコライフなどと（有栖川宮記念公園）、廃油や園芸土の回収など、地元で密着したイベントに参加する。	C
（例えば）への追加・修正	【提言2】「・参加者が身近でできることを取り上げ、YouTubeで配信する」は実際には動画の編集等、ハードルが高いので、入れるのは微妙だ。なれている人の手を借りるのが前提になるのではないかな。	C

3 ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～

分類	修正内容	グループ
（例えば）への追加・修正	【提言1】情報交換の場も必要なので、仕組みづくりの視点を追加してほしい。	A
提言説明文への追加・修正	【提言1】地域とのつながりの他、他の9事業とのつながりを作ることが重要。	B
（例えば）への追加・修正	【提言2】修了生の取組に、「月1回の情報交換の様子を見せる」を追加する。	A
提言（キャッチフレーズ）への追加・修正	【提言2】「認知度を高める」のではなく、「活動の場・機会を作ること」と表現したほうが良い。	B

4 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト

分類	修正内容	グループ
（例えば）への追加・修正	【提言1】・ご近所ラボ新橋ではサラリーマンが興味「をもつ」イベントに修正する。	A
提言（キャッチフレーズ）への追加・修正	【提言2】「より利用しやすい空間をつくる」について、「空間」だと提言がぼやけるので、相応しい表現に修正してほしい。	A
（例えば）への追加・修正	【提言2】「活動のボランティアを募る」のはどうか。	B
（例えば）への追加・修正	【提言2】（例えば）への追加・他の地域事業との協力・連携	C

5 芝 BeeBee's プロジェクト

分類	修正内容	グループ
提言（キャッチフレーズ）への追加・修正	【提言1】「多世代交流の促進」と修正する。 「と自然とふれあう機会の創出」は削除する。	A
提言説明文への追加・修正	【提言1】「もっとかかわってもらうためには、」ミツバチの飼育をとおして～と修正する。	A
（例えば）への追加・修正	【提言1】「養蜂活動以外の取組も導入し、」を具体的な表現に修正してほしい。	A
（例えば）への追加・修正	【提言1】の（例えば）を【提言2】の（例えば）に移動する。 ・ミツバチの好む植物の種を配布して緑や花を増やす活動につなげる	A
（例えば）への追加・修正	【提言1】「養蜂活動以外の活動」という表現が曖昧。具体的に何をするのかを表記するべき。 「ストーリーを作る」というより「ビデオを作る」「SNSを利用してレシピを公開する」など具体的な表現をしたほうが良いのでは。	B
（例えば）への追加・修正	【提言2】（例えば）への追加 ・ソーシャルメディアの活用（メンバーも発信）	C

6 芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～

分類	修正内容	グループ
提言（キャッチフレーズ）への追加・修正	【提言1】「～取組手法の導入」が縮小の表現になっていないので、相応しい表現に修正してほしい。	A
提言（キャッチフレーズ）への追加・修正	【提言1】もしこの事業を継続するのなら「トランスボックス」だけにして、絵の枚数を多くするべき。	B
提言（キャッチフレーズ）への追加・修正	【提言1】「地域への」愛着を深め～と修正する。	C
提言説明文への追加・修正	【提言1】～多様な区民が参加できる取組「を」再検討～と修正する。	A
（例えば）への追加・修正	【提言1】（例えば）への追加 ・トランスボックスは深掘りし、ワークショップは廃止することを検討する。	A
（例えば）への追加・修正	【提言1】絵の掲示以外でも多様な区民が参加できる取組の手法を検討する。	C
（例えば）への追加・修正	【提言1】（例えば）への追加 ・支所内の美術館等と連携	C

7 芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～

分類	修正内容	グループ
提言（キャッチフレーズ）への追加・修正	【提言1】「多様な人々のニーズに合わせた」→「社会貢献の役割を兼ね備えた」と修正する。	A
（例えば）への追加・修正	【提言1】（例えば）への追加 ・有料化を検討しても良いのでは。	C
提言説明文への追加・修正	【提言2】～質を高めている。「より継承できる手法を構築するため、」語り部の～と修正する。	A
（例えば）への追加・修正	【提言3】若い人が参画してシステム化を行うことが必要。 ツアーに行かず、マップのみというやり方もあり。	B
その他	事業費を拡大するべき。	B

8 Arc Island 竹芝

分類	修正内容	グループ
（例えば）への追加・修正	【提言1】「竹芝エリアのにぎわいづくりを中心に～」について、このままだとぼやけるので、「にぎわいづくり」を具体的な表現に修正してほしい。	A
提言説明文への追加・修正	【提言1】まずは竹芝ふ頭に集客することを考え、島しょ部の魅力だけでない魅力づくりを考えてはどうか。水上バスとか。	B
提言（キャッチフレーズ）への追加・修正	【提言2】「情報の発信」というより「きっかけづくり」のほうが良い。イベントを開催したり、ジョギング・ウォーキングしたくなるような魅力づくりとか。魅力的な案内板。イルミネーション。音楽イベント。	B

9 芝・ネイチャー大学校

分類	修正内容	グループ
提言説明文への追加・修正	【提言1】現行のプログラムを「改善する」と修正する。	A
（例えば）への追加・修正	【提言1】（例えば）への追加 ・一緒に相応しい名称を再検討する。	C
提言（キャッチフレーズ）への追加・修正	【提言2】芝地区内社会科見学の拡充の「科」を削除する。	A
提言説明文への追加・修正	【提言2】芝地区内企業との連携「を拡充させる」と修正する。	A
（例えば）への追加・修正	【提言3】「子ども達だけ」というだけでは心配。引率の仕方については言及するべき。	B
その他	【提言3】「対象者や参加要件のあり方の見直し」が一番大事なので、1番目の提言にした方がよい。	A
その他	まずは名称を変えるべき。小学生が主役なら「大学校」ではないだろう。農林業を対象としているのだからネイチャーでもない。「自然のめぐみ学校」とか「海の幸山の幸学校」とか。	B

10 地域で支え合う ～アロマネットワーク～

分類	修正内容	グループ
提言説明文への追加・修正	【提言1】「誰もが住み慣れた地域で」いきいきと暮らし続けられるよう～と修正する。	C
(例えば)への追加・修正	【提言1】「アロマは活用しつつ」を削除する。	A
その他	アロマに拘る必要は無いのではないかと。「地域高齢者の支えあい」「高齢者の引きこもり対策」というだけで良いのでは。そこから、町会・自治会と一緒に、具体的な交流の仕方を考えるべきである。	B

全体にかかること

分類	修正内容	グループ
その他	全ての事業の横のつながりを作り、相乗効果を持たせるべき。特にご近所イノベーションの修了生が各事業に参画できるようにするべき。	B
その他	各事業の情報発信は、共通のポータルサイトを作るべき。	B

芝地区版計画推進部会 第12回 記録

●地域事業

- 1 芝地区防災力向上プロジェクト
- 2 エコ芝 教室
- 3 ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～
- 4 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト
- 5 芝 BeeBee' s プロジェクト
- 6 芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～
- 7 芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～
- 8 Arc Island 竹芝
- 9 芝・ネイチャー大大学校
- 10 地域で支え合う ～アロマネットワーク～

●分類

- ・提言（キャッチフレーズ）への追加・修正
- ・提言説明文への追加・修正
- ・（例えば）への追加・修正
- ・その他

全体 全体にかかること

1 芝地区防災力向上プロジェクト

分類	修正内容
(例えば)への追加・修正	【提言1】町会に未加入のマンション「管理組合等関係者」と修正する。

2 エコ芝 教室

分類	修正内容
提言（キャッチフレーズ）への追加・修正	【提言1】より多くの方が「エコロジーを」と修正する。
提言説明文への追加・修正	【提言1】様々な「エコロジーに」と修正する。
その他	事業者と企業の表現が混在しているので、事業者に統一する。

3 ご近所イノベーション学校 ～芝に幸せをよぶ人づくり～

分類	修正内容
(例えば)への追加・修正	【提言2】修了生の取組（月1の情報交換会の様子や活動内容、活動場所、時間等）を「HP、SNS等」と修正する。

4 地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト

分類	修正内容
(例えば)への追加・修正	【提言2】「あらゆる区内在住在勤の人々を住民や地域の活動にを取り込んで地域のつながりをつくる」→「地域の活動を取り込んで、人々のつながりをつくる」と修正する。
(例えば)への追加・修正	【提言2】「芝地区が実施している」他の地域事業～と修正する。

5 芝 BeeBee' s プロジェクト

分類	修正内容
提言説明文への追加・修正	【提言1】ミツバチの飼育をとおして「対面での」を削除する。
(例えば)への追加・修正	【提言2】「地区内外のより多くの人に活動を知ってもらう機会を増やすため、他区が実施する養蜂事業との交流を図る」→「地区内外で実施されている養蜂事業同士の交流を図り、幅広く認知度を上げる。」と修正する。
(例えば)への追加・修正	【提言2】「レシピの共有等、しばみつの活用例の情報交換をとおして、情報交換を図る」→「SNS等をとおしてレシピの共有等、しばみつの活用例の情報交換する。」
(例えば)への追加・修正	【提言2】「ソーシャルメディアを活用する」について、ソーシャルメディアまたはSNSにするのか表現を統一する。
(例えば)への追加・修正	【提言2】「芝 BeeBee' sメンバーによる情報発信でソーシャルメディア/SNS?を活用する」←事務局で上の・と合わせてシンプルにする
その他	【提言2】多世代交流の「推進」または「促進」のどちらにするか表現を統一する。

6 芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～

分類	修正内容
(例えば)への追加・修正	【提言1】「芝地区の多様な主体と連携する。」この事業で連携する主体が見えないので、輪郭がはっきりするような表現を事務局で提案する。

7 芝 歴史・文化・交流アカデミー ～歩く・見る・学ぶ「芝」～

分類	修正内容
(例えば)への追加・修正	【提言2】資料「や情報」収集～と修正する。

8 Arc Island 竹芝

修正なし

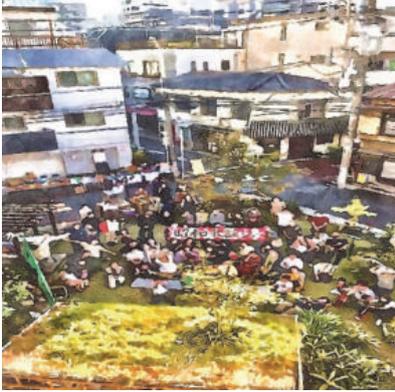
9 芝・ネイチャー大学校

分類	修正内容
(例えば)への追加・修正	【提言2】「事業内容に合わせた」相応しい名称を～と修正する。
提言(キャッチフレーズ)への追加・修正	【提言3】芝地区「における」社会見学～と修正する。

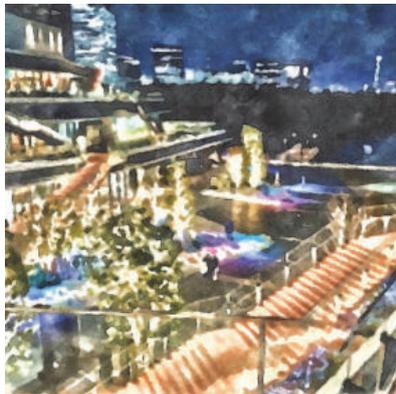
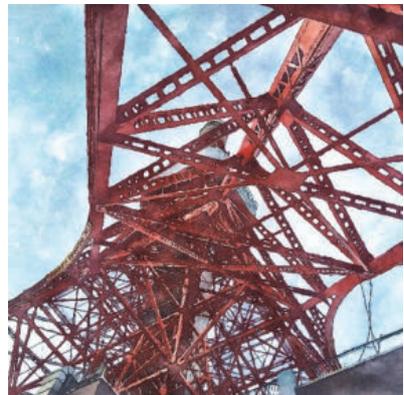
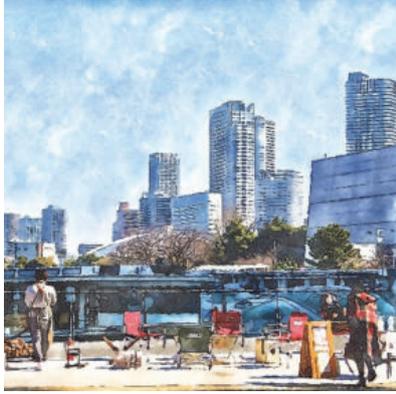
10 地域で支え合う ～アロマネットワーク～

分類	修正内容
(例えば)への追加・修正	【提言2】「アロマハンドマッサージ体験を設けて、」を削除する。

2 芝地区の日常



部会メンバーから集めた表紙に載せきれなかった素材を掲載しています。



【表紙について】

部会のメンバーから集めた素材で表紙をつくりました。
場所は以下のとおりです。

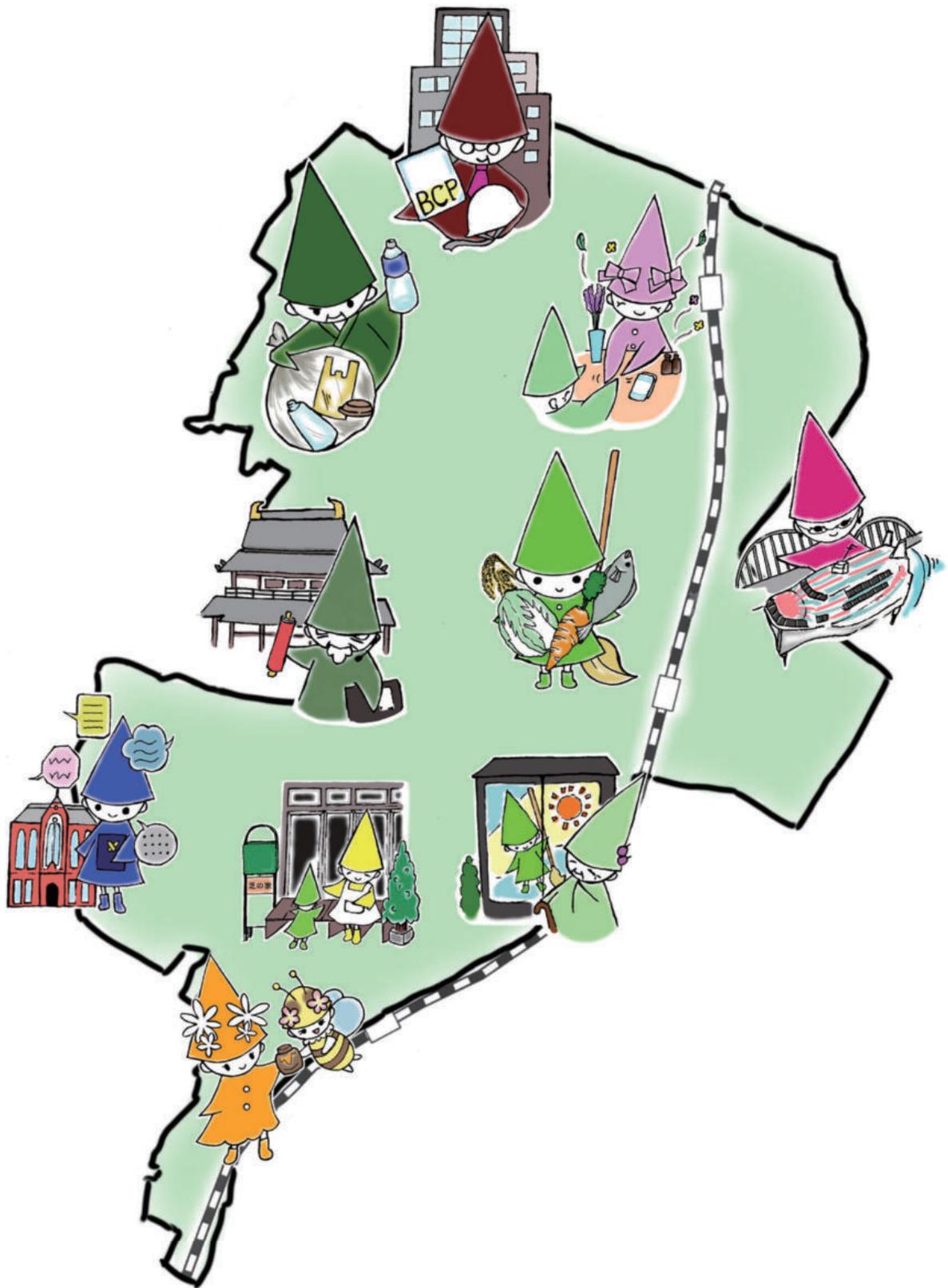
慶應義塾 図書館旧館	区立芝公園	東京タワー
東京ポート シティ竹芝	増上寺	
	「芝地区」	
汐留から望む竹芝地域		芝の家
芝のはらっぱ		
「提言書」		

「芝地区」と「提言書」の文字：外山真理
裏表紙の絵：藤井裕子

港区基本計画・芝地区版計画書の改定に向けた提言書

令和5（2023）年3月

港区芝地区区民参画組織・芝会議「地区版計画推進部会」



港区芝地区 区民参画組織
芝会議・地区版計画推進部会